

富島遺跡

(本文編)

2007年3月

兵庫県教育委員会

淡路市（旧津名郡北淡町）

富島遺跡

(本文編)

2007年3月

兵庫県教育委員会



富島遺跡遠景



B地区 石棺1



B地区 石棺2

カラー図版2



B地区 石棺3



B地区 石棺5



B地区 石敷炉



B地区 旧河道(SR01) イイダコ壺出土状態



F地区 SH01



F地区 壺



A地区 縄文土面



274

B地区 窩



F地区 SH01



F地区 SK01



製塙土器



製塙土器



タコ壺



コップ形イイダコ壺



釣鐘形イイダコ壺



マダコ壺



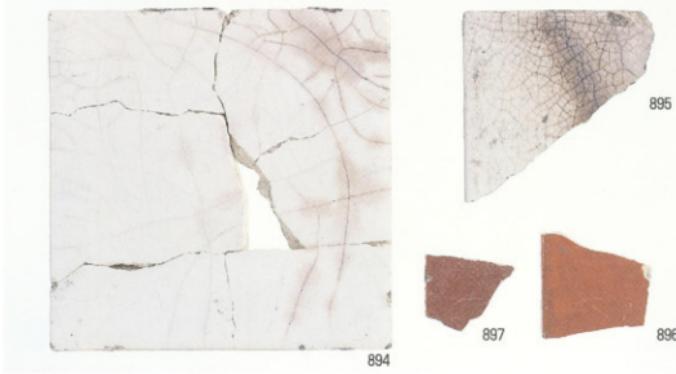
土錘



墨書き土器



出土銭貨



乾式タイル

例　言

1. 本書は淡路市（旧津名郡北淡町）富島に所在する富島遺跡の発掘調査報告書である。
2. 富島遺跡は、1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）の震災復興事業の遺跡調査である。
3. 本書は都市基盤整備公団（のちに独立行政法人）が計画・施工した富島地区震災復興土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書である。
4. 確認調査は、平成8年度から平成12年度に行なった。8年度から11年度の4ヵ年は富島土地区画整理事業組合が主体となって計画を進行し、北淡町教育委員会を調査主体として実施した。調査は川吉知子と兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所復興調査班が担当した。他県からの支援職員の応援を戴いて調査を行なった。
5. 平成12年度は事業主体が都市基盤整備公団となり、兵庫県教育委員会が調査主体となって実施した。
6. 本発掘調査は平成13年度から17年度にかけて実施した。工事の進捗に合わせて本発掘調査を実施している。回数も多く計24回となっている。調査面積は狹小な部分が多く、調査深度も震災復興事業であることから掘削深度に即している。
7. 調査は兵庫県教育委員会が調査主体となって実施した。調査次数が多いこともあって、次数ごとに担当者は変わっている。
8. 調査で使用した方位は国上座標第V系を使用した。また、水準は都市基盤整備公団設定のB.M.を使用した。
9. 遺構図・土層断面図など図面は調査員が実測した。
10. 遺構写真は調査担当者が撮影したものである。図版1の空中写真是国土地理院撮影のものを使用した。
11. 整理作業は、平成16年度から18年度の3ヵ年で行なった。平成17・18年度は淡路市（建設課）と委託契約をかわして兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所で実施した。
12. 執筆は各担当者が行い、編集は森本貴子・岡崎輝子・川村由紀の協力を得て渡辺が行った。
13. 本書にかかる遺物や図面・写真などの資料は、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所（神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号）ならびに魚住分館（明石市魚住町清水立合池の下630-1）に保管している。ご活用ください。
14. 発掘調査・整理調査にあたって、地元関係者をはじめ多くの方々・機関のご協力・ご指導を得ました。感謝致します。



図1 淡路市(旧津名郡北淡町)の位置

本文目次

Iはじめに	渡辺
1. 調査に至る経緯	1
2. 第1次確認調査の経過（補助金・北淡町主体事業）	1
3. 第2次確認調査の経過	2
4. 本発掘調査の経過	3
5. 整理調査の経過	4
II位置と環境	川吉
III調査の概要	
1. 確認調査の結果	15
2. 平成12年度の調査	15
3. 平成13年度の調査	20
4. 平成14年度の調査	20
5. 平成15年度の調査	23
6. 平成16年度の調査	32
IV調査結果	
1. A地区	藤田
2. B地区	渡辺・平田・藤田
3. C地区	渡辺
4. D地区	渡辺
5. E地区	川吉・渡辺・藤田
6. F地区	深井
V出土遺物	
1. 縄文土器・土製品	深井
2. 弥生土器	渡辺
3. 古墳時代の土器	渡辺
4. 製塙土器	渡辺
5. 古代の土器	渡辺
6. 中世以降の土器	岡田
7. タイル	深井
8. タコ壺	渡辺
9. 土錐	渡辺
10. 金属器	渡辺
11. 石器と石製品	藤田
12. 人骨	藤田
13. 動物遺存体	藤田
VI放射性炭素年代測定	（株）パレオ・ラボ
VIIおわりに	渡辺

I はじめに

1. 調査に至る経緯

富島遺跡は淡路市（旧津名郡北淡町）富島の市街地に広がる周知の埋蔵文化財包蔵地である。

1995年1月17日午前5時46分に起きた兵庫県南部地震によって、甚大な被害を受けた地域である。震源である野島断層が北淡町を走り、富島遺跡の北東方向に位置しており、富島近くが野島断層の端部となっている。南側には浅野断層が通っている。そのことから阪神淡路大震災の震源地の一つとして北淡町は報道され知られることとなった。その中でも富島は集落が密集していることもあって、被害が集中した地区である。北淡町役場が位置し、商業・漁業・工業の中心として人口密度が高いこともあるが、北淡町では最大の被害を受けている。野島断層は地表に露出したことからもあって、小倉地区・野島平林地区・野島江崎地区で断層の状況が顕著に確認されることから、天然記念物として国指定されている。

激震被害地を中心に震災復興区画整理事業が計画され、それに伴って埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われていた。北淡町都市整備事務所と北淡町教育委員会の間で協議を行っていたが、北淡町では十分な詳細分布調査が実施されていなかった。この時点では富島遺跡・富島西遺跡・机遺跡が存在しているだけであった。震災による復旧復興調査による基本方針では周知の埋蔵文化財包蔵地を対象とするとされているが、現実的な遺跡の広がりを把握することが急務かと思われた。

両者による協議の結果、事業用として先行取得した土地を対象として、遺跡の広がり・遺跡の深度を確認するための確認調査を実施することになった。

2. 第1次確認調査の経過

北淡町では復旧復興調査の最大の調査対象として富島地区区画整理事業は位置づけられていた。事業を円滑に進めるためにも遺跡の広がりなどの資料を得る必要があるので、早急な確認調査の必要が求められていた。確認調査は、阪神淡路大震災の復旧・復興事業の一環として、文化庁の埋蔵文化財緊急調査国庫補助事業として実施した。調査主体は北淡町教育委員会である。

①平成8年度の経過

平成8年度は、年度末の1997年3月19日から31日まで実施した。確認調査は北淡町が先行取得した地点8ヶ所にトレーナーを設定して行った。調査終了後は埋め戻し作業も行った。

調査の組織

調査主体 北淡町教育委員会

教育長 境 茂

社会教育課長 保地千弘

事務局 竹沢好生・谷本茂文・岡部清美

調査担当 北淡町教育委員会

社会教育課 川吉知子（埋蔵文化財専門職員）

②平成9年度の経過

平成9年度は、同様に継続して確認調査を実施する予定であった。数地点ごとに断続的に調査をするより、まとまつて調査とした方が効率がよいと判断したことから、1997年11月19日から12月19日に同じく北淡町教育委員会を調査主体として実施した。ただ、調査員は兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所復興調査班に支援依頼があり、調査員

の派遣を行った。調査地点は52ヶ所で、昨年度同様トレンチ調査を行った。2ヵ年の調査成果について北淡町教育委員会から『富島遺跡-北淡町震災区画整理事業に伴う確認調査』として概要報告書が刊行されている。それによって、一応の遺跡の範囲が提示されることになった。

調査の組織

調査主体 北淡町教育委員会

教育長 境 茂

社会教育課長 保地千弘

事務局 山本甚子・谷本茂文

下原 渉・川吉知子

調査担当 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

復興調査班 岡山真知子（徳島県派遣）

大久保浩二（鹿児島県派遣）

水口富夫

調査指導 岡 義記（鳴門教育大学教授）

木原克司（鳴門教育大学教授）



調査風景

3. 第2次確認調査の経過

①平成10年度調査の経過

昨年度以降で調査可能な地点について確認調査を実施した。調査は1998年6月29日の1日間実施した。12m²、3ヶ所の確認調査である。

調査の組織

調査主体 北淡町教育委員会

教育長 境 茂

社会教育課長 保地千弘

事務局 山本甚子・谷本茂文・下原 渉・川吉知子

調査担当 北淡町教育委員会 川吉知子

②平成11年度調査の経過

確認調査が十分でなかった事業地西側部分に4ヶ所の確認トレンチを設定して調査を行った。北淡町教育委員会を調査主体としたが、支援依頼により兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所職員が調査を担当した。調査は1999年1月12・13日の2日間実施し、21m²の調査を行った。

調査の組織

調査主体 北淡町教育委員会

教育長 境 茂

社会教育課長 中谷公一

事務局 山本甚子・谷本茂文・下原 渉

調査担当 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

復興調査班 小川良太

企画調整班 深井明比古

③平成12年度調査の経過

今年度から北淡都市計画事業の中で、富島震災復興土地区画整理事業は都市基盤整備公団が事業主体となって事業を遂行することになった。それに伴って、遺跡の調査主体も兵庫県教育委員会に変更され、埋蔵文化財調査事務所が担当することになった。

富島遺跡範囲は暫定的に把握しているものの、確実なものではなかった。その範囲を正確にするために今年度も確認調査を実施し、遺跡範囲確定を行った。調査は2000年11月21日から30日まで実働7日間実施し、22ヶ所のトレンチ調査(88m²)を行った。調査方法は従前と同様に機械・人力を併用して行った。

調査の組織

調査主体 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

事務担当 企画調整班 調査専門員 山本三郎

主査 吉誠雅仁

調査担当 企画調整班 調査専門員 山本三郎

主査 多賀茂治

4. 本発掘調査の経過

①平成13年度調査の経過

昨年度で富島遺跡の範囲を確定した。都市基盤整備公団も富島震災復興土地区画整理事業の基盤整備を今年度から実施されることになった。今年度は遺跡範囲内では89街区周辺が工事施工の対象となったので、この部分について調査を実施した。2001年4月10日～19日の実働7日間を費やして調査を実施した。

本事業は震災復興事業であることから、阪神淡路大震災復興事業の基本方針に則って調査を実施した。調査最終年度まで同様である。調査は原則として工事施工の掘削深度までを対象としている。概ね、公園・宅地用地は現地表下1mまで、道路用地は現地表下1.2～1.5mまでを対象とする。ただし、公園・宅地用地で擁壁部分はさらに0.5m前後深度が深くなる。地盤改良を行う地点は個々の深さに順じている。この部分についてを本調査の対象としたが、当然調査を着手した段階で擾乱が多い地点や遺構面が残存していない地点は除外している。このような恐れのある範囲については、一部トレンチを設定して本調査範囲を確定する場合もあった。また、掘削深度が遺構面に達さないと思われる地点については、立会調査を行っている。街区のガラ撤去は基本的に立会調査とした。その後、基礎部分・擁壁部分を対象として本発掘調査を実施した。

調査の組織

調査主体 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

事務担当 企画調整班 主任調査専門員 井守徳男

主査 深井明比古

調査担当 調査第4班 調査専門員 西口和彦

主査 藤田淳

技術職員 小川弦太

②平成14年度調査の経過

事業進捗に合わせて今年度は5回の調査を実施した。2002年6月17日を最初として2003年2月4日まで断続的に合計22日間を費やして、計1,664m²を調査した。14地点の本発掘調査と11地点の立会調査を実施した。

調査は工事に合わせて行ったことから、断続的な調査となった。震災復興事業であることから、住宅再建事業を遅らすことになる調査を待たすことは最小限にとどめる必要がある。しかし、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所では年間の調査計画に即して調査を進めており、急な対応は困難な場合が予想された。そのことから、地元北淡町教育委員会に応援依頼を行い、今年度に限って一部調査をお願いした。

調査主体 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

事務担当 企画調整班 主任調査専門員 井守徳男

主査 深井明比古

調査担当 調査第1班 主査 渡辺 昇

調査第2班 主査 西口圭介

北淡町教育委員会 川吉知子

③平成15年度調査の経過

平成15年度も昨年度に引き続いて、工事計画に先んじて断続的に12回の調査を実施した。2003年4月24日から2004年3月3日までの実働48日間実施した。計1,769m²を調査した。14地点の本発掘調査と11地点の立会調査を実施した。

事務担当 企画調整班 主任調査専門員 井守徳男

主査 深井明比古

調査担当 企画調整班 主査 深井明比古

調査第1班 主査 渡辺 昇

主査 平出博幸

主査 鐘 英記

調査第3班 主査 藤田 淳

④平成16年度調査の経過

平成16年度も昨年度に引き続いて、工事計画に先んじて断続的に調査を実施した。2004年4月8日から2005年3月18日までの実働17日間実施した。計891m²を調査した。11地点の本発掘調査と7地点の立会調査を実施した。

事務担当 企画調整班 主幹 補老拓治

主査 深井明比古

調査担当 企画調整班 主査 深井明比古

調査第1班 主査 渡辺 昇

調査第3班 主査 藤田 淳

5. 整理調査の経過

一部の作業については発掘調査中などに実施していたが、本格的には平成16年度から18年度まで3ヵ年をかけて行った。兵庫県教育委員会が調査主体となり、埋蔵文化財調査事務所で実施した。平成16年度は台帳作成・水洗い・注記・接合作業などから着手し、平成17年度は実測・拓本作業と金属器の保存処理を実施した。平成18年度は残りの実測作業から遺物写真撮影・編集を行い報告書を刊行した。



調査風景

調査の組織

調査主体 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

		16年度	17年度	18年度
事務担当	総務課	所長 平岡憲昭 主幹 大西義明 課長 織田正博	平岡憲昭 大西義明 池田正男	平岡憲昭 若生晃彦 池田正雄
	整理保存班	主任調査専門員 池田正男 主査 妻田淳子	妻田淳子	菱田淳子
調査管理	整理保存班	主査 村上泰樹 担当課長補佐	別府洋二	岡田章一

(平成16年度)

調査員 深井明比古・渡辺 昇・藤田 淳

嘱託員 長谷川洋子・伊藤ミネ子・川上 緑・衣笠雅美・江口初美・家光和子

早川亜紀子

(平成17年度)

調査員 深井明比古・渡辺 昇・藤田 淳

嘱託員 岡崎輝子・眞子ふさ恵・島村順子・木村淑子・中田明美・川村由紀

(平成18年度)

調査員 渡辺 昇・藤田 淳

嘱託員 森本貴子・岡崎輝子・眞子ふさ恵・友久伸子・岸野奈津子・西口由紀・木村淑子・川村由紀・佐伯純子・奥野政子・長川加奈子・三島重美

(保存処理)

調査員 藤田 淳・岡本一秀

嘱託員 栗山美奈・三好綾子・藤井光代・三島重美



調査風景

第1表 富島遺跡調査一覧表

平成13年度 調査一覧表

No.	調査番号	担当者	調査面積	調査期間	調査区	主な遺構
1	2001001	西口和彦 藤田 淳 小川聰太	570m ²	4.10~19	A地区	土坑、溝

平成14年度 調査一覧表

No.	調査番号	担当者	調査面積	調査期間	調査区	主な遺構
1	2002054	西口圭介 川吉知子	1220m ²	6.17~7.16	13号線-1、14号線-1・2、39号線-1・2、 74街区-1・2、75街区-1、77街区-1~3	製塙炉、土坑
2	2002182	渡辺 昇	142m ²	11.11~19	13号線-2、75街区-2、77街区-4、 79街区-1	製塙炉、掘立柱建物跡
3	2002198	渡辺 昇	12m ²	12.2	14号線-3、43号線-1	
4	2002218	渡辺 昇	307m ²	12.20	14号線-4、59街区-1	
5	2002228	渡辺 昇	60m ²	15.24	39号線-3、75街区-3	焼土層

平成15年度 調査一覧表

No.	調査番号	担当者	調査面積	調査期間	調査区	主な遺構
1	2003070	渡辺 昇	320m ²	4.24~5.20	10号線-1・2、34号線-1、80街区-1・2	製塙炉、土坑
2	2003125	渡辺 昇	60m ²	7.2・7.3	10号線-3	
3	2003139	渡辺 昇	233m ²	7.28~8.6	33号線-1・2、80街区-3	製塙炉、石棺、土坑
4	2003146	渡辺 昇	52m ²	8.19	33号線-3、34号線-2・3、80街区-4	製塙炉
5	2003153	藤田 淳	134m ²	9.1~9.5	10号線-4・5、33号線-3	掘立柱建物跡、石棺
6	2003163	深井明比古	65m ²	9.18	10号線-6、78街区-1・2	土坑
7	2003171	平田博幸	318m ²	9.29~10.10	10号線-7・8、78街区-3~8	掘立柱建物跡、石棺、丹戸、集石遺構
8	2003208	深井明比古	40m ²	11.13	10号線-9~11	柱穴
9	2003222	深井明比古	254m ²	12.2~12.9	10号線-12・13、14号線-5	堅穴住居跡
10	2003237	深井明比古	114m ²	1.15・1.16	10号線-14・15、34号線-4	柱穴
11	2003242	深井明比古	161m ²	1.21	34号線-5	集石遺構
12	2003288	黒 美記	18m ²	3.3	58街区-1	

平成16年度 調査一覧表

No.	調査番号	担当者	調査面積	調査期間	調査区	主な遺構
1	2004042	渡辺 昇	29m ²	4.8	77街区-5	
2	2004173	渡辺 昇	29m ²	5.31	18号線-1、46号線-1、45街区-1	
3	2004188	渡辺 昇	40m ²	7.8	58街区-2	
4	2004195	深井明比古 黒 美記	168m ²	7.27~29	14号線-6、33号線-5、79街区-2	掘立柱建物跡、土坑、溝、ピット
5	2004211	深井明比古	533m ²	9.8~15	14号線-7、38号線-1・2、76街区-1、 77街区-6	
6	2004258	深井明比古	432m ²	11.2	18号線-2・3	
7	2004303	深井明比古	13m ²	3.11	歩行者専用2号線-1	
8	2004314	渡辺 昇	50m ²	3.17~18	歩行者専用2号線-2	土坑

II 位置と環境

地理的環境

淡路島は、瀬戸内海の東端に位置し、周囲約174km、面積約597km²を有する瀬戸内最大の島である。明石海峡、鳴門海峡、紀淡海峡の三つの海峡を隔てて本州・四国と対峙している。

地形的には大きく南北に二分され、南部には先山山地、諭鶴羽山地、西淡山地等から流れる成相川、三原川、大口川等の河川が三原平野を形成している。一方、北部は北東-南西方向へ細長く延びる津名山地と、両側の山麓域に幅狭く付着する丘陵と台地・低地から構成される。この山地は両側が急斜面をなし、山頂部に緩やかな定高性（標高200m～300m）のある小起伏の地形が広がる。この急斜面の基部には活断層が発達し、西側が野鳥断層や浅野断層、東側が楠本断層や東浦断層によって限られている。津名山地は、東西に横断する志筑断層によりさらに南北に二分されている。津名山地の周囲は丘陵及び台地が発達し、河成による高位・中位・低位・最低位段丘面が形成されている。海岸部に沿って沖積層で構成された低地が細長く分布している。

地質的には、北部の津名山地は主として六甲山地から連続する領家帯の花崗岩類によって構成され、東西の活断層により第四紀に入ってから隆起を続けており、1995年には津名山地西側沿いに存在する野鳥断層再活動により兵庫県南部地震が発生し、山地北側頂部は約20cm～80cm隆起している。津名山地の一部では第三紀層である神戸層群岩屋累層が見られる。淡路市野鳥常盤ではカキを中心とした貝化石層が石灰岩化し、それを侵食して形成された野鳥鍾乳洞（兵庫県指定天然記念物）が1964（昭和39）年に発見された。一方、断層を境にした海岸部の丘陵と台地・低地は基部が大阪層群で構成され、その上に沖積土が堆積している。

気候は温暖少雨の瀬戸内気候に属し穏やかである。四季折々の季節風が吹き付けるが、内海の穏やかな海であることは間違いない、立地上からも、古来より海上交通の要衝であったと考えられる。

富島地区は、淡路市の北西部に位置し、東は小倉川、西は富島川に挟まれた地区である。富島地区でもまた淡路島西侧に特徴的な播磨灘を渡る北西の季節風をともに受けるのだが、前面の海域は「鹿の瀬」と呼ばれる東西約20km、南北約5kmの範囲の浅瀬が存在し、瀬戸内海最大級の漁場となっている。「鹿の瀬」では多くの魚類が生息し、また現在の網漁の際にには幼生時代以降のイイダコツボなどの漁具や東播系須恵器などが引き上げられ、貴重な「海があり」の資料となっている。

富島地区の中央部に谷川が流れているが、その他にも津名山地から続く丘陵から流れ込んでいたと考えられる谷地形が多く認められる。また、現在の富島港周辺は、1927（昭和2年）の埋立地である。富島地区の北には、旧海岸線に沿って県道福良井岩屋線がほぼ東西に走り、富島地区の中央を市道（通称中道）がほぼ東西に走っている。県道南で市道（中道）北にあたる旧北淡町南厅舎新築工事に伴う土質調査報告書（1994年11月調査）によると、-490mまで沖積層（砂礫層と砂層）で、基盤は大阪層群である。これは前述の地質構造を裏付けるとともに、海浜部であったことを示している。また、富島地区は風水害の被害も多く受けしており、河川氾濫や土砂崩れによる堆積物が厚く堆積している。

また富島地区は1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震（被災名：阪神・淡路大震災）により活動した野島断層のすぐ北側に当たる。野島断層は江崎灯台付近から野島川までの長さ約7km、活動度B級の活断層として認定されていたが、地震発生後確認された野島地震断層は從来認定されていた野島断層の活断層線に忠実に沿って出現し、また從来確認されていなかった野島川～富島までの約3kmと柴本から舟木へかけて約1.2kmの2本に分かれて出現した。このうち野島川～富島までの地震断層は大阪層群の中を野島断層の一般走向（N50°E～60°E）を保ったまま、富島地区まで出現した。その一部約185mが小倉地区で保存され、国の天然記念物に指定された。またその延長にあった水

越後曲に沿って富島の南方である石田地区でも地震断層が認められた。地震を発生させた活断層である野島断層が至近距離に存在したこと、富島地区は壊滅的な被害を受けた。すでに述べたように、富島地区は中道から北側（海側）では大阪層群の上は砂層または砂礫層であり、また中道から南側（山側）も大阪層群の上は厚い砂礫層であり、地震による揺れは大変大きく、震度7を記録した。

富島遺跡は上記のような富島地区の集落の中でも西側にある丘陵上及び丘陵裾部に位置する。富島小学校や興久寺などが存在する丘陵上およびその丘陵裾部に広がる部分と、少し東側にある大歳神社を中心とする丘陵裾部に遺跡は広がる。西側の丘陵と東側の丘陵の間には小さな谷があることが現在までの調査で明らかになっている。富島小学校や興久寺などが存在する丘陵上およびその丘陵裾部に広がる区域は海にむかって張り出したような地形であり丘陵上から中腹にかけては山地から流入したと考えられる花崗岩が風化して粘土化した土層となっている。そのため大変多くの鉄分を含み、大きな自然鉄も見られ、土色は大変赤く見える。遺跡の現況は宅地であるが、その下には旧耕土があり、中世以降の遺物を含んでおり、中世までの集落が近世になるとより海岸部へ移っていくとの同時に、近世以降は棚田として使われていたものが、近代以降にまた宅地となつたようである。丘陵裾部になると周辺の谷地形から流れ込んだであろうと考えられる砂礫層の上によくしまった砂層が堆積している。現状は宅地であるが、そのまま下に古墳時代～古代の包含層があり、住宅の基礎をほとんど打ち込んでいたため、よく保存されている。東側にある大歳神社を中心とする丘陵中腹～裾部は大歳神社に向かって海が湧入しており、東側から大歳神社にかけて延びる丘陵中腹部から旧海岸線付近に立地している。この区域でも西側の丘陵および丘陵裾部と同様の土層が見られる。西側では縄文後期の土器が確認されており、東側でも弥生前期の土器が確認されていることから、昔から地盤のよい土地として、また交通の要衝としてここに入間がずっと住み続けてきたのであろう。実際、富島遺跡の中心では阪神・淡路大震災での建物の倒壊率は富島地区の中でも驚くほど低く、ほとんどの住宅が残っていたこともそれを示していると思われる。

また、余談ではあるが、あまりにも多くの自然鉄を含んでいることから「丹」（ベンガラ）にかかるものも考えておく必要がある。実際、富島の南にある山間部は「仁井」地区とよばれており、これは「丹」の変化したものか、「丹（ベンガラ）」の材料である自然鉄を掘った後の井戸状の穴を示した可能性がある。

このように富島遺跡は立地上、縄文時代には海辺の集落として、それ以降も海浜部および丘陵中腹を主とする海に関係の深い遺跡として存在しつづけていったのである。

参考文献

1. 「北淡町誌」北淡町 1975
2. 水野清秀ほか編『明石地域の地質』通商産業省工業技術院地質調査所 1990
3. 活断層研究会編『新編日本の活断層－分布図と資料』東京大学出版会 1991
4. 市原尖編『大阪層群』創元社 1993
5. 中田高ほか編『野島断層【写真と解説】』野島断層活用委員会・北淡町教育委員会 1999
6. 渡辺昇ほか編『貴船神社遺跡』兵庫県教育委員会 2001

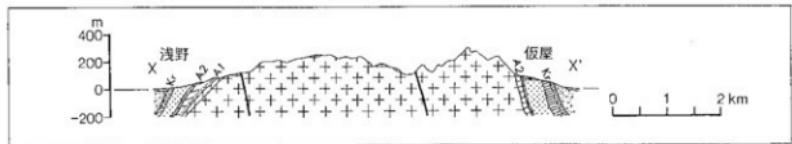
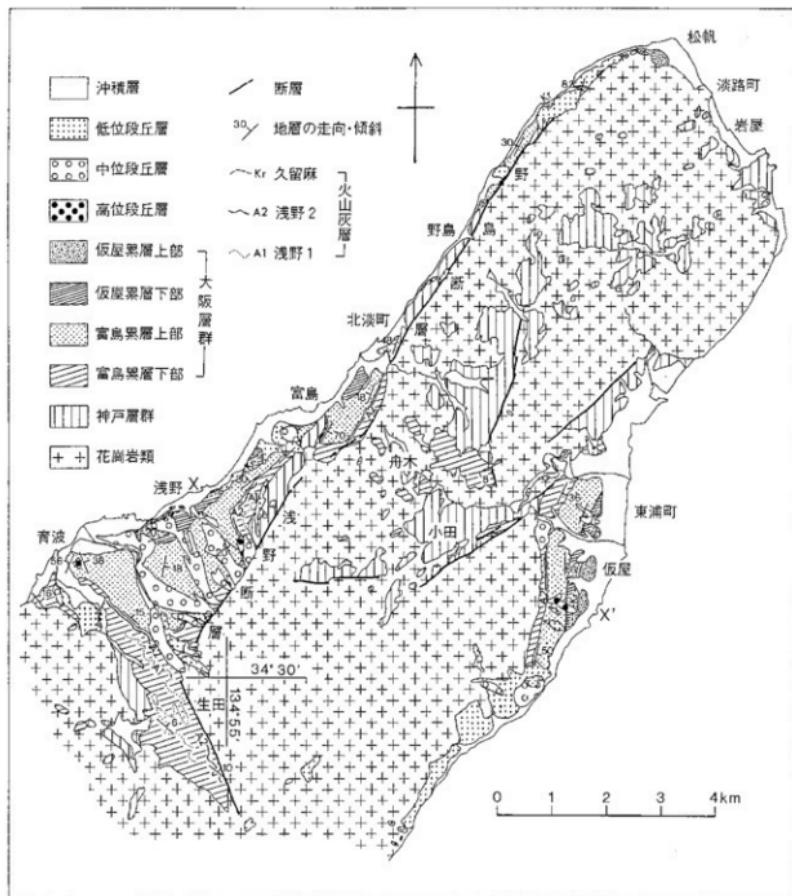


図2 淡路島北部地域の地質図及び地質断面図（市原、実編『大阪層群』より）

歴史的環境

淡路島は瀬戸内海東端の島であり、畿内にも近い立地上古より交通の要衝であった。そのため近年多くの遺跡が発見されている。

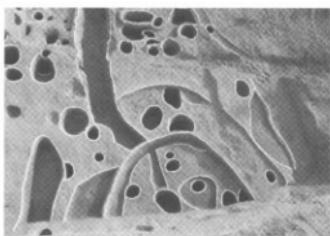
旧石器時代の遺構はまだ発見されていないが、長原遺跡（南あわじ市）からは国府型ナイフや翼状剥片がまとまって出土している。また浦壁池遺跡（南あわじ市）ではナイフ型石器が採集されている。淡路市ではまるやま遺跡からナイフ形石器1点と、細石刃・細石刃核がまとまって出土している。舟木遺跡や岩屋から有舌尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡は島内でも相次いで発見されている。淡路市内では縄文時代草創期の遺物が発見されたまるやま遺跡や繩文早期～中世へと続く、淡路を代表する縄文時代の遺跡の一つである育波堂の前遺跡などがあるが、佃遺跡では本格的な発掘調査がおこなわれ、早期から晩期にかけての集落跡であることが明らかとなっている。多数の貯蔵穴が発見されドングリなどの豊富な木の実が出土しているほか、ほ乳類や鳥類、魚類などの数多くの動物の骨が出土している。また舟木遺跡において、早期～前期の石器がまとまって出土している。

弥生時代には、三原平野を中心として銅鋒や銅劍といった青銅器類が多数出土している。最近の例として幡多遺跡（南あわじ市）からは土壙に廃棄された状況で大阪湾型銅戈が出土している。淡路市内でも江井から銅鋒が1点出土している。淡路市内では前期・中期の遺跡数は少ない。しか後期に入ると、標高100mを超える丘陵上に集落が出現し、その数も急増する。塩壺西遺跡のように明石海峡に面した大型の鉄鉱を持つ高地性集落もあるが、その多くは一般的な集落遺跡であり、特に後期後半にだけ存在する遺跡が多い。の中でも舟木遺跡は後期前半から庄内期まで続く大きな集落であり、大型の堅穴住居址や大溝、土壙墓などが確認されている。これらの丘陵上の集落でも販賣壺や製壺土器が出土しており、米作りの他にも海での生産活動を窺わせる。これら後期の丘陵上の集落は古墳時代までには消滅する。

島内では大規模な前期・中期古墳の存在は確認されていない。淡路市内も同様で、後期においても古墳の数は少ない。郡家古墳は比較的大きな横穴式石室墳であるが、茶穴山古墳群や明神古墳群のように、海を望む丘陵上に小規模な古墳で構成される古墳群が発見されている。石の寝屋古墳は比較的大きな横穴式石室を有する古墳であるが、その周囲に小規模な7～8基の古墳が存在している古墳群である。一方、今回報告する富島遺跡でも箱式石棺墓が検出されている。畠田遺跡の箱式石棺墓の例とどれも大変よく似ているため、集落の中に墓域を設けるのがこのあたりの海岸部の集落の特徴であって、古墳を築造することは少なく、たとえ小規模な古墳でも重要な意味を持つ可能性が推測できる。

「古事記」「日本書紀」「万葉集」などの記載から、海を媒介とした王權との深いつながりを推測することができる。イザナギ・イザナミの四生み神話や、「海人」と呼ばれる人々が天皇家の水運の担い手として重要視されていたことがわかる。「海人」には「野鳥の海人」と「御原の海人」がいたらしく、淡路市域には「野鳥の海人」がいたようである。



畠田遺跡弥生遺構面



畠田遺跡

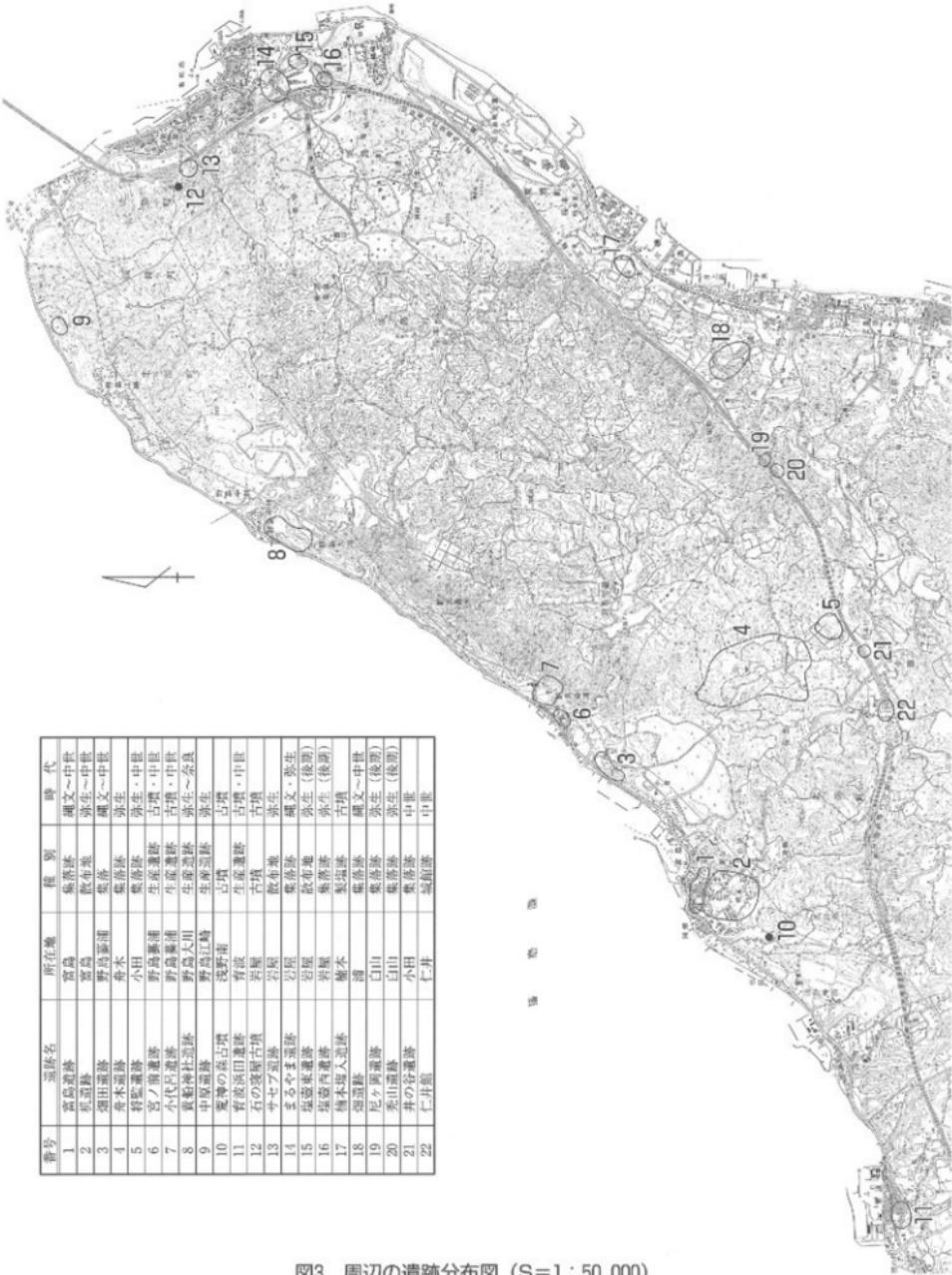


図3 周辺の遺跡分布図 (S=1:50,000)

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	内 容	
					古墳時代～奈良時代にかけて墓葬地を中心とする遺跡、墓域・土産地・居住地がわかる貴重な遺跡。	
1	西島遺跡 (にしま)	高島	集落地	古文～中世		
2	机遺跡 (のくい)	高島	散布地	弥生～中世	高島川から鶴見川の右岸の広い地域に弥生土器・土師器・中世土器が散布。帆坂土器	
3	西島廻遊遺跡 (にしまわがはな)	高島	散布地	中世	海岸付近に中世土器が散布	
4	岡戸遺跡 (おかど)	役野町	散布地	古代～中世	高島川の左岸にひろがる緩斜面に古代～中世の土器が散布している	
5	南高麗跡 (かみこうり)	石田	散布地	中世	高島川と鶴見川の三角州に中世土器が散布している	
6	岐遺跡 (ひき)	石田	散布地	古代～中世	高島川と鶴見川の三角州に古代～中世土器が散布している	
7	牛糞遺跡 (うしなご)	石田	散布地	中世	鶴見川の右岸の丘陵上に中世土器が散布している	



図4 周辺の遺跡分布図

(S=1:5,000)



図5 室津 出土土錘

また淡路島は、「御食国」として、朝廷や天皇家に食材を提供する国であったが、重要なものとして「塩」があげられる。土器製塩は、畠田遺跡などで出土した資料から弥生時代後期に始まることが知られており、古墳時代～奈良時代にかけて大変盛んになる。引野遺跡では脚台式製塩土器から丸底式製塩土器へと使用する製塩土器の形態の変化が明らかになった。貴船神社遺跡では二十数基の石敷炉が県下で始めて発見され、その一部は地下保存された。遺跡の中心部は公園になり、その中で製塩風景が再現されていて、「野島の海人」と呼ばれた人たちが住んだ遺跡の一つではないかと考えられている。また畠田遺跡では古墳時代の大型建物や箱式石棺墓、弥生時代後期から古代まで連続と続く製塩土器が確認されており、「野島の海人」の拠点集落ではないかと考えられる。そして楠本塩入遺跡や、育波浜田遺跡など大規模な製塩遺跡が出現する。育波塩焼遺跡では古代の大型鰐柱建物が検出された。律令期には「淡路國津名郡育波郷」が存在したことが文献上明らかである。平城京からは「育波郷」と記載された木簡が2点出土しており、いずれも「海氏」が塩を納めたという木簡である。「海氏」は「海人」であろうと考えられ、「海人」たちが律令期にも塩を作り朝廷に納めていたことが窺える。中世に入ると現在の居住区域にはば近い状態で小規模な集落が形成されていた状況が確認できる。また交通の要衝でもあった淡路島では確認されている中世城館の数も多く、地名にもよく残っている。

富島という地名は富島川の河口付近にあったとされる島を「富嶠」と呼んだものとされている。実際に「富嶠」「鳥脇」などという字名が見られる。「富嶠」と呼ばれた場所は現在富島地区の最も西側の海岸が突き出たところとされているが、眞偽のほどはさだかではない。同様の内容は直近の集落である野島でも伝えられており、野島川河口にあつたとされる「野嶠」が平安時代に地震で沈んだと伝えられている。

富島地区は古くは机と呼ばれ「築江」がなまつたものではないかと考えられる。「机」が文献に多く登場するのは近世以降であり、港として発展をとげたのもこの時期であろう。港は近代になって、「生鮮」と呼ばれた生魚の運搬で栄えるが、冷凍技術等が発達し道路網が整備された現在では漁港として存続している。

富島周辺では、昭和40年代の兵庫県の分布調査において、弥生時代の散布地であった富島西遺跡や、富島川の河口に近い机遺跡、机浜遺跡などが発見された。また平成5年に刊行された『製塩遺跡Ⅰ』において、新たに富島岡畑遺跡などが発見された。富島の集落内に遺跡があるかどうかは長い間不明であったが、地区内に存在する寺院には資料が残されている。生福寺には平安時代後期の阿弥陀如来像（注1）が現存する。興久寺には応安4年（1357）の銘をもつ石造地蔵像（淡路市指定文化財・注2）が存在し、その石材は現在の洲本市の先山から運ばれた花崗閃緑岩（注3）である。生福寺阿弥陀如来像や興久寺の応安4年銘石造地蔵像などを作ることのできる力を持った勢力がこの地にいたのではないかという推測はできた。それを実証することになったのは、皮肉にも阪神・淡路大震災であった。

平成7年1月17日に起きた兵庫県南部地震（被害名：阪神・淡路大震災）において富島地区は壊滅的な被害をうけ、震災復興区画整理事業に先行して富島地域内の試掘・確認調査を平成8～9年度に兵庫県教育委員会の支援を得て北淡町教育委員会が行った。この調査で初めて集落の西側に遺跡が広がっているのが確認された。これが富島遺跡で、当時の調査担当支援職員であった岡山真知子氏（現：徳島県立城ノ内高校教諭）によって命名された。この調査では從来富島西遺跡と考えられていた区域からは遺構・遺物は検出できず、そのすぐ東側まで縄文時代後期～中世に至る

富島遺跡が確認されたのである。また、集落中心部の山側にある大歳神社に明治年間まで船をつないでいたとの古老の言葉通り、大歳神社にむかって大きく湾入していたと考えられる調査成果があり、その海岸線沿いに遺跡が存在することも確認できた。震災復興区画整理事業に伴う本発掘調査は平成14年度～16年度までは兵庫県教育委員会が、平成17年度からは淡路市教育委員会が主体となって現在も継続して調査中である。平成17年度の淡路市教育委員会の調査では、富島遺跡ではじめて弥生時代前期の遺構・遺物が検出された。また、平成18年度の調査では布留式土器とそれを伴う遺構が検出された。

また平成17年3月までに行われた旧北淡町内詳細分布調査では、富島川の両岸に広がる平地に遺跡が集中していることが確認できた。

このように富島地区は古くから拓かれ現在まで続く地域であり、その中でも最も大きく中心になるのが富島遺跡であろうと考えられる。

(注1) 神戸佳文氏(兵庫県立歴史博物館)のご教示による。

(注2) 墓上重光氏(神戸市文化財保護審議会会長)のご教示による。

(注3) 先山徹氏(兵庫県立人と自然の博物館)のご教示による。

参考文献

1. 櫻本誠一ほか編『日本の古代遺跡3 兵庫南部』保育社 1984
2. 『兵庫県史』考古資料編 兵庫県 1992
3. 『製塩遺跡I』(津名郡)兵庫県教育委員会 1993
4. 渡辺昇ほか編『舟木遺跡』北淡町教育委員会 1994
5. 岸本一宏編『本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告I』兵庫県教育委員会 1997
6. 深井明比古編『塩壠西遺跡』兵庫県教育委員会 1997
7. 三原慎吾編『まるやま遺跡』兵庫県教育委員会 1998
8. 深井明比古編『佃遺跡』兵庫県教育委員会 1998
9. 岡山真知子ほか編『富島遺跡』北淡町教育委員会 1998
10. 伊藤宏幸編『引野遺跡調査概要』東浦町教育委員会 1999
11. 『一宮町史』一宮町 1999
12. 渡辺昇ほか編『貴船神社遺跡』兵庫県教育委員会 2001
13. 定松伸重編『三原郡埋蔵文化財発掘調査年報I』三原郡広域事務組合 2001
14. 山本誠編『まるやま遺跡II』兵庫県教育委員会 2002
15. 伊藤宏幸編『貴船神社遺跡』北淡町教育委員会 2002
16. 明元知子編『松原千疊敷遺跡』西淡町教育委員会 1990



畠田遺跡石棺(蓋)



畠田遺跡石棺

III 調査の概要

1. 確認調査の結果

平成8年度から富島遺跡の確認調査が実施された。区画整理事業が北淡町主体の事業であったことから、北淡町教育委員会が調査主体となって調査を担当した。ただ、震災復興関連で担当者が多忙を極めていたので、平成9年度・平成11年度については、兵庫県教育委員会に支援依頼があり、担当者を派遣して調査を実施した。

確認調査は、実施可能な地点から順次行い、遺跡の範囲を確定していく。確実に遺跡の範囲内と確定できない部分と新たな地区について確認調査を実施した。その結果、遺跡の範囲を確定し、それ以降の富島遺跡の調査範囲を確定する基礎となった。

平成8・9年度調査成果については、すでに概要報告書が刊行されている。それによると、7ヵ所のトレンチで遺構が検出されている。次年度以降の調査で補完資料は得られているものの、大枠ではこの調査成果を基に調査範囲は確定している。概要報告書の調査結果と本発掘調査成果は基本的に変わることはない。検出された遺構は、土坑・ピット・溝・集石土坑・焼土坑が確認されている。遺物は縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・タコ壺・製塩土器・土錐・石器・錢貨などが出土している。出土遺物の中で注目されるのは、縄文後期の土器群と土馬である。その「まとめ」では、「今回の調査で出土した遺物から、この遺跡は中近世の漁業集落が主体であることがわかった。しかし、富島小学校北で縄文時代中期以降集落が形成され、中世以降も使われた。また、富島小学校東周辺では土馬をはじめ奈良・平安時代の須恵器・土師器が出土するなど古墳時代後期以降集落が形成されたことも判明した。」と記されている。本発掘調査成果と大きく矛盾はなく、確認調査結果と合致している。唯一調査結果が異なったのは、律令期の遺構・遺物が本発掘調査で多く確認されたことであろう。墨書き器などの官衙的遺物が出土したことか、変化である。が、すでに出土していた土馬の存在は、その成果を示唆していたようである。

2. 平成12年度の調査

平成12年度から、工事主体が都市基盤整備公団になったことから、調査主体は兵庫県教育委員会に変更となった。今年度は昨年に引き続き確認調査を実施した。

2000317

ほぼ全てのグリッドで近世以降の土壤層を確認し、多くのマダコ壺が出土しているが、中世以前の遺構・遺物が確認できたのは7・15・16・20・21・23・25の各グリッドである。

7グリッド

現代盛土の下に近世以降の耕作土・土壤層が4層あり、各層からマダコ壺などが出土した。 $\textcircled{10}$ 層の淡褐色中砂を除去したところ(GL-18m)で、拳大の円窓を並べた面を確認した。整地のために人為的に敷き並べたものであると推定する。面上での出土遺物がないため正確な時期は不明である。直上の土壤層から近世の遺物が出土しているので、これよりは古い時代、おそらく中世のものであると推定する。

同様の縦群は隣接する平成9年度調査24グリッドでも確認されており、一連の遺構であろう。

15グリッド

近世以降の耕作土・土壤層の下(GL-0.6m)で、中世(12~13世紀頃)の遺物を主体とする包含層を確認した。包含層は上下2面であり、厚さは0.9mある。この包含層を除去した面(GL-1.5m)で円窓を敷き並べた縦群を検出している。

16グリッド

近世以降の耕作土の下(GL-0.4m)で中世の遺物を含む包含層を確認した。包含層は3層に分割される。いずれも東播系須恵器のこね鉢をはじめとする中世土器が出土している。厚さは0.9mである。

20グリッド

近世以降の盛土・砂層の下に湿地状の堆積があり、そこから中世～古代の遺物が出土している。遺物は小片が多く、二次的な流れ込みがある可能性が高い。入り江状の地形の落ち際にあたるが、船着場の施設等は確認していない。



図6 48T平面図および東壁断面図

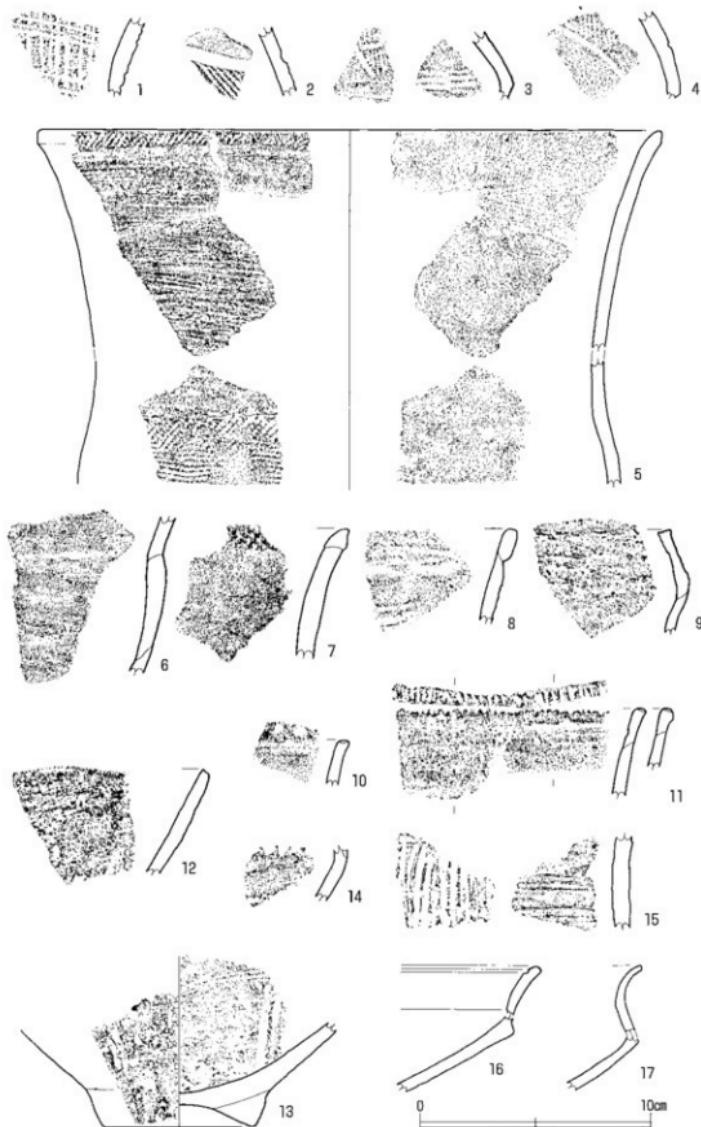


図7 確認調査出土遺物(1)

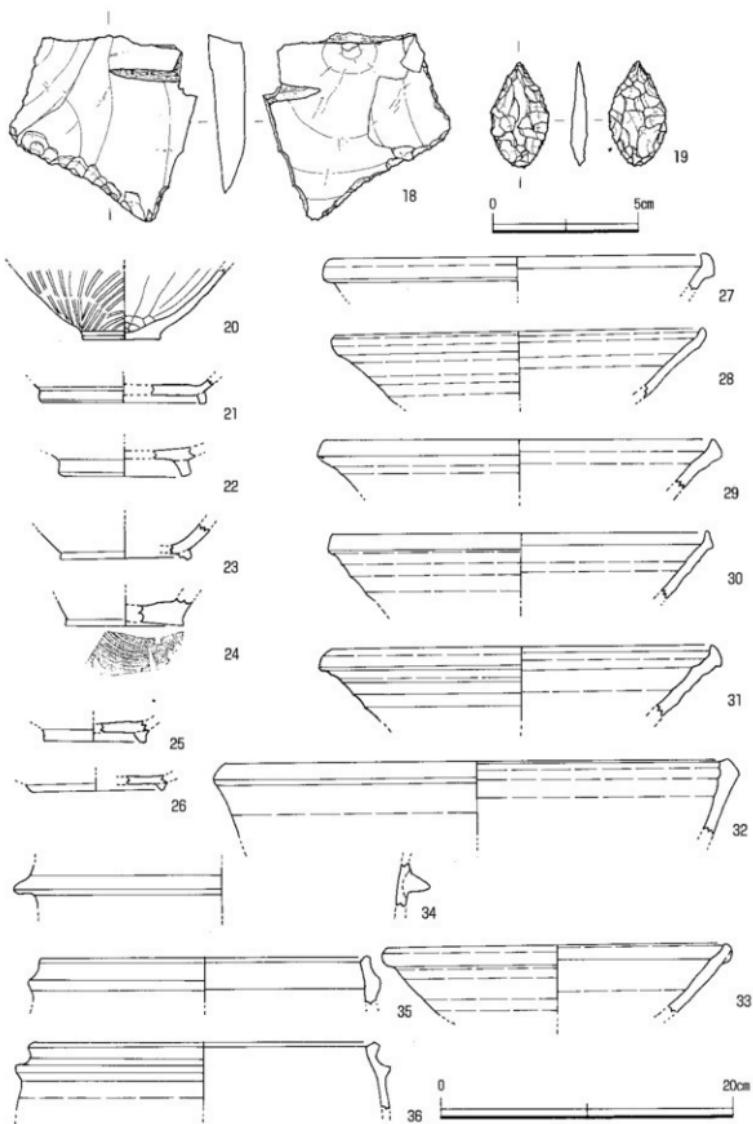


図8 確認調査出土遺物(2)

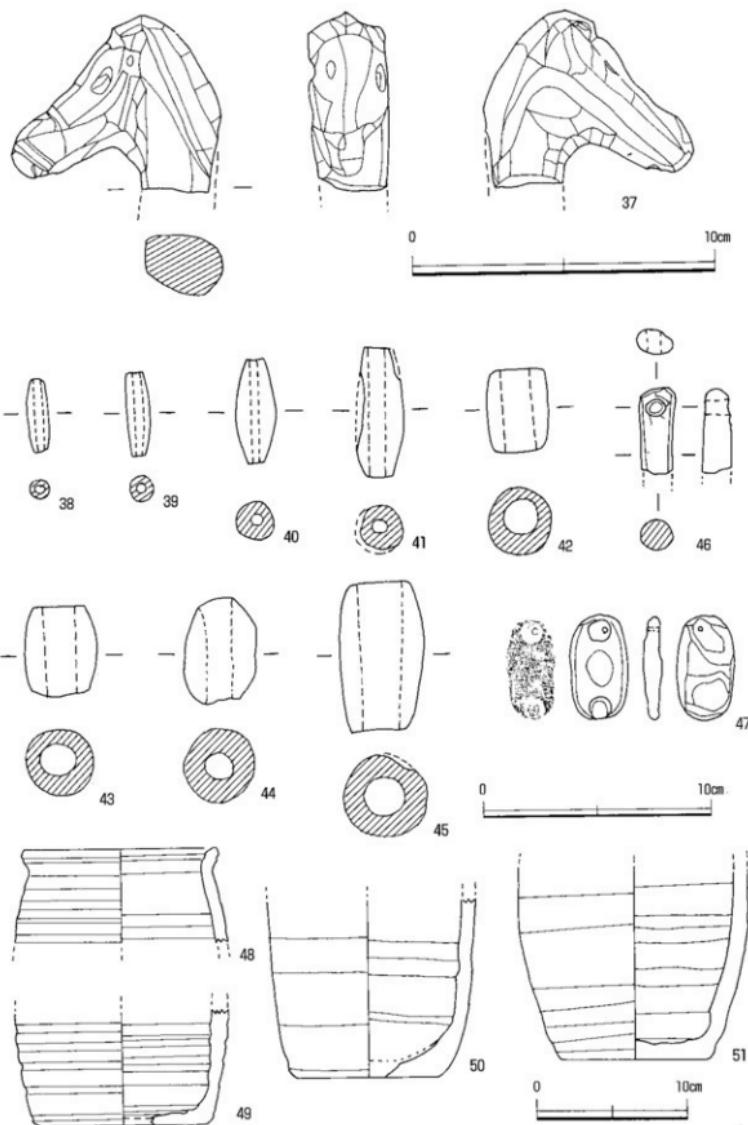


図9 確認調査出土遺物(3)

21グリッド

近世以降の盛土・土壤層の下で中世（12～13世紀）の土器を多く含む包含層を確認した。包含層の厚みは0.35mあり、断面で土坑状を呈する遺構らしきものが確認できる。出土遺物は東播系須恵器のこね鉢が多い。

23グリッド

近世以降の削平が著しいが、盛土の下（GL-0.6m）で中世の遺物を含む溝状の遺構を確認している。

25グリッド

近世以降の盛上・耕作土の下で、拳大の円窓を敷き並べた整地層を確認した。整地層の上面から奈良時代（8世紀後半）の遺物が多量に出土している。整地層の下にも包含層があり、同時期の遺物が出土している。整地層から包含層までの厚さは0.5mである。出土遺物は須恵器・土師器・イイダコ壺・土鍬がある。

3. 平成13年度の調査

2001001

基本層序

調査区東壁を中心とする層序を図に示す。

現代の盛土（厚さ約70cm）下には、断続的に旧耕土（②層）が認められる。最初の機械掘削を行ったのは、廃墟の直下あたりまでである。その下の③～⑤層は土壤層で、出土遺物から③層は近世後半、④層は中世、⑤層は古代～中世の時期が想定される。③層と④層はほぼ水平に堆積し、少なくとも中世には周辺が平坦化され、耕地として利用されたことが伺える。

⑥～⑨層は縄文時代の堆積層で、⑥層及び⑦層には比較的多くの遺物が包含されている。このうち、土壤化の認められる⑥層は調査区の北半にのみ分布しており、縄文時代の生活面が存在したことが想定される。しかし、⑥層は遺構埋土と極めて類似しており、上面での遺構検出はできなかった。⑧層は縄文時代の生活面の基盤となった固く締まった砂礫層である。調査区の北半のみで確認できた。ほぼ南北方向に細長く島状に分布していると考えられ、擁壁部分では東側に向かって埋没している状況が観察できた。⑨層は⑧層下の砂層で、約10cm下位には繩を多量に含む。⑧層・⑨層からも縄文土器は出土しているが、⑥・⑦層に比べるとごく僅かである。

なお、⑩～⑬層は、⑩層が⑥層に相当し、⑪～⑬層が⑥層よりも下位の層となることが予想されるが、その関係は十分に把握できていない。特に⑫・⑬層については⑥層よりも上位の層となる可能性がある。（A地区）

4. 平成14年度の調査

2002054

13号線-1

掘削深度の大半は19世紀代の遺物を含む茶褐色細砂中におさまっている。北側の約3mの範囲で中世の遺物包含層を検出しており、マダコ壺などが出土している。

14号線-1

この調査区は区画道路14号線の建設に伴い掘削される範囲である84m²について調査を実施した。掘削深度は80cmである。調査は事前にトレンチ1～3を掘削し、下層の状況を把握した後、施工部分全体を掘削した。結果、調査はすべて盛土内で行われ、包含層・遺構面には到達しなかった。

14号線-2

この調査区は区画道路14号線の建設に伴い掘削される範囲である80m²について調査を実施した。掘削深度は80cmである、調査は事前に東端付近を掘削し下層の状況を把握し後、施工部分全体を掘削した。結果、調査はすべて盛土内

で行われ、包含層・遺構面には到達しなかった。

39号線-1

この調査区は区画道路39号線の建設に伴い掘削される範囲である50mについて本発掘調査した。調査時は2-1区と呼称した。

調査は地表下0.5m付近までの家屋基礎を除去するため、バックホウにて除去した。掘削深度においては近世包含層の一部が検出されたのみである。なお工事による掘削はこれより下層に及ぼさないため、調査を終えた。

39号線-2

この調査区は区画道路39号線の建設に伴い掘削される範囲である91mについて調査を実施した。掘削深度は80cmである。調査は事前にトレンチ4を掘削し、下層の状況を把握した後、施工部分全体を掘削した。結果、調査はすべて盛土内で行われ、包含層・遺構面には到達しなかった。

74街区-1

この調査区は74街区中央西寄り付近の旧家屋基礎撤去に伴う立会調査である。調査範囲は192m²であり、調査時は74街区ガラ撤去と呼称した。

調査は地表下0.5m付近までの家屋基礎を撤去するため、バックホウにて除去作業にかかったが、地表下0.4m以下は遺構包含層であることが判明したため、地表に見える基礎のみ地下に影響を及ぼさないように除去した。下層は中世や古代の遺物包含層が存在する。

74街区-2

湿地状の堆積が認められた。そこから19世紀代の遺物が出土している。さらに、下層は13世紀から16世紀の遺物が混ざり合っており、河口もしくは汀に廃棄されたか流れ込んだ遺物が再堆積した可能性が高い。

75街区-1

この調査区は75街区北東付近の旧家屋基礎撤去に伴う立会調査である。調査範囲は240m²であり、調査時は75街区ガラ撤去と呼称した。

調査は地表下0.5m付近までの家屋基礎を撤去するため、バックホウにて除去作業にかかったが、地表下0.4m以下は遺物包含層であることが判明したため、表面に見える基礎のみ地表に影響を及ぼさないように除去した。下層には中世や古代の遺物包含層が存在する。

77街区-1

擁壁工事に伴う調査で、中世の包含層が確認され、その下面で落ち込みや柱穴が検出されている。その下は古墳時代から古代の包含層で下面には焼石の集中箇所が見られ製塙炉と考えられる。さらに下面でも弥生時代の柱穴が検出されている。(E地区)

77街区-2

77街区-1と同様の成果で、直径1.0mの集石炉を3箇所検出した。その下では弥生時代の土坑・柱穴も検出され、弥生時代の集落が広がっている可能性が高い。(E地区)

77街区-3

この調査区は77街区中央付近の旧家屋基礎撤去に伴う立会調査である。調査範囲は333m²であり、調査時は77街区ガラ撤去と呼称した。

調査は地表下0.5m付近までの家屋基礎を撤去するため、バックホウにて除去した。掘削深度内においては包含層や遺構などは検出されなかった。77街区-1や77街区-2の状況からすると、下層には弥生時代から中世の集落や生産遺構が存在することは間違いない。(E地区)

立会調査で遺構面が掘削深度まで達さなかった地点は下記の13地点である。

14号線－1・2・3・4、39号線－2・3、43号線－1、59街区－1、74街区－1、75街区－1・2・3、77街区－3

2002182

13号線-2

13号線の西側側溝部分の調査を実施した。長さ18mで幅1mの掘削部分の立会いである、深さは90cmまで掘り下げ、工事に伴うそれまでを調査対象とした。上屋の基礎が部分的に残っており、その部分については1mを越えるところもあった。2つの遺構面が確認され、ピットが存在している。時期は上面が近現代で、下面も中世以降かと考えられる。下面の下の黒褐色中砂から古墳時代の須恵器が出土している。

75街区-2

75街区内の擁壁工事を行う北側部分である。幅1m、長さ10mの調査区である。掘削深度は60cmで、上層包含層の一部を調査したにすぎない。マダコ壺が多く出土している。

77街区-4

75街区同様に擁壁工事部分の本発掘調査である。南側は夏に調査した77街区－2で、東側が77街区－3である。77街区－2の北側の続きである。幅1m、長さ3mの南北方向の調査区である。遺構面は3面確認している。(E地区) 79街区-1

13号線の西側に位置しており、13号線－2区と接している。約100mで宅地のガラ撤去の立会い調査である。深さ50cmを基準としたが、ガラが深く残っているところは深く下げている。上層包含層はかかるところから、その部分についての確認を行った。マダコ壺・土師器や銭貨が出土しているが、遺構は確認できなかった。

2002198

14号線-3

土層は、①表土 ②盛土 ③褐色シルト質中砂 ④暗褐色細砂 となっている。④層以下も包含層が存在しているが、工事施工の掘削深度で止めている。④層上面は安定した面で、明確に土壤化していないものの、遺構が存在する可能性が高い。調査トレンチ内では遺構は検出されなかった。

43号線-1

土層は、①表土 ②オリーブ褐色シルト質中砂 ③にぶい黄褐色シルト質中砂 ④暗褐色シルト質中砂 ⑤黒褐色シルト質中砂 ⑥褐灰色シルト質中砂 ⑦黒褐色シルト ⑧褐灰色中砂 ⑨黄褐色シルト である。掘削深度では④層の上面となるが、遺構の残存状態を確認するために一部断ち割りを行った。④層上面が14号線－3区のやはり④層上面に相当する。⑦層には弥生時代末～古墳時代はじめの土器が出土している。

2002218

14号線-4

土層は、①表土 ②盛土 ③褐色シルト質中砂 ④暗褐色細砂 となっている。④層以下も包含層が存在しているが、工事施工の掘削深度で止めている。包含層の上面近くに相当する。掘削深度内で調査トレンチ内では遺構は検出されなかった。

59街区-1

土層は、①表土 ②オリーブ褐色シルト質中砂(盛土) ③にぶい黄褐色シルト質中砂 となっており、その下に包含層が存在している。今回は上部のガラ撤去だけで、掘削は包含層まで達していない。

小結

平成14年度は5回の調査で、14地点の本発掘調査と11地点の立会い調査の結果、77街区－1・2・4区で3面の遺構面を確認できた。上面は近世～中世にかけての遺構で掘立柱建物跡1棟が確認された。第2面では奈良時代～平安時代の製塩炉跡と思われる遺構が調査された。古墳時代～奈良時代にかけての製塩炉は北浜町野島の貴船神社遺跡

で確認されており、それに続く時期の製塩遺跡と考えられ、その位置付けは重要である。ただ、製塩土器の出土量などから考えると、大規模な製塩遺跡は考えられない。第3面の遺構はピットだけであるが、古墳時代前後の遺構面の存在が確認されたことは意味があるものと思われる。また、74街区-2の湿地状堆積も港湾施設などが推定される地点で興味深い。

5. 平成15年度の調査

12回38地区の調査の結果、竪穴住居跡1棟（14号線-5）、掘立柱建物跡2棟（10号線-4、10号線-7）、石棺5基（10号線-4、10号線-7、33号線-1）、製塩炉9基（10号線-2、33号線-1、34号線-2、78街区-6）、井戸1基（78街区-3）と土坑・ピットが検出されている。

竪穴住居跡は、隅円方形で調査区中央部に位置する。6層の遺物包含層下面、7層上面で検出された。規模は北西-南西の1辺4.0m、南北-東北3.0m以上、深さ0.6mの方形竪穴住居跡であるが、東端部は傾斜下方にあたり削平されているため平面形はやや平行四辺形を呈している。

掘立柱建物跡は2棟あり、ともに全体像は明らかでない。1棟は竪柱建物で1間以上×2間以上である。もう1棟は側柱建物で1間以上×3間以上である。

製塩炉は9基以上検出しておらず、それ以外にも集石や焼けた礫が多く確認されていることから、相当規模の製塩跡と思われる。製塩土器は丸底II～III式である。

井戸は78街区-3で石縁井戸が検出している。近世と考えられる。

土坑の中には製塩土器を多量に包含する土坑や焼土坑もある。ピットも各区で検出しているが、調査面積が狭いこともあって、掘立柱建物跡に復原できていない。

出土遺物は弥生土器・古墳時代の須恵器・土師器・製塩土器・イイダコ壺・耳環、奈良時代の須恵器・イイダコ壺、中世の須恵器・土師器、近世のマダコ壺・陶磁器・土師器が出土している。

2003070

基本土層は、①表土・盛土 ②黄褐色シルト ③暗褐色シルト ④灰黄褐色シルト質中砂 ⑤黒褐色中砂 ⑥黄灰褐色粗砂 となっている。②層が中世～近世の、③～⑤層が古代～中世の、⑥層が弥生末～奈良時代の包含層である。

10号線-1

現在の中道に相当する10号線の拡張部分の調査である。幅3m、長さ24mの東西に長い本発掘調査である。明らかな擾乱部分を除いた3ヶ所にトレーナーを設定した。幅1mのトレーナーで西側からトレーナー1・トレーナー2と呼称する。1トレーナーでは、40cmの盛土があり、②にぶい黄褐色シルト質中砂・黒褐色細～中砂を埋土とする近世～近代の土坑が確認された。遺構面は②黄褐色シルト質中砂で中世の包含層である。この地点では数点の土師器を包含しているだけであった。掘削深度はほぼこの層の中で収まる。一部確認のために深掘したところ、地表下60cmで③相当と思われる暗褐色粗砂が、85cmで⑤黒褐色中砂が確認されたが、無遺構であった。

トレーナー2は約10m東側に設定したが、地表下40cmで地山の黒褐色シルトが検出された。

トレーナー3は富島小学校の正門を隔てた東側に設定したが、トレーナー2同様に地表下50cmで地山のシルトが検出され、トレーナー2・3ともに削平を受けたものと思われる。

10号線-2

10号線-1区の東側に70m離れている。34号線と交差した部分の南西で80街区の北側に位置している。3×16mの東西に長い調査区である。盛土下が包含層で製塩土器を主体に須恵器・土師器・イイダコ壺が出土している。調査区西端には近世の瓦積み井戸が存在している。その東側の道（中道）に近い1m幅で基礎が残っており、遺構は残存していないかった。西側では貝（二枚貝…アサリか）が厚く堆積していた。粘土のブロックも見られた。その東側では遺

構面が確認されたが、浅いことから現代の擾乱坑が多く存在する。焼けた甕が多数検出され、焼土・灰・炭が検出された。円形などの綺麗な形状にはならないが、製塩炉が廃棄されたものと思われる。甕の塊は5箇所あり、5基以上の製塩炉があったものと考えられる。(C地区)

34号線-1

10号線-2区の南東部分に位置している調査区である。幅3m、長さ18mの南北に長い本発掘調査である。調査区南東部分には近代（近世まで遡る可能性あり）の石組井戸が存在していることから、息抜きのうちに掘り下げられた。北側部分のみ平面調査を実施した。井戸北側で遺構面が確認され、落ち込みと暗渠が確認された。落ち込みは扇円方形の浅い遺構である。床面に伴うピットなどは存在しない。その下層は古墳時代から中世の遺物が含まれる層で、約70cmの厚さの包含層である。その下面で明瞭な遺構は確認されなかった。(D地区)

80街区-1

操縦工事部分の本発掘調査である。幅2m、長さ8mの東西に長い本発掘調査である。34号線に接して直交する位置にある。現代建物の搅乱によって中央部分は大きく削平されている。その両側については34号線-1区と同様の結果であった。製塩土器を含む厚い包含層を調査した。

80街区-2

80街区北東部分のガラ撤去であり、東西20m、南北6.5m（平均）の工事立会調査である。調査区にはガラではなく真砂が入れられており、遺構・遺物は検出されなかった。

まとめ

3地点の本発掘調査と2地点の工事立会調査の結果、10号線-2区で古墳時代から奈良時代の製塩炉を確認した。昨年度も77街区で確認されており、富島遺跡でもある程度の規模で製塩作業を行っていたことが明らかとなった。34号線-1区や80街区-1でも製塩土器を含む包含層が確認されていることから、地形の高い南側一帯まで製塩遺跡が広がっている可能性が高いものと思われる。

2003125

基本土層は、①表土・盛土 ②灰黄褐色シルト質中砂 ③黒褐色シルト質中砂（包含層） ④黒褐色シルト質中砂 ⑤にぶい黄褐色粗砂 となっている。②層が近代～近世の、③層が中世～古代の包含層である。⑥層は地山である。

10号線-3

10号線-2区の西側に隣接した地点である。現在の中道の拡幅にあたることから、拡幅する南側約2mについて本調査を実施した。

遺構面は2面確認しているが、下層の中世の遺構面は僅かしか残存していない。上層は近代～近世の遺構面で、遺構面で、やはり大きく削平されており、搅乱坑が多くみられた。また、中央から東側にかけて貝層が広がっている。深いところでは1m以上のところもあり、厚く堆積している。二枚貝に限られており、ハマグリと思われる単一の貝が廃棄されたようである。大きな土坑に貝をバラバラに入れるのではなく重ねてぎっしりと入っている。包含層からは、下層では須恵器・土師器・製塩土器が上層では上師器・陶磁器・タコ壺・錢貨が出土している。

まとめ

今回の調査地点は近世～近代にかけて大量の二枚貝を廃棄している。そのための大型の土坑や近現代の搅乱坑によって、遺構面はほとんど残存していなかった。ただ、包含層は存在し、削平を受けていなければ、遺構面は広がっていることは確実である。

2003139

2地区の本調査と1地区の立会い調査を実施した。基本土層は①表土・盛土 ②にぶい黄褐色シルト質中砂 ③灰オリーブシルト ④灰褐色シルト ⑤暗赤褐色シルト質細砂～中砂 ⑥黄褐色シルトとなっている。②層が近代～近世の、③

層が中世の、④層が古代～弥生末の遺物包含層である。

33号線-1

段丘部分に新設される33号線の調査である。東西部分約50mの調査を行った。計画幅は5mであるが、歩道・水路が現在も使われていることから、北側1m余りについては控えており、今回調査を行っていない。東側は地山が盛土下で出ており、遺構面は残存していないかった。

中世面では、西端で焼土坑を検出している。不定形で最大長2.1mを測る。幅は40m前後で、西側から東側に向かって床面が上がっている。南壁の断面での深さは25cmを測るが、この部分が最も深く、西側では床面が焼けているだけである。

古代の面は段丘面の地山部分とその下にも広がっており、旧河道（SR01）・製塩炉・石棺を検出している。旧河道（SR01）は南東から北側に向かっているもので、幅3.0～3.4mで、深さは0.3mを測る。床面から少し上部で遺物が多く堆積している。中央部にはイイダコ壺が多量に廃棄されたと思われる出土状況を示している。イイダコ壺の吊り部側面にスタンプ文が幾つかに施されている。上層から墨書き土器（須恵器杯）も出土している。

製塩炉は2基検出している。1基は石敷炉で、南北1.1m、東西1.0mの円形を呈している。東側のレベルが僅かに高くなっているが、ほぼ平坦に礫を敷いている。礫は古生層の礫と花崗岩が使われている。花崗岩はボロボロになっている。石圓炉は石敷炉の西側7mのところに位置しており、僅かに高い部分に築かれている。北壁は残っていない。東壁を奥壁とする炉で、幅0.3m余りで、高さ0.2mを測る。2基とも段丘面の変換線上に位置している。

石棺は2基の製塩炉の間で、段丘面下の低い位置に築かれている。東西方向に主軸を持ち、東西1.6mで幅は0.5mである。中央部分が多少広くなっている。石材は縱積みしている部分と横積みしている個所があり、統一されていない。石は3石まで確認される。周辺にも大形の石材が認められず、蓋石はなかったかもしれない。床面には小礫が敷かれており、頭蓋骨と脚部の骨が遺存していたが、残存状態は悪く取り上げは困難であった。頭蓋骨南側から耳環が1点出土している。（B地区）

33号線-2

33号線-1区の東側の隣接部である。工事進捗の都合から側溝部分だけ本調査を実施したものである。1×8mの調査区で掘削深度面まで調査区を行った。盛土・中近世包含層の下に遺物量の少ない黒褐砂の包含層があり、無遺物の暗褐色層を間層にして、黒褐色シルト質砂層が存在する。この層にはイイダコ壺を主体に弥生時代後期の遺物を大量に含んでいる。イイダコ壺の多くは完形であることから、繩で束ねた状態で置かれた可能性が考えられる。

80街区-3

33号線中央付近から北側に延びる排水溝部分である。2×18mの調査区であるが、既存の水路の付け替えであることから、工事立会を実施した。既存水路を除去した断面には包含層は確認されている。北側は古代～古墳時代の包含層も切られているが、南側では近世の包含層のレベルで掘削は終了している。付け替え時に断面観察を行ったが、包含層だけでは遺構は確認されていない。

まとめ

2地点の隣接地の本発掘調査の結果、33号線-1区で古墳時代から奈良時代の製塩炉を確認した。昨年度も77街区や今年度の10号線-2区でも確認されており、富島遺跡でもある程度の規模で製塩作業を行っていたことが明らかとなった。今回は石圓炉も確認されている。

石棺も1基検出され耳環が出土した。これにより生産地に隣接して墓地が営まれていたことが判明した。

2003146

33号線-3

段丘部分に新設される33号線の調査である。前回本調査を実施した33号線-1区の北側で、歩道水路として使用さ

れていたことから、調査が実施できなかった部分である。水路の撤去後掘削面まで立会調査を実施したが、中世包含層まで止まっている。遺構は確認されなかった。

34号線-2

34号線-1区の北側隣接部に位置しており、東側側溝部分のみ調査を実施した。北側には10号線までの間に見調査部分が存在する。調査区北側には近世の落ち込みがあり、古墳時代から中世の遺構面は存在していない。近世の落ち込みの南側で礫群が検出され、被熱している礫も多数認められることから、製塩炉と考えられる。最大長1.2m深さ約15cmを測る。

基本土層は、①表土・盛土 ②灰黄褐色中砂 ③にぶい黄褐色中砂 ④暗褐（黒褐）色中砂 ⑤オリーブ褐色シルト質細砂～中砂 ⑥黒褐色中砂 ⑦黄褐色シルト となっている。④層が近世～中世の、⑥層が古代～古墳時代の包含層である。⑦層は地山である。(D地区)

34号線-3

33号線-1区の東側の隣接部である。工事進捗の都合から側溝部分だけ本調査を実施したものである。2×5mの調査区で掘削深度面まで調査を行った。盛土・中近世包含層の下に遺物量の少ない黒褐砂の包含層があり、無遺物の暗褐砂層を間層にして、黒褐シルト質砂層が存在する。この層にはイイダコ壺を主体に弥生時代後期の遺物を大量に含んでいる。イイダコ壺の多くは完形であることから、繩で束ねた状態で置かれた可能性が考えられる。

80街区-4

80街区の北西部分の10号線の接した地点で、協会の擁壁工事部分である。1×5mの狭小な調査区である。最近おかれた整地土の真砂の下にコンクリートがあり、その下に近世の包含層である暗褐シルトが10cm堆積し、その下10号線でも確認されている貝層が存在している。古墳時代から中世の包含層である黒色中砂が、その下にある。遺構面は続くが、調査区の部分に浄化槽があり、大きく削平されており、それ以外の部分でも遺構は確認されなかった。

まとめ

調査の結果、34号線-2区で古墳時代から奈良時代の製塩炉を1基確認した。今年度も33号線-1区で2基の10号線-2区で1基の製塩炉が確認されている。昨年度も77街区で確認されており、富島遺跡でもある程度の規模で製塩作業を行っていたことがさらに明らかとなった。

2003153

基本層序

本調査区の基本層序は、10号線-4区東では ①黄灰色粘土（地山の客土） ②灰色砂質シルト（旧耕土） ③暗褐色シルト質中砂（炭化物を含む多量の遺物包含層） ④黄褐色粗砂（基盤層） となる。ただし、④層の上部にはわずかながら土器片が含まれていることから、明確には分層できなかったものの、④層上部には土壤化による搅乱作用を受けている部分が存在するものと思われる。

10号線-4区西では ①黄灰色粘土（地山の客土） ②灰色砂質シルト（旧耕土） ③明褐色砂質シルト（底土） ④にぶい黄灰色砂質シルト（遺物包含層） ⑤暗褐色シルト質中砂（炭化物を含む多量の遺物包含層） ⑥暗褐色シルト混じり中砂 ⑦褐色シルト混じり中砂（基盤層） となる。

東の③層と西の⑤層は古墳時代～中世の遺物包含層で、同一層である。東では③層直下で基盤層と考えられる砂層に達するが、西では少量の遺物を含む⑥層を介在して、⑦層が基盤層となるようである。ただし、これらの層はあくまで砂層を主体とするものであり、段丘上のようなシルト層ではない。

10号線-4区東・33号線-3区（B地区）

【第1面】

③層（暗褐色遺物包含層）上面が遺構面で、現地表下約25cmにある。10号線-4区東では東端付近で、この層の上

面で柱穴が認められたため、第1造構面とした。しかし、これでは明瞭な造構を把握しなかったため、写真のみの記録とした。

【第2面】

③層直下の造構面であるが、造構の検出はこれよりさらに10~20cmほど下位で行ってくる。造構の殆どは柱穴であるが、調査範囲が狭いため建物を復元することは難しく、かろうじて1棟の建物（SB01）と1列の柱列を見出したにすぎない。調査期間が限られていたため、第3面の機械掘削中にも見落とされていた柱穴の存在を確認したが、図化はできなかった。出土遺物から、SB01を含め多くの柱穴は中世のものと思われる。

また、調査区南側では旧河道の北肩を検出した。この旧河道は33号線-1区の調査で発見されていた旧河道につながるものである。旧河道内で発見されたピットはすべて旧河道が埋没した後に掘削されたものである。

【第3面】

③層下約30cmの④層中で石棺を2基（石棺3・4）検出した。墓壙の掘り方が不明確であったため、第3面として調査したが、本来は③層直下から掘り込まれていたものであろうと考えられる。

石棺1は板状の川原石を横に立て並べて棺身をつくり、それよりかなり大きな石で蓋をしている。しかし、頭から胸あたりにかけては、石が置かれていない。これが元々なかったのか、後世に取り去られたのかは、調査区断面を検討したが明らかにできなかった。石棺内には1体の人骨が頭位を南東に向けて埋葬されており、頭の下には石枕が置かれていた。副葬品は伴っていない。

10号線-4西

10号線-4区と同様に暗褐色遺物包含層（⑤層）の直下で柱穴を確認したが、散漫な様子であったので、さらに下層の⑥層中まで掘削したところ、北東隅で集石部を検出した。図化の後、一部の礫を取り除いて精査すると、石棺3・4と同方向の石列が明確となり、石の配列はやや不規則ながらこれも石棺であろうと判断した（石棺4）。長側辺では北東側に大きな石を並べているが、南西側は小さな石を置くのみである。また、北西側の小口部分は大きな石を立てているが、南東側は小さい。なお⑥層には若干の土器が含まれているが、断面図を作成したBのあたりで剣と思われる鉄器の小片が出土した。

10号線-5

10号線-1区3トレンチでは盛土直下で地山となり、造構・遺物とも認められていない。ここでは既存の道路を横断する部分において若干の遺物包含層が認められた。ただし、これから東へ延びる部分については盛土の範囲内までしか掘削は行われなかった。

2003163

10号線-6

10号線-3および4の北側に位置し、水路設置のための調査区である。1×25mの東西に長い調査区である。基本土層は、①表土（路面直下の鉢石）②黄褐色シルト（盛土）③褐色細砂（貝層）④黒色シルト質中砂（古代～中世包含層）⑤灰黃褐色粗砂（ベース）となっている。包含層からは須恵器・土師器・イイダコ塗が出土している。調査区東端では（一枚貝一ハマグリか）が堆積している。この外、ピットや土坑状の落ち込みがみられた。

78街区-1

78街区-1は事業地南西部の南端に位置する。この調査区は高低差があり、段を削ってスロープを設ける箇所にある。

主に段差部分の削平を行ったが、造構や遺物は検出されなかった。

78街区-2

当該調査区は78街区の中央南端部の南北方向の掩壁設置箇所にあたる。調査範囲は幅1m、延長8mである。現地

表から約1m掘削したが、遺構は検出されなかった。遺物は表土および盛土部分に二次的な堆積として須恵器や土師器が混入していた。

まとめ

3地点の本発掘調査を実施した結果、明確な遺構が検出されたのは、10号線-6区で古代から中世のピットや土坑状の落ち込みが検出された。また近世頃と考えられる貝層も前回の調査区に隣接して確認された。これらから、この10号線1~6の調査区付近は浅い土層関係に遺構遺物が包含されていることが再確認された。

2003171

10号線-7

10号線-4区の調査成果と同様、2面の遺構面を確認した。上層面はピット4箇所と南西コーナー部に小さな落ち込み状の遺構を検出したのみである。調査区の制限から、ピットには関連性を見出すことは困難な状況であるが、10号線-4区の場合と同様、中世に属する建物跡が広がっていたものと想定される。下層面では調査区の南西部を中心としてピットが分布し、調査区の北東コーナー付近で石棺を1基検出した。(B地区)

10号線-8

包含層の堆積も認められず、顕著な遺構もまったく確認されていなかった。黒色砂層土(図⑤層)がベース層となるようであるが、この上層は北西方向にむかって傾斜するようであり、この地点が遺跡の営まれた扇状地の先端部分に相当するものと思われる。

78街区-3

33号線-1区に沿う調査区の中では最も東に位置する。南の丘陵部から繋がる北向きの斜面地であり、さらに西接する4区方向に向かって小さく傾斜する地形となる。堆積層の上半部には近世の陶磁器を包含する水田層が2~3枚確認されるが、その下層は丘陵部からの自然堆積層となる。顕著な遺構はなく、5区との境界部で現在の石組み井戸1基と、中央部でそれに先行する時期(近世か)の石組み井戸(図版112)を1基確認したのみである。出土した遺物は古墳時代後期のものが中心を占めるが、9世紀の須恵器と布目瓦片が目を引く。

78街区-4

本調査区も3区と同様、顕著な遺構はまったく確認することはできなかった。ただ、今回の調査区の中ではもっとも良好な黒褐色を呈する遺物包含層(図・黒②層)が北端部の狭い範囲に広がっており、33号線-1区から連続する一連の包含層として捉えられるものである。出土する土器は古墳時代後期のものを中心として、それに8世紀から9世紀のものが若干加わる状態である。

78街区-5

3~4区の南側(山手)に隣接する、東西に細長い調査区である。基本地形は3・4区と同様であるが、4区(西側)に向かって大きく傾斜する形態を呈する。土層の堆積が少なく、旧表土の下層で黄灰色の地山層が露頭する。そのため遺物の出土もほとんど認められず、遺構も確認されなかった。

78街区-6

北向き斜面地区の最西端に位置する。本調査区も北に向かう斜面地形が基本となるが、3~5区とは逆に東に傾斜する谷地形となり、その西側に丘陵からの極小さな支尾根が存在することが知れる。黒褐色の遺物包含層がこの谷地形内に一部確認することができる。さらに、調査区中央部や西寄りに、集石遺構を1基検出した。斜面地を一辺約1.3m規模の隅丸方形に掘削し、その坑底部に人頭大から拳大の亜円錐を敷いた構造となる。これらの円錐は多くが火を受けており、表面が変色を来たす状態にある。この遺構とまったく重複して、長径約1.7m、短径約1.5mを測る楕円形平面の土坑が存在し、その坑底にも同様に火を受けた状態の円錐が数かれる。土坑内からは少量の製塩土器が出土することから、これらの遺構は斜面地に築かれた製塩遺構と考えられる。(B地区)

78街区-7

工事に伴う掘削が現地表下約10cmまでであり、結果的に整地土の中で止まることとなるため、遺構・遺物ともまったく確認されなかった。

78街区-8

4区と6区の間に位置する。4区から西に傾斜した斜面と、6区では東に向かった斜面とが本地区内で合流するため、3~6・8区の中では最も海拔の低い谷地形内に相当する。北に向かって傾斜する斜面には遺構はまったくなく、その傾斜はそのまま33号線-1区の傾斜へと繋がる。調査区の北端部には4・6区で確認した黒褐色の遺物包含層が最大約40cmの厚みで堆積する。包含層の内部からは、同様に古墳時代後期~9世紀代の土器片が大量に出土した。

10号線に伴う2地区と78街区に伴う6地区的計8地区的調査を実施したが、震災に伴う埋蔵文化財の取り扱い基準に従い、工事に伴う掘削が及ぶ範囲・深度までの調査に留めた。そのために、10号線-7区・78街区-4・6・8については、遺物包含層の途中で調査を終了した状態にある。

まとめ

今回の調査により、海側に近い10号線地区でさらに1基の石棺が確認された。棺内からは遺物の出土がないため明確な時期の決定はできないが、覆土から7世紀前半の須恵器杯蓋が出土することから、6世紀後半頃の墓造と想定される。これにより、本事業に伴う一連の調査によって合計5基の石棺が確認されたこととなり、古墳時代後期に一帯が石棺群で構成される墓域として利用されたことが知れる。また、その石材に火を受けた痕跡を残すものが確認されるため、先行する時期の製塙遺構の石材を転用した可能性も考慮しておかなくてはならない。

また、6区で確認した集石遺構は製塙炉と理解されるものであるが、從来同種の遺構が海岸線に近い平坦地に設けられる例が多く報告されている中で、低いといえ丘陵斜面部にまでその設置範囲が及ぶ事実は、今後の淡路島内の製塙遺跡を考える上での一例となるものである。遺構内から出土する土器から8世紀~9世紀に比定されるものであり、周辺調査区で確認されている同様の遺構もほぼ同時期と考えられる。また、上記したように石棺材が製塙炉の転用材とすると、古墳時代中葉から平安時代初頭にかけて製塙活動が継続されていたこととなり、臨海地としての当地区の地域性を顕著に示すものである。

2003208

10号線-9

10号線-1区の西側に位置し、道路拡幅のための調査区である。3×10mの東西に長い調査区である。基本土層は、①表土（旧宅地の真砂土）②灰茶色シルト質細砂（搅乱埋土）③黄褐色細砂（地山）となっている。表土直下が地山となっており、包含層は検出されず、旧建物による搅乱が著しく遺構も確認されなかった。ただし搅乱からは古墳時代の須恵器・土師器が出土している。なおこの付近では地山が浅く、深く掘削された遺構であれば残存している可能性がある。

10号線-10

10号線-6の東側に位置し、道路側溝設置のための調査区である。1×5mの東西に長い調査区である。基本土層は、①表土（碎石）②褐色粗砂（近代の陶磁器、土師質タコ壺・貝の混入多し）③黒色粗砂（古代の包含層）となっている。貝が多く混じる②層からは明治時代の陶器片が混じる。側溝掘削底面はGL-75cmであり、③層の下面までには至らなかった。

10号線-11

10号線-3の北側に位置し、道路側溝設置のための調査区である。1×5mの東西に長い調査区である。基本土層は、①表土（碎石）②淡茶色粗砂（搅乱）③黒色粗砂（包含層）④茶灰色粗砂（古代包含層）⑤褐色砂砾（地山）となっている。④層では主に奈良時代の遺物が出土しており、下面において直径25cm、深さ30cmの柱穴が

1カ所検出された。

まとめ

3地点の本発掘調査を実施した結果、明確な遺構が検出されたのは10号線-11で奈良時代の柱穴が検出された。これららの地区では古墳時代から中世頃の集落が広がっている。

2003222

10号線-12

10号線-5の西側に位置し、道路側溝設置のための調査区である。1×34mの東西に長い調査区である。基本土層は、①緑色碎石（道路基盤層）②緑黄色砂礫（盛土）③黒色砂礫（盛土）④灰色細砂⑤淡茶色シルト質中砂⑥オリーブ灰シルト⑦灰色シルト質細砂（遺物）⑧黄色シルト質細砂・黄茶色砂礫（地山）となっている。既存の埋設物設置による搅乱が著しく遺構は確認されなかった。⑦層からは土師器が見られた。

10号線-13

7街区の北側を東西に通じる10号線の南側に位置し、道路側溝設置のための調査区である。1×20mの東西に長い調査区である。基本土層は、①緑色碎石（道路基盤層）②灰黄色シルト質中砂（擾乱土）③灰茶色シルト質細砂（遺物あり）④黄色シルト質細砂（地山）となっている。既存の埋設物設置による搅乱が著しく遺構は確認されなかった。③層からは弥生土器が混入している。

14号線-5

14号線-4の調査区南東側の南側傾斜地に位置し、道路設置のための調査区である。調査区は南側から北に向う傾斜をなす箇所で北側は盛土されていた。調査地は道路地盤まで高低差があるため、200mの範囲で南東側が広くなる長い調査区である。基本土層は、①盛土②灰色中砂（耕作土）③黄灰色中砂（旧耕作土・床土）④暗灰色シルト質中砂（古墳包含層）⑤褐色粗砂（弥生包含層）⑥黄色粗砂（地山）となっている。④層では主に古墳時代後期（6世紀）の遺物が出土しており、下面において南北4.0m以上、東西4.4mの隅丸方形の堅穴住居跡（SH01）、古墳時代の製塙土器が集中して堆積した土坑（SK01）などが検出された。

2003237

10号線-14

10号線-11の東側に接しており、道路側溝設置のための調査区である。1m×16mの東西に長い調査区である。基本土層は①緑色碎石（道路基盤層）②灰色細砂（耕作土）③淡褐色細砂（埋土）④黄褐色シルト質細砂（近世埋土）⑤暗褐色中砂（近世包含層遺物多い）⑥暗茶褐色中砂（近世包含層）⑦褐色粗砂混じり（地山）となっている。西から東に緩やかに傾斜しており、東方寄りに新しい掘削による埋土の堆積が増す。⑤層から主に近世のタコ壺などの近世遺物が目立つものの、遺構は確認されなかった。

10号線-15

7街区の北側を東西に通じる10号線の西端コーナー付近に位置し、道路側溝設置及び道路地盤改良のための調査区である。基本土層は、①緑色碎石（道路盛土）②白色粗砂③赤褐色細砂（焼土・炭）④淡黄褐色細砂⑤灰色シルト質細砂黄色粘土混じり⑥淡褐色粗砂（近世包含層）となっている。現代の盛土が厚く堆積しており、工事掘削深度までに遺構は確認されなかった。

34号線-4

34号線-2及び34号線-3北側で10号線-2東側に位置し、10号線と交差する80街区北東隅の道路設置による土壤改良のため地下が影響する範囲の調査区である。基本土層は、①暗灰色シルト質細砂（近世包含層）②褐色粗砂（弥生包含層）③淡褐色粗砂（地山）となっている。②層上面では暗灰色粗砂黄色土混じりのピットが11箇所検出された。多くの遺構から土師器の細片が出土しており、中世頃のものと考えられる。北寄りでは暗灰色のピットや

土坑が検出され、古代の土器が出土している。なお②層からは弥生時代中期あるいは後期初頭頃の長頸壺の破片が出土した。

2003242

34号線-5

34号線-5は79街区及び80街区東の34号線の南側道路および側溝、北側東沿い側溝部分の調査区である。調査区の規模は南北の延長40m、幅1~8mであり、面積は161m²である。

調査区南端の基本土層は、①茶褐色シルト質細砂（盛土） ②黄褐色軟岩。南側から20m付近では、①褐色土（盛土） ②黄褐色細砂 ③灰色細砂（近世包含層） ④黄色シルト（地山）。南端から35m付近（北端）では、①淡褐色土（盛土） ②灰色細砂（落ち込み） ③黒色中～粗砂（近世包含層） ④茶褐色細砂（下面で集石・包含層） ⑤褐色細砂（弥生～古代包含層） ⑥黄褐色粗砂（地山）である。

南端から25m付近までは南東方向から張り出した地山の掘削が著しく、遺構は検出されなかった。しかし32~40mの南端にかけて弥生から古代の包含層や集石が検出された。これらは33号線-1で発掘された包含層の東端部であると考えられる。

まとめ

本発掘調査を実施した結果、明確な遺構が検出されたのは北端部付近で弥生から古代の遺構や遺物が検出された。これらは80街区周辺で検出されている弥生時代～近世にわたる集落・生産地の東端部になると考えられる。

2003288

基本土層

調査区では殆どが盛土と地山の2層で構成されていた。一部に、阪神・淡路大震災による瓦礫が残されていたほか、調査区の西側では宅地造成に伴うと思われる削平した地山による盛土が行われていた。

遺構・遺物

当調査地点は震災以前に造成による削平が行われ、遺構・遺物を検出することができなかった。

58街区-1

富島遺跡の範囲のライン上に位置する部分で、周囲より1段高くなっている地区的石垣撤去の立会調査である。その結果、高い部分は盛土によるもので、1m余りの盛土が認められた。その下で近世の包含層と思われる層を検出した。出土遺物は土錘1点だけである。その下はシルト層の砂層が存在するが、遺構・遺物は確認できなかった。

小結

12回の調査で、古墳時代から近世の遺構を検出し、弥生時代から近世の遺物が出土している。調査区によって異なるが、大きく3面の遺構面を調査している。上面は近世～中世にかけての遺構で掘立柱建物跡井戸・土坑が確認されている。地区によってさらに遺構面は2面に分けられる地区もある。第2面では奈良時代の製塩炉跡と思われる遺構が調査された。古墳時代～奈良時代にかけての製塩炉は北淡町野島の貴船神社遺跡で確認されており、それに続く時期の製塩遺跡と考えられ、その位置付けは重要である。古い時期の製塩土器も出土していない。被焼した躑躅は各地区から検出されていることから、当初予想した以上に製塩遺跡は広がっていたものと思われる。第3面の遺構は石棺と竪穴住居跡・旧河道・ピットで、古墳時代の墓域と居住域が検出されたことは意義深い。

遺物のなかで注目されるのは奈良時代の墨書き土器と瓦である。昨年度の調査で方形の大型柱穴を検出していることからも、製塩遺跡以外にも周辺に官衙関連の遺跡が広がっているものと思われる。

6. 平成16年度の調査

2004042

77街区-5

基本土層は、①表土・盛土 ②暗灰黄色シルト ③黄褐色シルト となっている。②層が近世～中世の包含層である。③層は地山である。

調査地点は、77街区の南西部分に位置している。段丘崖に面したところで、北側に大きな段があり、そこに石垣が設けられていた。

北側擁壁工事部分では、遺物包含層が確認された。近世のマダコ殻が主体で、少量の中世須恵器が含まれている。この包含層は中央から西側にかけて厚く、東端までは続いていない。また、西側に向かって浅くなっている、西端では存在すらしていないかった。既に削平されたものと思われる。

西側と南壁擁壁部分も表土直下が地山である黄褐色シルトになり、包含層は認められなかった。遺構も検出できなかった。やはり、早くに地形変化がなされていたものと思われる。

2004173

18号線-1

富島遺跡南東部に位置し、段丘部分に新設される18号線の北側側溝の調査である。ただ、南側の掘削が行えないことから、現状の里道で、現在も水路が通っている部分の工事のため機械が入れない地域である。コンクリート・水路のない小面積の人力掘削可能な地点に調査区を設定した。地表下約30cmで地山であり⑥層が検出され、包含層は確認できなかった。さらに東側の46号線と接する地点は機械掘削で調査を行ったが、擾乱を受けており、遺構面は残っていないかった。遺物も出土していない。

46号線-1

18号線から北側に曲がる46号線の東側側溝（45街区西側）の調査である。地表下40cmは瓦を含んだ盛土と表上で、その下包含層が存在する。工事掘削深度内の調査であることから、包含層の下面まで達していない。遺構も検出していない。南側になるほど地形に即して掘削する深度は浅くなっているから、盛土内の掘削となっている。

45街区-1

46号線東側の街区で、その擁壁工事に伴う本調査である。掘削深度内でかろうじて包含層の一部が検出された。擾乱も多く見られ、遺構は確認していない。近世のマダコ殻や土師器・古鏡が出土している。一部古代の製塙土器も出土している。

2004188

58街区-2

富島遺跡の範囲の北側のライン上に位置する部分で、58街区-1区の西側にある。一部43号線の側溝部分も調査している。

南北方向（43号線沿い）の調査区南側部分では盛土の下に旧耕作土があり、その下に包含層が確認された。ただ、掘削深度が約1mで、近世の包含層の上半部分までを調査した。出土遺物は、タコ壺・土師器・土錐・陶磁器がある。盛土の下で、土坑を確認している。2mの長さがあり、深さ0.4mを測る。近世包含層は土層中途で調査を終えている。遺構検出面には至っていないが、遺構の可能性は十分に予測できる。土層の堆積状況から、下層包含層・遺構が検出されている地点と変化がないことから、下層遺構が残存している可能性は高い。

南端から7mのところに石垣があり、それによって南北で土質は変化している。北側部分は灰色の還元状態の土層である。堆積土の状況から、北側および東西方向の部分は低湿地部分に相当していることが明らかとなった。入り江状の地形を創造させる。掘削深度のなかでは、遺構・遺物は確認できなかった。

2004195

14号線-6

調査区は区画道路14号線の西端に位置し、標高は3.5mを測る。調査範囲は道路センターより北側と調査区北側の側溝を対象とした。上層は北側の側溝部分に現代の搅乱がみられるほか、道路付近は真砂土が入られており、GL-80cmで旧耕作土が検出された。発掘調査の結果、遺構や遺物は検出されなかった。

33号線-5

調査区は77街区と79街区の間を通る33号線の一部で、延長約20m・幅約4mである。調査区から北西に続いて、L字形に仮排水管敷設が行われているため、幅60cm・延長12mの部分も含めて調査を行った。土層は、現表上下の比較的浅いところに遺物包含層があり（西側の仮排水管敷設部分で-15cm、中央付近で-40cm、東端で-25cm）、特に④層とした黒色の砂質土から奈良時代を中心とする多量の遺物が出土している。調査区の北東隅では④層下に製塙土器の細片がぎっしりと堆積した部分も認められた。近接地に製塙遺構が存在するのであろう。

遺構面は遺物包含層を挟んで2面あり、上層の第1遺構面では中世～近世の柱穴や溝・土坑が発見された。柱穴は調査区の中央を南北に走る浅い溝（SD01）を挟んで、両側にわかれしており、屋敷地の区割りを示すものと思われる。調査範囲が狭いため断定はできないが、東西にそれぞれ1棟の存在が想定される。下層の第2遺構面では、調査区の西側で土坑が、東側で柱穴が発見された。土坑は焼土や炭化物を伴っており、火を伴う作業が行われたものと考えられる。柱穴からは1棟の据立柱建物を想定した。これらの遺構は奈良時代に属するものであろう。

79街区-2

調査区は79街区を南北に区画する擁壁に伴う調査区で、延長30m・幅1mを測る。調査区は南北方向の5mおよび西端から5mまでを1区、5mから18mまでを2区、18mから26mまでを3区とした。土層は現代の表土や客土などを下層に6層の近世包含層があり、ピットや土坑状の落ち込みが断面で検出された。⑦層は奈良時代の製塙土器や土器・須恵器などの遺物が多量に出土する遺物包含層である。この⑦層下面では遺構は検出されず、それ以下の土層では出土遺物はなかった。

2004211

14号線-7

14号線-5 南東側の南斜傾斜地に位置し、道路設置のための調査区である。調査区は南側から北に向かう傾斜をなす箇所で北側は盛土されていた。調査地は道路地盤まで高低差があるため、45mの範囲である。基本土層は、①黒色土（表土・盛土）②灰色細砂（旧耕作土・土壌）③黒褐色細砂④明黄褐色中砂（近世以前の盛土？）⑤明黄褐色シルト質中砂（遺物包含層）⑥にぶい黄褐色粗砂（弥生包含層）⑦黄褐色粗砂（ベース）となっている。⑤層上面では黒色炭焼土層が検出され、砥石などが出土した。なお⑥層は弥生時代の落ち込みであるが、遺構にはならなかった。この⑥層からは弥生上器や扁平なサヌカイト素材によるスクレイバーの他、淡路でも採集される円錐素材のサヌカイトも出土した。掘削深度は西端では1.7m程度、東端では0.3mと、東に道路面が上昇する。

38号線-1

この調査区は遺跡南辺に位置し、標高5～6m付近の丘陵末端部にあたる。この調査区は区画道路設置および区画道路13号線東側側溝設置を兼ねている。尚、調査区に先行的に4ヵ所のトレーナーを設けて遺構や遺物の状況を把握しながら調査を進めた。調査区の規模は延長約43m・幅約5mで、東西に長い調査区である。基本土層は、①褐灰色粗砂（盛土・耕土）①にぶい橙色粗砂（耕土）②暗灰黄色シルト質細砂（近世遺物出土）③褐灰色シルト質細砂（近世遺物出土）④にぶい黄色シルト（近世遺物出土）⑤黄灰色シルト質細砂（近世遺物出土）⑥明黄褐色シルト（地山）となっている。地山直上まで近世遺物が主に出土し、中世の須恵器等が混入するものの、地表下70cmまでの掘削予定期限内には遺構は検出されなかった。

38号線-2

この調査区は遺跡南辺付近の、標高4～5m付近の丘陵末端部の緩傾斜地にあたる。この調査区は区画道路38号線の南北方向に位置する。なお、調査区に先行的に4ヵ所のトレンチを設けて遺構や遺物の状況を把握しながら調査を進めた。調査区の規模は延長約50m・幅約4.5mで、南北に長い調査区である。土層に丘陵に近いトレンチ1および2付近と、冲積作用が大きく見られるトレンチ3および4とでは異なる。トレンチ1・2の基本土層は、①にぶい黄色粗砂（表土）②明黄褐色シルト質細砂（旧耕土・床土）③灰白色シルト質細砂マンガン混じり④灰色シルト質細砂（近世耕土）⑤黒褐色シルト質細砂（中世？遺構面）⑥浅黄色シルト質細砂（地山）となっている。トレンチ3・4付近の基本土層は、①浅黄色中砂（整地土）②灰色細砂（盛土）③にぶい黄橙色細砂（床土）④灰色シルト質細砂（旧耕土・床土）⑤黄灰色細砂（製塙土器包含層）⑥黒褐色中砂（製塙土器包含層）⑦灰オリーブ色中砂 となっている。

トレンチ1付近では中世？の柱穴や古代と考えられる集石造構、古墳時代前期頃の土坑状の落ち込みが検出された。この付近は丘陵に近く、安定した地盤が認められ各時期の遺構が存在する。このトレンチ1付近では掘削範囲内の遺構を完掘した。

トレンチ2ではトレンチ1からのびる古代頃の遺物包含層が北側に落ち込む状況が検出された。

トレンチ3では黒色系の土坑や灰色の土坑が検出された。しかし包含層は掘削予定以下であるため、一部で深度を確かめたにとどまり、掘削深度内では遺構は検出されなかった。

トレンチ4では5層や6層で製塙土器が密集した状態で検出された。しかし包含層は掘削予定以下であるため、一部で深度を確かめたにとどまり、掘削深度内では遺構は検出されなかった。

76街区-1

76街区の南西部に位置し、宅地擁壁設置および区画道路13号線東側溝設置を兼ねている。擁壁は北・東・西の一部で幅1m・総延長25mで長い調査区である。また側溝は幅1m・長さ7mの調査区である。なお、掘削深度は現地表面から70cmが掘削深度である。基本土層は、①暗褐色砂礫層（整地土） となっている。既存の建造物による搅乱が著しく遺構や遺物は確認されなかった。

77街区-6

77街区-4の北側に位置し、宅地擁壁設置部にあたる。南北方向に2m・幅1m、東西方向に1m・幅1mの調査区である。なお、掘削深度は現地表面から70cmが掘削深度である。調査の結果、地表下34cmから製塙土器が濃密に存在する包含層になる。GL-46cmで暗灰色粗砂になるが、遺構は検出されなかった。

2004268

18号線-2

18号線-2は富島遺跡の東端部の道路部分に位置し、面積は282m²を測る。当該地に4ヵ所の先行トレンチを設定した。また18号線-3は18号線-2の東側の道路部分に位置し、面積は150m²を測る。当地区では砂層の堆積が厚く、部分的に土器の混入が見られたのみで、遺構が検出されなかった。

18号線-3

18号線-3では堆積土が薄く、地表下50cm程度で黄色系砂層の地山が検出され、その間に近世の蜻蛉の出土を見た程度で、遺構は検出されなかった。

2004303

歩行者専用2号線-1

歩行者専用2号線の両側側溝部が対象であり、埋蔵文化財の調査がされることがなく施工中であった。この時点では、北側工事の掘削は完了し、東側から13mまでコンクリート製品が設置されている。また南側工事は東側から10m

まで同製品が設置されている。

調査は製品が未設置箇所の掘削下面まで掘削し、平面及び壁を精査した。また北側側溝の東端（No.1地点）と西端（No.2地点）にて断面を詳細に観察した。その結果、No.1では標高3.95mまでは以前の搅乱等で自然堆積ではなく、標高3.75m付近の灰黄色シルト質細砂層にて遺物が出土した。西側のNo.2地点では標高3.51mまでは粗砂が堆積しており、上部で二次堆積とみられる遺物が出土した。

これらにより、東部は遺物包含層が掘削されたと考えられる。なお掘削下面までの遺構面の存在は不明であるが、最終遺構面は掘削下に存在するものと考えられる。

2004314

歩行者専用2号線-2

歩行者専用2号線は富島遺跡の中央付近に位置し、南北の側溝を除いた区間が調査対象範囲である。また大歳神社境内付近では古墳時代から奈良時代にかけて製塙土器や遺構が確認されている。

調査の結果、盛土の下に旧耕作土（部分的には表土）があり、その下に包含層が確認された。ただ、掘削深度が約65cmで、近世の包含層の上半分までだけを調査した。西側は粗砂が広がっており、生活面は確認できなかったが、砂層中に磨滅した遺物が含まれている。出土遺物は、タコ壺・土師器・土錘・陶磁器がある。近世包含層は土層中途で調査を終えている。遺構検出には至っていないが、遺構の可能性は十分に予測される。土層の堆積状況から、下層包含層・遺構が検出されている地点と変化がないことから、下層遺構が残存している可能性は高い。

本発掘調査の結果、掘削深度内では明確な遺構は検出されなかったものの、近世包含層が確認されている。下層には古墳～奈良時代の包含層も存在していることは明らかである。

小結

5地点の本発掘調査を実施した結果、明確な遺構が検出されたのは38号線-2区で古墳時代の土坑状の落ち込みや古代や中世と考えられる遺構が検出された。77街区-6区は南側の調査により弥生から中世の包含層や遺構が検出されたが、今回は古代頃に製塙土器を主体とする包含層が検出されたが遺構は検出されなかった。14号線-7区は14号線-5区で調査された最下層の遺構面を精査し、弥生時代と考えられる落ち込みが検出された。

大歳神社周辺の丘陵末端部域には弥生時代以来の集落が存在することがより明確になってきた。

調査の結果、盛土の下に旧耕作土（部分的には表土）があり、その下に包含層が確認された。ただ、掘削深度が約65cmで、近世の包含層の上半部分までだけを調査した。西側は粗砂が広がっており、生活面は確認できなかったが、砂層中に磨滅した遺物が含まれている。出土遺物は、タコ壺・土師器・土錘・陶磁器がある。近世包含層は土層中途で調査を終えている。遺構検出には至っていないが、遺構の可能性は十分に予測される。土層の堆積状況から、下層包含層・遺構が検出されている地点と変化がないことから、下層遺構が残存している可能性は高い。

本発掘調査の結果、明瞭な遺構は検出されなかった。掘削深度内では近世包含層が確認されている。下層には古墳～奈良時代の包含層も存在していることは明らかである。

IV 調査結果

Ⅲ調査概要で記したように5ヵ年にまたがる北淡町教育委員会・兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所による確認調査によって調査範囲を確定した。そして、その結果を元に道路用地・擁壁部分など掘削を伴う部分について兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所による4ヵ年に渡る本発掘調査を実施した。

その結果、明らかな遺構が検出した地点を6地区にくくりA～F地区と呼称することとした。以下、その地区に即して報告する。



第10図 各地区の位置

1. A地区（図版86～89）

調査経過

当地区の周辺では平成8・9年度及び平成11年度の確認調査によって、縄文時代～中世の遺構や遺物包含層の存在が認められている。

調査対象地は公園・宅地用地（460m²）と道路用地（110m²）から成り、それぞれの工事掘削深度に応じて調査を行った。

まず、調査区全域の整地土および旧耕作土を機械によって除去し、旧耕作土下の床土を露にした。床土より下位の層には、中世を中心とする土器片が認められたが、多くは磨滅した細片であった。擁壁部分を除く公園・宅地用地部分ではこの段階で調査は終了した。

次に、幅約1mの擁壁部分と幅約3mの道路用地部分を、工事計画地盤まで機械で慎重に掘り下げた。擁壁部分の北半では、縄文時代の遺物包含層に達し、その上面で中世と思われる柱穴も確認した。また、基盤層上面では縄文時代の遺構も検出した。

（1）遺構の概要

今回の調査で遺構が検出できたのは、調査区北半の擁壁部分のみで、中世のものと考えられる柱穴3基と縄文時代

の土坑5基を検出した。調査区内の微地形や遺物包含層の分布から判断すると、公園用地部分にも遺構の広がりが予想されるが、工事掘削深度は遺構面までは及ばない。ただし、部分的に掘削が深くなって、縄文時代の遺物包含層上面が露呈してしまった箇所では、柱穴1基が検出されている。調査区南半の宅地用地部分や道路部分では、遺物包含層は存在するものの遺構は認められない。

柱穴は縄文時代の遺物包含層（7層）上面で検出されたが、本米は4層或いは5層上面から掘り込まれたものと思われる。径10~30cmで深さは10~30cm、埋土は灰黄褐色を呈する。遺物は出土していないが、中世のものと考えている。

縄文時代の土坑4基（SK03~SK06）は8層中（約30cm掘り下げたレベル）と、9層上面で検出した。平面形はほぼ円形あるいは楕円形を呈すると思われる。大きさは径1m前後、9層上面で検出した土坑の深さは10cmほどしかないが、本來の検出面は7層上面（あるいは8層上面）であるため、深さは40cm近くの土坑となる。埋土は黒褐色シルト泥じり砂層で7層に極めて類似する。土坑内から出土した土器は確認できた範囲内では縄文時代後期のものである。この他に、調査時にSK02と呼んでいた土坑状の落ち込みがあるが、遺構と確定できなかった。

（2）層序

南東側の壁面を中心とする層序を図版88に示す。現代の盛土（厚さ約70cm）下には、断続的に旧耕土（2層）が認められる。最初の機械掘削を行ったのは、概ねこの直下あたりまでである。その下の3層~5層は土壤層で、出土遺物から3層は近世後半、4層は中世、5層は古代~中世の時期が想定される。3層と4層はほぼ水平に堆積し、少なくとも中世には周辺が平坦化され、耕地として利用されたことがうかがえる。

6層~9層は縄文時代の堆積層で6層および7層には比較的多くの遺物が包含されている。後述の土面（649）もこの層から出土している。このうち、土墳化の認められる6層は調査区の北半にのみ分布しており、縄文時代の生活面が存在したことが想定される。しかし、この層は遺構埋土とよく類似しており、上面での遺構検出はできなかった。8層は基礎となる砂礫層で固く締まっている。ほぼ南北方向に細長い微高地状に分布していると考えられ、東側は7層下に埋没してゆく。9層は8層下の砂層で、約10cm下位には礫の多量に含む。8層、9層からも縄文土器は出土しているが、6層、7層に比べるとごく僅かである。

なお、10層~13層は、10層が6層に相当し、11~13層が6層よりも下位の層となることが予想されるが、その関係は十分には把握できていない。特に12・13層については6層よりも上位の層となる可能性がある。

（3）遺構

SK03

楕円形となるような形状の土坑で、長さ1.1m以上、幅約70cm、深さ35cmである。断面形は逆台形を呈する。

遺物は縄文土器の小片が出土している（661・662）。

SK04

不整円形状の土坑で、長径90cm、短径80cmである。9層上面で検出したため深さは15cmと浅い。

遺物は縄文土器の口縁部の小片が出土している（663~665）。

SK05

楕円形状の土坑で、長径90cm、短径65cmである。9層上面で検出したため深さは10cmと浅くしか残っていない。

遺物は縄文土器の小片が出土している（666・667）。

SK06

部分的に検出できただけなので形状は不明である。深さ30cmを測る。

(4) 小 結

調査区の北側に隣接する平成9年度の48Tでは、縄文時代後期の土坑や中世の石組遺構が、調査区の南側に隣接する52Tでは中世の柱穴が検出されている。

擁壁部分北半で検出された中世の柱穴や縄文時代の土坑は、上記の遺構と同じく、それぞれの時期の集落の一角を成すものと考えられる。縄文時代の集落については、基盤となる砂礫層が南東に向かって落ち込んでゆくことが明らかとなり、その範囲は今回の調査区と確認調査での48Tを中心とする埋没微高地に限定された小規模なものとなることが予想される。それが、中世においては、周辺の平坦化が進み、集落の範囲もさらに南側へと広がったものと考えられる。しかし、調査区南半で中世の遺構が検出されなかったことから、建物などの密度は比較的散漫なものであったと考えられる。

2. B 地区

下位段丘面から平地にかけての斜面部分に遺跡は広がっている。区画整理用地内では北西部分に位置しており、A地区の南東部にある。隣接してC地区・D地区が存在している。事業名で識別すると、33号線部分が原則的にB地区である。調査結果で石棺を検出した面の広がりをB地区としたことから、石棺を検出した10号線の西側と78街区も同じ地区にしている。B地区として本調査を実施したのは、平成15年度の4回の調査(2003139・2003146・2003153・2003171)が該当する。

大きさは3面で遺構を検出している。上面は近世の遺構面で、第2面は中世の遺構面である。下面是時期幅があり奈良時代から古墳時代にかけての遺構面である。上面では各調査区で遺構が検出されている。耕作面以外の生活面では、柱穴の可能性の高いピットと井戸が検出されている。包含層からは土鍤・マダコ壺が多く出土している。井戸は2003171の78街区-3区で検出されている。

2003153の10号線-4区と33号線-3区では、調査区のほぼ全域に柱穴が分布する。調査範囲が狭いため建物を復元することは難しく、かろうじて、1棟の掘立柱建物跡になるのではないかと考えられるような配列(SB01)と1列の柱列を見出したにすぎない。

SB01 (図版98・99)

確認された柱の配列はL字形に並ぶ4本だけなので、掘立柱建物になるのかどうか確実ではない。

3本並んだ方を主軸とすると、その方向は北から約60°西に振ることになる。この向きは柱間も2mとよく揃っている。

遺物は柱穴(P08-P10)から9世紀~10世紀代の土師器や黒色土器が出土している(43・46・48・51)。

第1遺構面の遺物 (図版144・145)

ピット (42~53)

(42)は須恵器の坏身である。立ち上がりが短く、口縁端部は丸く仕上げる。

(43~45・48)は土師器の坏である。(43・44)は体部と底部の境が明瞭で、口縁部は直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りである。(43)の体部は強いクロナデが施される。(45)は底部から丸みをもって口縁部が立ち上がる。底部は二次焼成によって肌色に変色しており、(43)や(44)に比べ砂粒も大きいことから、製塩土器であるか、あるいは製塩土器に転用された可能性がある。(48)は薄手のつくりで口縁端部が横にのびる。

(46・47・51)は黒色土器の碗である。いずれも内黒のものである。(46)の内面にはヨコ方向のヘラミガキ密に施される。外面は板ナデか。(47)の調整は不明である。外面にはユビオサエの跡が残る。(51)は輪高台をもつ底部である。見込みにヘラミガキが認められるが、摩滅により不明瞭である。

(52)は土師器の皿である。いわゆる「て」字状口縁の皿で、体部外面にはユビオサエの跡が多数残る。10世紀前

半の年代が想定される。

(49) は製塙土器である。胎土に大粒の砂粒を多量に含む。

(50) は土師器のマダコ壺である。内外面ともナデ仕上げされている。

(53) は土師質の棒状土錘である。径約1cmの小型品で、孔径は3~4mmである。

これらの土器には古墳時代後期（6世紀後半）～平安時代後期のものが含まれており、柱穴の時期にも幅があることが予想される。

その後、少なくとも平安時代後期までには居住域に転化し、建物が建てられることとなる。調査区の南側を流れていた旧河道も埋没し、その上にも居住域が広がっている。
(藤田)

SB02（図版110）

2003171の10号線-7区の上表面はピット4カ所と南西コーナー部に小さな落ち込み状の遺構を検出したのみである。調査区の制限から、ピットには関連性を見出すことは困難な状況であるが、10号線-4区の場合と同様、中世に属する建物跡が広がっていたものと想定される。下層面では調査区の南西部分を中心としてピットが分布し、調査区の北東コーナー付近で石棺を1基検出した。

ピット群はその埋土（図の⑥層）が上層の覆土（同⑤層）に近いもので充填されているため、⑤層の上面から切り込んでいる可能性も残るが、平面的・断面的にもその識別が困難であったため、一応下層面からの切り込みとして記述を行う。これらのピットは、その並びから柱状建物跡（SB02）を1棟分復元することができるが、大半が調査区の南側に広がるため、その規模・建物方向等を明らかにすることはできていない。
(平田)

2003139の33号線-1区の第2面では中世の焼土坑を検出している。検出状況は最大長21mの不定形であるが、本來は隅円長方形になろうかと思われる。西側から東側に向かって深くなっている、床面と壁の一部が被熱している。西側はかろうじて床面が残存しているだけである。出土遺物は少なく、須恵器・土師器の小片であるが、瓦器と思われる破片が含まれていることから、平安時代末から鎌倉時代の遺構かと思われる。

第3面（下面）の遺構は、石棺と製塙跡跡、流路・土坑・落ち込み・ピットを検出している。

石棺は5基あり、3回の調査で検出しているが、比較的隣接した地域で確認されており、7世紀前半の墓域と考えられる。2003153の33号線-1区で1基（ST01）、10号線-4区では石棺3基（ST02~04）と旧河道（SR01）を検出した。石棺は主軸を南東から北西の方向に向けて、5~10mほどの間隔をおいて並んでいる。また、旧河道も石棺の南側をほぼ同様な向きに走行する。2003171の10号線-7区で1基（ST05）調査されている。

石棺1（図版90・93~95）

2003153の33号線-1区で検出されており、段丘面下の低い位置に築かれている。東西方向に主軸を持ち、東西1.6mで幅は0.5mである。中央部分が多少広くなっている。石材は縦積みしている部分と横積みしている部分があり、統一されていない。石は3石まで確認される。周辺にも大形の石材が認められず、蓋石はなかったかもしれない（木蓋など）。床面には小環が敷かれしており、頭蓋骨と脚部の骨が遺存していたが、残存状態は悪く取り上げは困難であった。頭蓋骨南側から耳環が1点出土している。耳環は残存状態が悪く非常に軽くなっている。笛を巻いた製品かと思われる。
(渡辺)

石棺2（図版100~103）

2003153の10号線-4区で検出されている。石棺3・4も同様である。主軸方向は北から45°西に振っている。墓壇は石棺の基底部付近でようやく検出できた。長さ26m以上、幅約1.1mを測り、平面形は隅の丸い長方形状を呈する。

石棺は内法で長さ1.75m、中央部の幅34cm、高さ16~20cmを測る。板状の川原石を立て並べて棺身としており、両小口に各1石、両側石に5石を使用して、1段で棺を構成している。両小口石は側石に挟み込まれるように配置されている。長側石の外側には少し間を開けて、長側石よりも不定形な石を並べており、蓋石の支えとしたものと考えら

れる。なお、長側石の隙間は部分的ではあるが粘土によって目張りがされていた。

蓋石は小口石や長側石より一回り大きな石が用いられている。7石を数えるが、頭から胸あたりにかけては、石が置かれていない。これがもともと無かったのか、後世に取り去られたのかは、調査区断面を検討したが明らかにできなかった。

石棺内には1体の人骨が頭位を南東に向けて埋葬されており、頭の下には長方形状の石を1石置いて石枕としていた。人骨の遺存状態は悪く、頭骸骨や四肢骨の一部がかろうじて残っていた。副葬品は伴っていない。

石棺3（図版104・105）

扁平な川原石を1段だけ長方形に並べて棺身としたものである。石棺2のように石を立てるのではなく、横に寝かせて用いている。石棺の大きさは内法で長さ1.75m、中央部の幅28cm、高さは低く20cm弱を測るに過ぎない。小口には頭側に1石、足側に2石を使用し、長側石は南側で6石、北側は頭側約半分が欠落して4石を数える。欠落が後世の搅乱等によるものかどうかは明らかにできなかった。南側の長側石には少し小さめの石で外側から隙間を塞いでいるような状況が認められる。

蓋石は無く、木蓋などが被せられていたものと思われる。

棺内には北西端付近に頭骨の一部と思われるものが遺存していたため、頭位は北西と考えられる。また、棺底には径数cm程度の小石が散漫に敷かれていた。

主軸方向は北から60°西に振っている。

石棺4（図版106・107）

10号線-4区西の6層中で集石を検出した。図化の後、一部の礫を取り除いて精査すると、石棺2、石棺3と同じような方向の石列が存在することが明確となった。石の配列は不規則ではあるが、これも石棺と判断した。

石棺4は一般的な石棺とは異なり、棺身の構成が不明確である上に蓋石が存在しない。蓋石の代わりに乱雑に小石を積んだような状況が認められたが、それも全体を覆うのではなく、北西側に偏った状況である。

長側石と考えられる石列は北東側に大きな石が使われている。水平に置いたり、立てたりするのではなく、内側に向けて傾斜をつけるような置き方がされている。基本的には1段であるが、部分的に2段に積まれたり、外側にも置いたりしている。これに対して、南西側は小さな石を置くのみで、隙間や欠落も多い。

小口石では、北西側には大きな石が置かれているが、南東側は小さな石が散漫に置かれているだけで、どこまでが棺身なのか判断しにくい。

このような状況であるため、大きさも明確には示しにくいが、およそ内法で長さ2.5m、中央部の幅25cm、高さ10~20cmを測る。長軸方向は北から45°西に振っている。

石棺から時代を知る遺物は出土していないが、旧河道とほぼ同時期とすると、出土した須恵器からTK23もしくはTK208期~MT15期に相当すると考えられる。このような古墳時代の墓域が確認できたことは、古墳の少ない淡路地域の墓制を考える上で、非常に重要な成果であると言えよう。

(藤田)

石棺5（図版110~113）

2003171の10号線-7区で検出されており、内寸で幅約0.3m、全長約1.5mを測るが、石棺の北西コーナー部分が一部調査区外となる。使用される石材は基本的に細長い亜円錐であるが、かなり高い割合で火を受けた痕跡を留めるものが用いられている。棺蓋材は中央部分のものが失われており、棺身部も北側壁部分が大きく損壊している。プライマリーな包含層がその上面を覆うことから、中世までの時期に破壊を受けたものと想定される。棺内では床面の東側小口石に接して、径約15cm程度の頭骸骨と推定される灰色土を確認した。

(平田)

旧河道（図版90・92・93）

2003139の33号線-1区では、調査区東側で検出しており、段丘面から下(北)側方向に流れしており、調査区外に延

びている。北側で北西方向に向きを変えている。幅3.0~3.4mで深さは0.3~0.4mを測る。調査区内では底は平坦であった。底面から上位にかけて多くの遺物が堆積していた。イイダコ壺が日につき一括して廃棄したものと思われる。1縄もしくは2縄のイイダコ壺であろうと思われる。それ以外に須恵器・土師器も多く出土しており、墨書き土器や面取りをした高杯や盤が出土している。そのことから、官衙の一括遺物で近接して遺構が存在している可能性が高い。

(渡辺)

2003153の33号線-3区の南端でも旧河道の北肩を検出した。深さは約15cmである。この旧河道は33号線-1区の調査で発見されていた旧河道(SR01)につながるものである。旧河道が埋没した後には第1遺構面の柱穴などが掘削されている。遺物は須恵器の壺環が出土している(38~41)。TK23~MT15に比定できると考えられる。(藤田)
製塩炉 (図版91・96・97)

製塩炉は3基以上検出しており、それ以外にも集石や焼けた礫が多く確認されていることから、相当規模の製塩遺跡と思われる。製塩土器は丸底Ⅱ~Ⅲ式である。

2003139の33号線-1区では製塩炉を2基検出している。1基は石敷炉(SL01)で、南北1.1m、東西1.0mの円形を呈している。東側のレベルが僅かに高くなっているが、ほぼ平坦に礫を敷いている。礫は古生層の礫と花崗岩が使われている。花崗岩はボロボロになっている。石囲炉(SL02)は石敷炉の西側7mのところに位置しており、僅かに高い部分に礫がかれている。北壁は残っていない。東壁を奥壁とする炉で、幅0.3m余りで、高さ0.2mを測る。2基とも段丘面の変換線上に位置している。

(渡辺)

200317の78街区-6区では、調査区中央部やや西寄りで集石遺構を1基(SL03)検出した。斜面地を一辺約1.3m規模の隅丸方形に掘削し、その坑底部に人頭人からこぶし大の亜円礫を敷いた構造となる。これらの円礫は多くが火を受けたおり、表面が変色を来す状態にある。この構造とまったく重複して、長径約1.7m、短径約1.5mを測る椭円形平面の上坑が存在し、その坑底にも同様に火を受けた状態の円礫が敷かれている。土坑内からは少量の製塩土器が出土することから、これらの遺構は斜面地に築かれた製塩遺構と考えられる。

(平田)

なお、2003153の10号線-4区の石棺3と同じ深さで、自然縛が南東から北西方向の帶状に分布している状況が認められた(図版100)。製塩炉のようなまとまりを把握することはできず、遺物や炭なども発見されなかった。掘形も確認できなかったため、基盤の縛層であろうと考えたが、ごく一部の縛にはっきりと火を受けたものが含まれていた。したがって、まったく自然の堆積物というわけでもなさそうである。その性格を明らかにするには、さらに下層まで調査する必要があったが、調査の性格上、今回は断念した。

(藤田)

第3遺構面の遺物 (図版143・144)

旧河道(38~41)

(38)は須恵器の壺蓋である。口縁部と体部の境の稜はあまり、口縁部にはわずかに内傾する端面をもつ。復元径11.8cmである。

(39~41)は須恵器の壺身である。(39)は体部に丸みがあり、立ち上がりが高く、口縁部に内傾する端面をもつ。口径10cm、器高5.1cm。(40)は体部が低平で、ヘラケズリの範囲は広い。口縁部の端面はほぼ水平で、やや丸みをもつ。口径11.4cm、器高5.1cm。(41)は口縁端部に内傾する端面をもつ。口径12.6cm、器高5.7cm。

(藤田)

3. C地区 (図版114~119)

段丘下の中道の拡幅部分に相当する。10号線-2・3・6・11区と80街区-1~4区が該当する。遺構の性格から西側の10号線-4・7区はB地区とした。南西部にB地区が南東部にD地区が隣接している。遺構面は複数あったと思われるが、削平が激しく他地区より残存度が悪く、1面で調査を実施している。

新しい時期の遺構は貝層と井戸・ピット・土坑である。井戸は1基確認しており、瓦積みの井戸である。近世のも

のと思われる。廃棄段階に息抜きをしており、ヒューム管が差し込まれていた。廃絶は最近のことと想像される。井戸専用の瓦埠を使用している。22×23cmで厚さ3cmを測る埠で、凸面にヘラでハの字状に刻みを入れている。確認した限りでは工人の刻印は認められなかった。明石城武家屋敷跡などで使用されているものと同じで製品である。ピット・土坑は複数検出しているが、性格は不明である。貝層が広く検出している。部分的には50cm以上の堆積部分もある。2枚貝が大半である。土鍤やマダコ壺など近世の遺物が出土していることから、近世の貝層であろう。

製塩炉は5基以上検出しており、それ以外にも集石や焼けた礫が多く確認されていることから、相当規模の製塩遺跡と思われる。製塩上器は丸底Ⅱ～Ⅲ式である。

2003070の10号線－1区では焼けた礫が多数検出され、焼土・灰・炭が検出された。円形などのきれいな形状にはならないが製塩炉が廃棄されたものと思われる。礫のかたまりは5個所あり、55基以上の製塩炉があったものと考えられる。本来の姿を残しているものではなく、全体像は推定できない。現状ではSL01が最大長0.7mで不定形、SL02が最大長0.85mで不定円形にならうかと思われる、SL03は最大長0.65mの不定形、SL04も最大長0.4mの不定形、SL05は最大長0.85mの角張った不定形となっている。花崗岩と古生層の礫が混じっており、上面は平坦である。周囲に製塩土器が出土するが、数cmで厚く広い堆積状況は示していない。

10号線－3区でも焼けた礫の集石が認められ、製塩炉の可能性が高いと考えている。最大長0.9mで不定形を示す。

4. D地区（図版120～123）

C地区の南東部部分で、段丘面上にかかる部分である。段丘下で遺物が集中して出土している。34号線－1～5区が相當する。南側の段丘部分及びその下の一部のみ2面で調査を行ったが、その北側はC地区同様1面で調査を実施した。上面では石組井戸を確認している。2003070の34号線－1区で検出しておらず、息抜きの竹が突き刺さっていた。石組井戸は下部の井側は自然礫を使って円形に積んでいるが、上部（地上部）の井桁は龍山石を凹形・凸形に成形したものを方形に組んでいる。1辺1.2mの正方形で高さ0.6mを測る。C地区の井戸同様廃絶時は最近であろう。同一面で暗渠も検出されている。幅50～75cmの溝に丸太材を置き、その上に礫を詰めている。円礫が主体であるが、角礫も含まれている。

2003146の34号線－2区では近世の落ち込みの南側で礫群が検出され、被熱している礫も多数認められることから、製塩炉と考えられる。最大長1.2mを測る規模である。約15cm掘り下げられている。

下面の遺構は段丘下で旧河道を検出し、そこから多量のイイダコ壺がかたまって出土している。調査対象幅が2mと狭かったことから、旧河道の肩部は調査していないが、埋土から旧河道と考えた。イイダコ壺はコップ形のもので、B地区の旧河道より古い時期のものである。イイダコ壺は一括性が高く、B地区同様に単位として出土したものと思われる。調査区外へ遺物が続いているので、総数量は不明であるが1縄であったろうか。コップ形でも底に穿孔のあるものは含まれていない。

5. E地区（図版124～133）

77街区と33号線－5がE地区である。B～D地区が接しているのに対して、僅かながらでも距離を隔てている。問には遺構が検出されなかった部分が存在する。

2002054の77街区－1・2は隣接した地点で合わせて報告する。

77街区-1

この調査区は77街区中央付近の東西方向に設置する擁壁掘削に伴うものである。全長8m・幅1mの範囲について調査を実施した。当初は工事立会調査の予定であったが、掘削中に遺構を検出したので、調整の結果、本発掘調査を行った。調査時には1～1区と呼称した調査区である。この部分は南北方向の張出部から伸びた緩やかな斜面に位置

し、現在の海岸からは約150m離れている。現況の標高は約4mである。この調査区の背後はかなり急な傾斜であり、その上の丘陵部には南北朝時代の石製地蔵が現存する興久寺が存在する。この興久寺周辺が地番等からも古くから集落が存在したことをうかがわせる区域である。

調査は擁壁掘削深度まで行った。基本層序は以下のとおりである。

- 第1層 盛土層
- 第2層 にぶい灰色砂質土層（炭化物多く含む、にぶい黄色細砂層のブロック混入、径1～3cm大の疊合む）旧耕土と考えられる。
- 第3層 にぶい黄灰色砂質土層（炭化物若干含む、径1～3cm大の疊合む）
- 第4層 濃灰色粘質土層（炭化物若干含む、径1～10cm大の疊合む）
- 第5層 淡黄褐色粘質土層（マンガン分沈着、鉄分多く混入、炭化物若干含む）中世遺物包含層
- 第6層 にぶい黄茶色砂層（炭化物若干含む、径1～5cm大の疊合む）古墳～古代遺物包含層
上面で中世の遺構面を形成。
- 第7層 にぶい黄灰茶色砂層（炭化物若干含む、径1～10cm大の疊合む）
- 第8層 淡灰色砂層 地山層

第5層が中世の遺物包含層である。第6層上面で中世の遺構面を検出した。幅約2.8mを計る土壌状の落ち込み状遺構や柱穴を検出している。土壌状の落ち込み遺構は埋土が3層になっており、当初掘削されたものがある程度埋まっていた（埋土下層）時点で再度掘削され、埋土中層が堆積した後、使われなくなった落ち込んだ部分に埋土上層が堆積したものと考えられる。この落ち込み状遺構が最初に掘削された年代は中世よりもさかのばる可能性がある。この落ち込み状遺構のすぐそばに現代まで使われていた溝が確認できており、この落ち込み状遺構も埋土の堆積状況から何らかの流路もしくは溝であったかもしれない。この遺構のすぐ北側は現況では調査区との間に大きな段差がある。本来の地形よりも調査区付近は水出しとして利用される際に盛土されている可能性が高く、これだけの段差ができたのではないかと考えられる。逆にすぐ北側では切土が行われ、現況で落ち込み状遺構が残っている可能性は少ない。また検出できた柱穴は、狭い調査区であるためどう並ぶのかは不明であるが、77街区-2でも見られるように、このあたりには中世の掘立柱建物が数棟存在したようである。これらの遺構等からは中世の須恵器や土師器などが出土した。また滑石製の石鍋も出土している。

さらに標高3.1m付近の第6層・にぶい黄茶色砂層は古墳時代～古代の遺物包含層である。第7層上面で集石が若干検出できたが、これは77街区-2ではっきりと見られる古墳時代の土器製塙のための集石炉の一部であろうと考えられる。また地山層である第8層上面では弥生時代の柱穴を検出した。これは77街区-2で検出した同時期の土壌や柱穴と関連するものと考えられる。

遺構は検出できていないが、近世の遺物も多く出土している。中には初期伊万里や唐津、天目茶碗等も出土しており、近世の机浦の隆盛を物語っている。

これらのことからこの77街区-1はここから西にかけての尾根根に広がる集落の一部であると思われ、弥生時代には集落跡、古墳時代には生産址、中世には居住区が存在したことがわかる。また、この周辺に同時期の遺構面が広がっていることも推察できる。

77街区-2

この調査区は77街区中央付近にあり、77街区-1の東端から北方向に屈曲する擁壁設置掘削に伴う調査区である。全長10m、幅1mの範囲について調査を実施した。77街区-1の調査の延長上で発掘調査を行ったため、調査時には1-2区と呼称した。

この部分は77街区-1と同じ敷地内に存在する。南西方向の張出部から伸びた緩やかな斜面に位置し、現在の海岸

からは約150m離れている。現況の標高は約4mである。77街区-1の調査結果から遺構の存在が確実視された部分で、現況でも比較的平坦な土地となっている。

調査は擁壁掘削深度まで行った。基本層序は以下のとおりである。

第1層	盛土層
第2層	淡灰茶色砂質土層（黄色微砂のブロック土、径1~5cm大の砾、炭化物含む）旧耕土か？
第3層	にぶい灰色砂質土層（炭化物、径1~5cm大の砾含む）
第4層	淡灰茶色粘質土層（鉄分多く含む、マンガン分、砂礫、径1~5cm大の砾含む）
第5層	淡黄褐色粘質土層（マンガン分沈着、鉄分多く含む）中世遺物包含層
第6層	にぶい黄茶色砂質土層（炭化物、径1~5cm大の砾含む）弥生~古代遺物包含層 上面で中世の遺構面を形成。
第7層	にぶい黄茶色砂層（炭化物、径1~5cm大の砾含む）
第7'層	灰茶色砂質土層（炭化物、径1~10cm大の砾含む）
第8層	淡灰茶色砂層 地山層

色調は若干77街区-1と異なるが、基本的には同様の層序である。第5層が中世の遺物包含層である。第6層上面で中世の遺構面を形成している。標高3.1m付近の第6層・にぶい黄茶色砂層は古墳時代~古代の遺物包含層であり、その下の第7層上面で古墳時代の遺構面を形成している。さらには地山層（第8層）を掘り込んでいる遺構は弥生時代の遺構と考えられ、第8層上面で弥生時代の遺構面が形成されていたことがわかる。

遺構の検出を擁壁掘削深度で行ったため、上記の3時期の遺構を同時に検出する形になった。

第6層上面とを考えられるピットが数個検出できた。77街区-1では落ち込み状の遺構を検出したが、少し北東側であるこの調査区では中世には掘立柱建物があったことが確認できた。平成17年度の淡路市教委の調査ではこの調査区の北側で中世の掘立柱建物を検出しておらず、これらは一連のものとして検討することが必要であろう。近くにある興久寺の南北朝期の銘を持つ石製地蔵の存在からも、中世においてこの地域での集落の発達がうかがえ、それに伴うような調査結果になったといえる。石製地蔵の石材は花崗閃緑岩で、現在の洲本市にある先山から運ばれてきたことがわかっている。このような大きな石を洲本から富島まで運んできたこと、彫刻の素晴らしさなどからも、このようなものを建立することのできる勢力が富島地域にいたことになる。検出した掘立柱建物群は、このことを実証できるものであろう。

第7層上面で、この調査区の中央から南側で焼石の集中箇所が見られた。土壌のような落ち込み状遺構の中に数多くの石が集積されており、焼成を受けていたことなどから、これらは製塙炉であろうと考えられる。直径約1.0mの集石炉と考えられる遺構が3箇所で検出された。その後、多くの製塙遺構を検出した富島遺跡であるが、はっきりとした状態がわかった最初の調査区である。古墳時代には製塙に関する生産址であった。またほぼ同時期と考えられる柱穴を調査区北側で検出している。これらの柱穴は生産址である集積炉より北側の海より位置しているので、何らかの生産址に関連する建物の可能性もある。富島遺跡の初めての全面調査ということもあり、調査時には付近の遺構の状況はわからなかったが、その後数多く行われた他の調査結果から検討すると、この調査区から北西方向にかけて製塙遺構が数多く検出されている。また製塙遺構の南側、つまり山側には居住区があったことが確認されている。この調査区付近から北西にかけての海側で土器製塙が盛んに行われていたことになり、この調査区の海側で検出した柱穴も製塙に伴うものと考えるのがよいのではないかと思われる。また逆にこの調査区の集石炉より山側の柱穴等は居住区に伴うものと考えられるが、今回は検出できていない。この77街区付近から西に古墳時代の集落があり、海岸部では土器製塙を盛んに行い、その山側で居住するというのが垣間見られた調査結果である。

また弥生時代の柱穴や土壌も検出している。77街区-1でも弥生時代の柱穴を検出しているので、この付近が弥生時

代には集落の一部であったことがわかった。

これらのことからこの調査区は弥生時代の集落の一部であり、古墳時代には製塙に関する生産跡であることが明らかとなった。さらには中世にも集落が存在したということがわかった。

小結

富島遺跡はあの阪神・淡路大震災が起こって、その復興事業の中で発見された遺跡である。当初の試掘調査やその後行われた確認調査からも、富島ではメインの道路になる区画道路13号線より西側に遺構が集中している可能性が高いと考えられてきたが、77街区-1・2における調査結果はそれを裏付けるものとなった。先に述べたようにこの77街区を含む富島でも西側の地区は、南西方向の張出部から伸びた緩やかな斜面に位置する。この張出部の上には南北朝時代（応安4年銘）の石製地蔵が現存する興久寺が存在する。富島の地番はこの興久寺を1番地として、この張出部周辺が古くから集落が存在したことをうかがわせる区域である。興久寺の海側には現在富島小学校が存在するが、この付近が張出部の最も先端である。すでに削平されているかもしれないが、興久寺、富島小学校が存在する張出部にも集落が広がっていた可能性は高い。その張出部の周縁に縄文時代から現代まで人間の生活が営まれてきたことがわかつた。その一部がこれらの77街区-1・2の調査である。今後は張出部の状況も含めて、周辺の調査結果からの検討が必要であろう。

この77街区-1・2の東側の区画道路13号線より東側には1本の谷状地形が入っているらしく、それを挟んでさらに東側の大歳神社周辺にも遺構が広がる。しかし77街区から北東の方向には遺構面は広がっていない。この方向には上記した谷状地形と内湾した海岸線があったようであり、これは試掘調査の時点でも明らかになっている。かなり内陸部まで入り込んでいた地形は天然の良港として活用されたのではないだろうか。その両側に海岸線に沿って集落が形成されていたようである。今回の調査区はその西側の一端を明らかにしたに過ぎない。

77街区-1・2の調査では弥生時代の遺構が若干検出された。試掘ですでに縄文時代後期の土器やスクレイバーが出土していることから、縄文時代後期には集落があった可能性が高い。そして現在は富島遺跡と範囲が重なったため消滅した「富島西遺跡」でも弥生土器が採集されていた。弥生時代にもこの地に集落が形成されていたことが、今回の調査でさらに明らかになった。今までの調査成果でも、弥生時代前期～後期まで、弥生時代を通じて富島遺跡に集落が存在することが明らかになっているが、今回の調査はそれを最初に確認した貴重な成果である。

また古墳時代～古代は淡路島で盛んに土器製塙が行われるようになる時代である。特に北淡路はその傾向が強く見られる。これまでに貴船神社遺跡をはじめ、小代呂遺跡や宮ノ前遺跡、畠田遺跡、浜田遺跡など、北淡路の西岸では拠点となるような大きな製塙遺跡やそれに伴う集落が発見されているが、富島遺跡もその一つとなるであろうと考えられ、その最初の発見が今回の調査成果ではっきりと出ている。ここでは述べていないが、昔の海岸線近くに設定したトレンチからはおもりのような石が出土している。これについては遺物の項でまた述べられるであろうが、土器製塙の時代に塙を産出していた富島遺跡ならではの出土遺物と考えられる。出土遺物や炉の状態から貴船神社遺跡よりは古い時期が中心だったと考えられるが、その時代には大量の塙を生産していたと考えられる。これは万葉集に詠まれ、記紀の時代に活躍した「野島海人」や、平城京出土の木簡で見る「育波郷」にいたとされる「海氏」に関係があるのではと考えられる。富島遺跡のこの調査の後、平成16年度に行なった野島菴浦の畠田遺跡からは弥生時代の脚台I式～丸底Ⅳ式までのすべての淡路での製塙土器型式が多く出土しており、その背後の丘陵部からは直径1mを越える柱穴を検出している。野島川の河口に面し、沖合いを通る船もよく見えたこの場所は「野島海人」の拠点集落の1つではないかと考えているが、富島遺跡もそういった拠点集落の1つであったのではないだろうか。試掘で出土した古墳時代の「土馬」は大変希少な遺物であり、そのことからも推察できる。今回の調査で、その一端が現れたと考えることができる。

中世には先にあげた南北朝期の石仏を建立できるだけの勢力がこの地に存在していた。中世には地形から良港とし

て活用されていただろうと考えられ、広い範囲で中世の建物を検出することができる。これは近世に入っても変わらなかったようである。「机浦」と呼ばれていた「机」は「築江」の変化したものではないかと考えることができ、港として築港され栄えていた様子がうかがえる。近代になっても港としてますます隆盛を極めた。初期伊万里や唐津、大村茶碗などが出土したのもこのような背景があつてこそであろう。しかしあくまで漁港としての機能は現代まで受け継がれ、多くのマダコツボや様々な土錐が出土するのも古墳時代から変わらないのであろう。

富島遺跡の調査は現在も継続されており、検討は今後の資料追加によって行うべきものであるが、このような大規模な土器製塙の集落がこの地に存在していたことは大変重要である。しかも遺跡の深度はそれほどなく、比較的浅いところから遺構を検出できており、現存集落の中心部で調査を行ったわりには残存状態がよい。今後の調査結果に期待したい。

2002182の77街区-4

75街区同様に擁壁工事部分の本発掘調査である。南側は夏に調査した77街区-2で、東側が77街区-3である。77街区-2の北側の続きである。幅1m、長さ3mの南北方向の調査区である。遺構面は3面確認している。

第1面は黄褐色シルトの下面でピットを11基と落ち込みを1基確認している。落ち込み(SX01)は北側へ続く浅いもので深さ37cmを測る。途中で段を持って北側へ落ち込んでいる。ピット11基のうち3基は掘立柱建物跡に復元できる。1間×2間以上の建物である。

第2面は⑤層黒褐色中砂下面で検出したもので、礫群が検出されている。拳大の円礫を中心としたもので、被熱した礫も多く含まれている。花崗岩はボロボロになっており、強い熱を受けていたことが窺われる。確実なまとまりはないが、ある程度の固まり・単位はあるようである。集中部分もあり、1m以上の炉跡の可能性が考えられる。遺構上層の包含層から製塙土器も出土していることからも、炉跡が廃棄された状態と思われる。

第3面の遺構は粗砂の面で検出しており、ピットを1基確認している。径25cm・深さ20cmのピットである。弥生後期から古墳時代の土器少量が上の層から出土している。

2004195の33号線-5

2004195の33号線-5区は77街区と79街区の間を通る33号線の一部で、延長約20m、幅約4mである。調査区から北西に統いて、L字形に仮排水管敷設が行われるため、幅60cm、延長12mの部分も含めて調査を行った。当区における工事掘削深度は現地盤からおよそ-60cmである。表土から遺構面までの掘削には重機を使用し、遺構面の精査と遺構掘削は人力で行った。遺構面は2面認められたため、機械掘削は2回に分けて実施した。

層序と遺構の概要（図版129・130）

現表土下の比較的浅い-25~-40cmの深度に遺物包含層があり、特に4層とした黒色の砂質土から奈良時代を中心とする遺物が多く出土している。調査区の北東隅では4層下に製塙土器の細片がぎっしりと堆積した部分も認められた。近接地に製塙遺構が存在するのであろう。

遺構面は遺物包含層を挟んで2面あり、上層の第1遺構面では中世～近世の柱穴や溝、土坑が発見された。柱穴は調査区の中央を南北に走る深い溝(SD01)を挟んで、両側にわかれしており、屋敷地の区割りを示すものと思われる。調査範囲が狭いため断定はできないが、東西にそれぞれ1棟の存在が想定される。

下層の第2遺構面では、調査区の西側で土坑が、東側で柱穴が発見された。土坑は焼土や炭化物を伴っており、火を伴う作業が行われたと考えられる。柱穴からは1棟の掘立柱建物を想定した。これらの遺構は古墳時代～奈良時代に属するものであろう。

第1遺構面の遺構（図版130・131）

SB02

北側の東西方向の柱の通りが良いため、掘立柱建物を想定した。SD101の方向とも合致している。しかし、柱間間隔は一定せず、1.8~2.5mの幅をもつ。

SB03

柱の配列は少しずれているが、1棟の掘立柱建物を想定したものである。SD101の方向とは少しずれる。

SD101

幅60cm、深さ10cmと小規模な溝である。遺物は染め付けの破片が出土しており、近世以降の溝と考えられる。

この他、SD101の西側にはSK101やSK102といった長方形の土坑がある。性格は不明であるが、中世の遺物も混在するが、近世以降の土坑である。

第2遺構面の遺構（図版132・133）

SB04

直交する方向に位置する3本の柱から掘立柱建物を想定したものである。柱間間隔は約1.5mである。

SK201

不整形な浅い土坑で半分ほどが調査区外に続くと思われる。長径約2m、深さ約10cmあり、埋土には焼土や炭が多く認められた。しかし、土坑の底や底面に見えている礫には火を受けた痕跡はなく、焼土や炭などを廃棄した土坑であると考えられる。遺物は土師器壺（492）や土師器杯（493）が出土している。

第1遺構面の遺物（図版232・233）

SK101出土（485）

（485）は土師器の羽釜である。断面三角形状の鋲部をもち、口縁部内外面にヨコナデを施す。15世紀代のものであろう。

SK102出土（482~484）

（482）・（483）は素焼きの七輪で、（482）の内側に（483）が取まる。外側の容器（482）は、外面には径1mm程度の小さな円形の浅い窪みが刺尖によって多数設けられている。口縁部では体部と同様な窪みを縦に5つほど並べたものが温っている。また、体部上方には細長いスリットをあけている。（483）には煮炊き具を支える突起がついており、内面は熱を受けて変色している。

（484）は紡錘形の土師器土錐である。

ピット出土（486~490）

（486）・（487）は上師器の羽釜である。断面三角形状の鋲部をもつもので、（486）では鋲部が痕跡程度になってしまっている。口縁部内外面の調整はヨコナデである。

（488）は東播系の須恵器こね鉢で口縁部を心もち上下に拡張させている。13世紀前半の特徴を有する。

（489）は備前の壺あるいは壺の底部である。小径であることから壺の可能性が高い。内面には灰かぶりが認められる。備前Ⅳ期あるいはV期のものであろう。

（490）は球状の土錐である。孔の一端には棒状の軸を抜く際に生じた盛り上がりと歪が認められる。

第2遺構面の遺物（図版232・233）

SK201出土（492・493）

（492）は土師器壺である。口縁部はゆるやかに外反し、端部は内側に巻き込む。体部外面は粗いタテハケの調整を施す。

（493）は製塙土器である。体部は内済し、口縁端部は尖り気味となる。粘土帯の継ぎ目が残り、ユビ成形の後ナダ

仕上げされている。底部付近は二次的な受熱によって肌色に変色している。古墳時代の丸底口式に分類されよう。

ピット出土（491）

（491）は須恵器杯Bである。小径で深さのある器形で、底部から屈曲して斜め上方に立ち上がる。底部と体部の境はナデによってやや鋭さがある。底部外面には爪形圧痕が巡る。奈良時代の遺物である。

小結

今回の調査では、77街区-2区および33号線-5区において古墳時代～奈良時代と中世～近世の集落の存在が明らかとなった。古墳時代～奈良時代の遺構は、あまり密度の濃いものではないが、近接地に製塙遺構の存在も予想される。中世～近世では小さな溝で区画した屋敷地が存在したことが判明した。

(藤田)

6. F地区（図版134～139）

F地区は富島遺跡南側に位置している。北西方向にE地区が存在する。海岸線からは離れているが、標高はほとんど同じである。調査区北側まで内海が入り込んでいたといわれている地域である。その言葉通り北側一帯はシルト質土壌が広く堆積しており、遺構は検出されていない。調査地南側は一段高くなっている。

SH01は調査区中央部に位置する。⑥層の遺物包含層下面、⑦層上面で検出された。規模は北西～南西の1辺4.0m、南北～北東3.0m以上、深さ0.6mの方形堅穴住居跡であるが、東端部は傾斜下方にあたり削平されているため平面形はやや平行四辺形を呈している。

住居跡内の遺構として、北西辺の中央部に幅0.6m、長さ0.9mの炭・焼土が堆積したかまとを有している。かまと内では1辺6cm、長さ20cmの柱状の石材が立てられていた。尚、主柱穴を入念に精査したが北隅で直径の掘り込みに巨礫が3個集積を検出したにとどまった。柱を安定させるための根固め石の可能性がある。東端では直径0.45mの掘り方を有する小さな土坑が検出され、同所から弥生後期の鉢が出土した。

出土遺物としては6世紀中頃から後半の須恵器・土師器が出土した。なお上部に堆積した製塙土器を含んだ包含層がたわみこんでおり、相当数が混入しているものと思われる。

SK01は調査区の北西隅に位置し、幅1.5m以上・長さ6.0m以上、深さ0.15mをはかる楕円形を呈する土坑である。埋土は10YR5/3にぶい黄褐色細砂であり、土坑内からは古墳時代の土器が少量出土した。

SK03は調査区の南東部に位置し、幅1.8m・長さ1.8m以上、深さ0.20mをはかる不定形な楕円形を呈する土坑である。この土坑は⑨層上面から検出されたもので、埋土はN3/0暗灰色細砂であり、土坑内からは弥生時代後期の土器が少量出土した。

(深井)

V 出土遺物

1. 縄文土器・土製品

富島遺跡における縄文土器はA区北部擁壁掘削部を中心に遺構や遺物が発掘されている。その他の地区においては遺構や包含層から遊離した状態で出土している。土器は中期がわずかに見られるものの、A地区は後期中葉、B地区は後期を一部含むが主体は晚期中葉以降、C～E地区および確認2Gは晚期後葉が出土している。

A地区（636・637以外は擁壁設置部分出土）

〔9層 晚期土器〕

（688）は口縁直下でクランクするもので表裏とも研磨されている。浅鉢型土器である。

〔8層 後期土器〕

（633）は縁帯文の深鉢型土器で口縁外側に半円形状の沈線がめぐる。（634）は口縁端部が肥厚し一条の幅広の沈線がめぐる深鉢型土器である。（635）は口縁が僅かに外反する深鉢型土器である。

〔黒褐色土層 後期土器〕

深鉢型土器

（636）は北部西側出土で、波状口縁外側に波頂部に基点とする沈線を有する。（637）は南部道路部分出土で、波状口縁をもつ深鉢型土器である。（638）は沈線により円弧を描く磨消縄文土器、（639）は胴部上半に斜め方向の沈線を施すものである。（640）はクランク文を施した深鉢型土器である。（641）は口縁上端部付近に幅広の沈線を有する深鉢型土器である。（642）は口縁屈曲部外側に2条の沈線を有する。（643）・（644）は貝貝条痕の深鉢型土器の胴部破片である。（645）は底径5.8cmを有する深鉢型土器底部である。646は平底の底部である。

浅鉢型土器

（647）は口唇部内面に刻み目を施す浅鉢型土器で元住吉山式土器Ⅰ期である。

注口型土器

（648）は口縁がすぼまるタイプの注口土器であるが注口部は欠損している。

土面

（649）は土面の左目じりから眉にかけての破片である。残存長6.0cm、幅3.5cm、厚さ1.3cm、ほぼ平坦であり端部にかけては若干薄くなり、端部付近には径0.6cm程度の穿孔がある。顔面表現のうち日はくりぬかれ断面は平坦で、眉は沈線2本により表現されている。これまでの近畿地方例を参考にして復元すると全長18cm、幅16.5cm程度になると考えられる。これまでの土面の大きさでは仏並遺跡（注1）出土例とほぼ同規模であるが、小片で全体像を考えるには無理があるが、面の曲面が見られないことや眉が粘土の突起で表現するのではなく、沈線で描かれていることなどが相違点となる。近畿地方の縄文時代の土面の出土例は大阪府泉南市仏並遺跡で1例、滋賀県能登川町正楽寺遺跡（注2）で1例、三重県名張市下川原遺跡（注3）で1例であり、この富島遺跡例が4遺跡、4例目となる。なお、四国の出土例として徳島県徳島市矢野遺跡（注4）が1例ある。

〔6層〕

中期深鉢型土器

（650）は縄文地に沈線竹管文を施した深鉢型土器であり、中期の里木II式から船元IV式に相当する。

後期深鉢型土器

（651）は口縁部上端に沈線による弧状の重線が施される。（652）は口縁部を拡張し沈線を山形に施した深鉢型土器であり北白川上層3期のものである。（653）は幅広沈線を口縁に2条施した縁帯文の深鉢型土器である。（654）は粗

製深鉢型土器の口縁部である。(655)は口縁部を外側に折り曲げて肥厚させた深鉢型土器で胴部には縦条線が施される。(656)・(657)は口縁が外反する粗製深鉢型土器である。(658)は口縁が内湾する粗製深鉢型土器である。(659)は深鉢型土器の底部である。

〔SK02 後期土器〕

(660)は深鉢型土器下半部に繩文が施された破片で後期中葉と考えられる。

〔SK03 後期土器〕

(661)は河内地方特有の角閃石を含む胎土をもつ深鉢型土器口縁部である。(662)は表裏に巻貝条痕調整が施された深鉢型土器下半である。

〔SK04 後期土器〕

(663)は波状深鉢型土器口縁部であり、幅広の沈線およびRL繩文がみうけられるすりけし繩文土器で、中津式と考えられる。(664)は同形態であるが、口縁部上端はRL繩文が施される。(665)は深鉢型土器口縁部で端部にかけて肥厚する。胎土に角閃石が入ることから河内地方産の可能性がある。

〔SK05 出土後期土器〕

(666)はRL繩文が施された深鉢型土器胴部破片である。(667)も(666)同様の破片である。

〔P02 後期土器〕

(669)は胴部に浅いくぼみを有する深鉢型土器である。(670)は胴部下半部に縦条線が認められる深鉢型土器である。(671)は口縁にかけてやや外反する晩期の可能性のある粗製深鉢型土器である。

〔P04 後期土器〕

(668)はLR繩文が施された深鉢型土器胴部破片である。

B地区（33号線－1 黒褐色砂層）出土

後期深鉢型土器

(672)は胴部に屈曲部をもち口縁部にかけて若干外反する後期深鉢型土器である。

晩期深鉢型土器

(673)は口縁付近でくびれをもち口縁にかけてやや内湾する土器で河内胎土を有する晩期の深鉢型土器である。(674)は33号線－1区出土で、口縁にかけて内湾し、口唇部に刻みをもつ土器で河内胎土である。(675)は胴部にくびれをもち刺突文をもつ深鉢型土器である。(676)は口縁にL字の切れこみをもつ器面がヘラにより調整されたものである。(677)は胴部くびれ部上に逆C字の爪形が施される。(678)は胴部にかけてすぼまり、胴部中央でいったん膨らむタイプの凸帯文土器である。口縁直下に肥厚する凸帯をもち、右上から左下にむかって切り込み状の刻みが見られる。また外面にはヘラによる斜め十字の文様が施されている。(679)・(680)は口縁部にかけて外反するもので二枚貝条痕が施される。(681)は胴部上半から口縁にかけて外傾し、屈曲部はユビナデにより調整される粗製深鉢型土器である。(682)は胴部下半部で表面に条痕が施される。(683)は口縁にかけて外反する粗製深鉢型土器である。(684)は深鉢型土器の胴部上半で屈曲するもので河内胎土である。(685)は胴部上半でカーブするもので表裏条痕が施される。(686)は口縁内面に1条の沈線をもち、表裏とも丁寧に研磨されている。

晩期浅鉢型土器

(687)は口縁下で屈曲し、口縁にかけて外反する浅鉢型土器である。688は外反する口縁端部が上に拡張されているもので、拡張部外面に1条の沈線が施される。

C地区（黒褐色砂層）出土

晩期深鉢型土器

(689)は10号線－10区出土で口縁がやや外反し、その下部にD字の刻みをもつ凸帯文土器で、口唇部に同様の刻み

が施される。(690) は80街区-4出土では直立する口縁をもち、口縁から垂れ下がる凸帯があり斜めの刻みが施され、口唇部にも同様の刻みがある。外面には条痕がみとめられる。

D地区（34号線-1 黒褐色砂層）出土

晩期深鉢型土器

(691) はやや内傾する口縁下部に「O」字の刻み目をもつ凸帯文土器で、口唇部にも同様の刻みを施される。また胴部にかけて条痕がみられる。

E地区（77街区-2 SX201）出土

晩期深鉢型土器

(692) は胴部にかけて膨らんでいることから砲弾型を呈するものと考えられる凸帯文土器である。口縁直下に凸帯を巡らし、棒状工具で正面から刺突する。胴部上半にむけてヘラガキ沈線が施される。口唇部にも棒状工具で押さが見られる。(693) は粗製深鉢型土器胴部下半の破片である。

確認調査（2G）出土

晩期浅鉢型土器

(694) は口縁上端にリボン状の突起を有し、口縁端部内側に肥厚する浅鉢型土器である。

(注1) 松尾信裕ほか『仏並遺跡発掘調査報告書』財団法人大阪府埋蔵文化財協会

(注2) 植田文雄ほか『正樂寺遺跡』能登川町教育委員会 1996

(注3) 門田了三『下川原遺跡5次調査概要』名張市遺跡調査会 1997

(注4) 藤川智之ほか『矢野遺跡（II）（绳文時代篇）』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2003

2. 弥生土器

量的には多くはない。遺構としては、F地区として報告した2003222の堅穴住居跡（SH01）下層のSK01だけである。大型の土坑である。圓化した土器は3点である。壺2点と鉢1点であるが、時期差が認められる。(614) は長頸の壺で口縁端部に刻み目を有している。外面はタキ成形のちハガキで仕上げている。内面はハケ整形のちナデで仕上げている。(615) は前期末の鉢か壺であろう。2条の突帯とその下に沈線が1条認められる。突帯には刻み目が施文されている。(616) は上げ底の底部から開き、最大腹径から内湾する胴部を持つ壺である。口縁部は欠失している。全体の形状は倒卵型をしている。

包含層からも少量出土している。13点の土器を図化した。(695) は長頸壺の口縁部で、端部が肥厚している。(696)(697) は似たタイプの鉢である。体部外面に波状文が施されている。

(700)(701)(703) は高杯である。(703) は残存状態が最もよく杯部下半が残っている。内面ヘラケズリ、外面ヘラミガキで、脚の高い中期後半の高杯である。円板充填で杯底を柱状部と接続している。杯部も深く木器模倣形のものかと思われる。(700) は裾部のみであるが、似た形状・時期の高杯であろう。(701) は端部の肥厚度が低く、縦やかで径もやや大きくなっている。時期はやや下るかと思われる。

(702) は形状は高杯かと思われたが内側に端部を曲げており、大きく異なる手法である。脚部の低いタイプで高杯ではなく、器種の異なる舞台部であろうか。

(704)～(707) は底部である。(704)(706) は壺の、他は壺の底部である。(704) が中期後半で、他は後期にならうかと思われる。

3. 古墳時代の土器

(708)～(716) の9点は古墳時代はじめから前期の古式土器である。(708)～(716) は壺で、(708) だけがほぼ全

体がわかる個体である。壺・甕・高杯を図化している。表面磨滅の著しい遺物が多いが、(708) のように保存状態が良好な土器もあり、大きく離れた地点から来たものとは思われない。扁平な球形の胴部からラッパ状に大きく開く口縁部になる。端部付近は外反から水平に近い形状になっており、端部は角張っている。小石粒を含むものの胎土は良好であり、焼成も良い。内面はユビ成形のちナデ仕上げで、外面はハケ整形を行っている。口縁部はヨコナデである。(709) は下膨れの球形の体部から底部の破片である。僅かに平底を残す底部で、不安定である。薄く丁寧に仕上げられており、外面はハケ整形である。(710)～(712) も底部である。(710) は壺で、他は壺である。(711) は大形の底部で時期が弥生時代に遡る可能性がある。(713)～(715) は甕口縁部で、(715) は他地域からの搬入品と思われる。(716) は椀形高杯の杯部であるが、外面にはユビ成形が見られる丁寧な仕上げとはいえない。

(717) は古墳時代後期の土師器甕で、平底に近い丸底で最大腹径と口径がほぼ同じである。内面ヘラケズリで外面ハケ整形である。口縁部は外反し端部は丸くヨコナデで仕上げている。

(718)～(726) は古墳時代の須恵器である。(723)～(725) は杯蓋で、(723) はつまみは残存していないものの宝珠つまみを有する蓋で、天地逆転する 7 世紀はじめの土器である。(718)～(722) は杯身で蓋とほぼ同時期であろうが、(721) (722) は径が大きく、立ち上がりもしっかりしていることから、1 时期遡ると思われる。

遺構出土では 10 号線 - 3 区で古い須恵器が認められる。立ち上がりもあり、丁寧な仕上げでもあり、径も小さくシャープであることなど古相を示している。5 世紀後半で、新しくても TK23までの須恵器である。

4. 製塙土器

富島遺跡の特徴を表す遺物であり、多数出土している。量的には多いものの、周辺の製塙遺跡（貴船神社遺跡・浜田遺跡）と比較すると少ない。出土状況でも濃密な厚い堆積状況は示していない。製塙炉周辺で当然多く出土しているが、旧河道からも多く出土している。製塙時の縦年は広瀬縦年による呼称である。

1 点の脚台Ⅲの土器 (314) があるが、他はすべて丸底Ⅱ・Ⅲの製塙土器である。(314) の脚台は輪高台状で外側に開いている。体部は水平ぎみに広がることから新しい傾向を示してはいるが脚台Ⅳにはならないと思われる。

丸底Ⅱは口縁部が直で内傾するものが主体である。端部は尖る (317) か丸くなるもの (318) と内側にナデによって折り曲げたようなもの (316) に分けられる。底部は丸底が主体と思われるが、僅かに尖りぎみのものも存在する。小形の尖り底は丸底Ⅱの範疇かと思われる。ユビ成形のちにナデとヨコナデで整形している。成形のタタキは認められない。土器量は多いが小片が多く図化点数は少ない。

丸底Ⅲは量的には丸底Ⅱと変化がないものと思われる。形態的に似たものがあるが、器壁が厚くなる。口縁部はキャリバー形と内傾するものと外傾するものがある。外傾するものは厚く浅いように復原される。端部は丸底Ⅱと同様に尖るもの、丸いもの、内側に折り曲げるものがある。底部は尖りぎみの丸底である。ナデで粗く仕上げているものが多く、布の痕跡がある破片は認められない。(449) はタイプの異なるもので、外反する口縁部に不安定な平底状の底部が付く。尖り底でないタイプである。

5. 古代の土器

比較的図化点数が多い。大半は日常品で、甕・瓶・甕・鍋が目に付く。須恵器は、各器種があるものの量的には多くない。杯から 8 世紀前半のものではなく、後半に限られる。7 世紀中ごろから多少の空白期があったようである。鉢・壺・長颈甕・瓶などの器種がある。ただ、遺構の存在する地区の方が僅かながらも古い時期の遺物である 8 世紀前半代の土器も含まれている。そして須恵器の出土量が多いように思われる。製塙炉跡近辺は B 地区旧河道 (SR01) のように墨書き土器をはじめとして質の高い遺物が出土している。墨書き土器は「田家」(25) と記号 (24) が確認されている。墨書き土器は 2 点とも杯 A である。底面が平滑な丁寧に仕上げられた土器である。それ以外の須恵器

全般よりも丁寧に作られた製品である。富島遺跡の場合、杯Aの方が丁寧な作りである。色調もやや淡い印象がある。口径も15~16cmに限られている。それに対して杯Bは歪んでいるものが多く、口径も13~16cmと幅がある。器形にもバラエティがある。直線的広がるものや外反するもの、後に近いものを有するものなどである。甕・壺の大形品も少なからず出土しており、周辺に居住域が広がっていた可能性が高い。

土師器は、精製の杯・皿・高杯も出土しているが、日常の甕・瓶・壺が多く出土している。なかでも甕は全体像が明らかなもの（274）をはじめ資料に恵まれている。甕はユビ成形のちハケ整形し、ナデ調整をするのが多い。縦方向のハケ整形が多く、一部頸部周辺のみ横方向のハケも見られる。外反する口縁部で体部は長削化している。甕もユビ成形語ハケ整形が主である。鶴はユビ成形で付加しており、指圧痕が顕著に見られる。把手を有するものもある。瓶も製作技法は同じで、ハケ整形が多用されている。把手のタイプは直線的なものと外反するものがある。

縦軸陶器も数点出土している。圓化したのはB地区SR01出土の椀底部（14）とその近接した包含層出土の同じく椀底部（269）の2点だけである。焼成は良好で高温で焼かれている。逆台形の高台部を有する。

（437）は棒状のもので土馬の足かと思われる。確認調査でも頭部が出土している。4.35cmと短いものであるが、端部はつま先を意図しているように思われる。

6. 中世以降の土器

（507~514）は土師器培焼で長谷川分類播磨型鍋から系譜の追えるものである。体部及び底部の形態から深手で底部が丸底状になるもの（507・508・509・514）と浅手で平底のもの（510・511・512・513）に分類される。いずれも口縁部から体部内外面にかけてヨコナデ調整を施す。510は体部外面に成形時の叩き目が残る。（507~509・514）は長谷川分類培焼形IV A類に形態が類似し、17世紀中頃~後半代に、（510~513）はIV C類に類似し、18世紀前半代に比定される。ただ、（510）については、外面に叩き目が残り、古相を呈することから、時期がこれより遅る可能性も考えられる。

（515）は土師器鍋である。外面に断面三角形状の退化した鶴を貼り付ける。粘土紐巻上げ成形で、口縁部内外面は強いヨコナデ調整を施す。体部外面には平行叩き目が残る。長谷川分類播磨型I B類相当で、15世紀中頃に比定される。

（516）は底部がやや丸底状を呈し、体部はほぼ直立する。ロクロ成形で内外面とも回転ナデ調整を施す。皿と考えられる。（517）は底部の器壁が非常に厚く、平底で体部はほぼ直立する。ロクロ成形で内外面とも回転ナデ調整を施す。底部外面は未調整で糸切痕が残る。

（518）は瓦質土器の火舎である。平底で体部は内彎気味に斜め上方に延びる。底部外面には脚を貼り付けた痕跡が残る。内外面ともミガキ調整を施し、器面を平滑にする。

（519）は無釉陶器火舎と考えられる。平底で底部外面に角錐形の脚を3箇所貼り付ける。体部は外上方に延び、口縁部は上面に水平に端面をもつ。内外面とも回転ナデ調整を施す。

（520）は染付磁器皿である。高台径は小さく低い。体部は内彎気味に斜め上方に延びる。体部内面に織文を描き、内外面とも透明釉を施釉する。高台脛付には砂が附着する。肥前系初期伊万里碗で17世紀前半代に比定される。

施釉陶器

（521）は底部の器壁が非常に厚い。幅の広い低い高台を削り出し、体部は緩やかに斜め上方に延びる。内面から体部外面の上半まで灰釉を施釉し、外面の体部下半以下は露胎である。肥前系唐津皿で17世紀前半代に比定される。

（522）は断面台形状の比較的低い高台を削りだし、体部は僅かに内彎して斜め上方に延びる。内面から体部外面上半まで灰釉を施釉し、外面の体部下半以下は露胎である。底部内面の釉は蛇の目状に釉ハギする。肥前系唐津皿で17世紀後半~18世紀前半代に比定される。

(523) は体部が内彎気味に斜め上方に延び、口縁部は僅かに外方にひらく。内外面とも鉄軸を施釉する。外面の体部下半以下は露胎である。近世以降の美濃系天目茶碗と考えられる。

(524) は底部の器壁は厚く、比較的幅の広い低い高台を削りだす。体部は内彎気味に斜め上方に延びる。内面から外面の体部上半まで灰釉を施釉し、体部下半以下は露胎である。高台疊付は三日月状を呈する。肥前系唐津天目茶碗と考えられ、17世紀前半に比定される。

壺 (525) 無釉陶器では頸部が短く直立し、口縁部は僅かに玉縁状に肥厚する。内外面とも強い回転ナデ調整を施し、体部外面には櫛描きの波状文を施文する。外面には胡麻状に灰被りが見られる。備前焼IV期相当で15世紀代に比定される。

播鉢 (526) は体部が直線的に斜め上方に延び、口縁部は上下に拡張して縁帶を形成する。内外面とも強い回転ナデ調整を施す。体部内面に櫛描きで6条1単位の櫛目を施文する。外面は胡麻状の灰被りが見られる。備前焼IV期相当で、15世紀代に比定される。

(527) は平底で体部は直線的に斜め上方に延びる。底部内面および体部内面に櫛描きで密に櫛目を施文する。焼成はあまく、軟質である。近世以降の備前焼播鉢の可能性が高い。

壺 (528) は口縁部が楕円形状に肥厚する。色調は暗赤褐色に発色する。備前焼IV期相当で、15世紀代の所産である。

壺 (529) は平底で体部は直線的に外上方に延びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。IV期～V期相当の備前焼壺の底部と考えられ、15～16世紀代の所産であろう。

捏鉢 (813～825) は須恵器捏鉢である。粘土紐巻上げ成形で、内外面とも強い回転ナデ調整を施す。いずれも東播系須恵器魚住窯の製品と考えられる。口縁部の形態の違いから、口縁部が断面三角形状に拡張し、内面が窪むもの(813・814)、口縁端部がやや丸みをもち内面がやや窪むもの(818)、窪まないもの(821)、口縁端部が外方に突出するもの(815・823・824)、口縁端部を内側に折り曲げるよう傾けるもの(816・817)に分けられる。

(813・814) は池田分類C 3類相当で、14世紀後半～15世紀前半に、(818) はC 2類相当で14世紀代に、(821) はC 1類相当で、13世紀後半～14世紀前半に、(815・823・824) はD類相当で14世紀代に、(816)・(817) はF類相当で、14世紀後半～15世紀中頃にそれぞれ時期が比定される。

(825) は底部のみの残存で、平底で体部は直線的に斜め上方に延びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部外面は未調整で糸切痕が残る。

椀 (826～828) は瓦器椀である。いずれも底部を失する。(826) は器高が比較的低い。体部は僅かに内彎気味に斜め上方に延び、口縁端部は丸みをもつ。内外面とも指おさえの後、ヨコナデ調整を施す。

(827) は体部が内彎気味に斜め上方に延び、口縁端部は丸みをもつ。体部内面はナデ調整の後、ミガキ調整を施す。体部外面はナデ調整を加える。体部外面下半には指頭圧痕が残る。

(828) は器高がやや高い。体部はほぼ直線的に斜め上方に延び、口縁端部は丸みをもつ。体部内面はヨコナデ調整の後、ミガキ調整を施す。体部外面は指おさえの後、ナデ調整を加え、指頭圧痕が残る。

椀 (829～831) は黒色土器椀である。(829) は器高が比較的高い。体部は内彎気味に斜め上方に延び、口縁端部は丸みをもつ。体部内面はナデ調整の後、ミガキ調整を加える。体部外面は指おさえの後、ナデ調整を施し、指頭圧痕が残る。口縁部内外面には強いヨコナデ調整を施す。

(830) は「ハ」の字状に外方にひらく低い貼り付け高台をもつ。内面にはミガキ調整、外面はナデ調整をそれぞれ施す。(831) は比較的細く低い高台をもつ。内外面ともナデ調整を施す。底部外面にヘラ切痕が認められる。

皿 (832) は器壁が全体に薄い。平底で体部と底部の界は明瞭でなく、体部は緩やかに斜め上方に延びる。口縁部外面に凹部をもつ。内外面ともヨコナデ調整を施し、口縁部外面は強いヨコナデ調整を施す。色調は橙色を呈する。

碗 (833・834) は青磁碗である。(833) は体部外面には線刻の細蓮弁文を施文するが、剣頭は不明瞭である。内外

面とも青磁釉を施釉し、オリーブ灰色に発色する。龍泉窯系青磁細蓮弁文で16世紀代に比定される。

(834) は体部外面に片切彫りの蓮弁文を施す。鍋は比較的のまい。内外面とも青磁釉を施釉し、灰オリーブ色に発色する。龍泉窯系青磁鍋蓮弁文碗で13世紀代に比定される。

羽釜(836)は土師器で上部を欠失する。口縁部外面に断面台形状の比較的幅の広い鈎を貼り付ける。内外面ともヨコナデ調整を施し、外面には縱方向の、内面には斜め方向のハケ目調整を施す。

(837)は断面台形状の比較的幅の広い鈎を口縁部の最上位に貼り付ける。内面は指おさえの後、ナデ調整を施す。口縁部外面は指おさえの後、強いヨコナデ調整を加える。また、体部外面はナデ調整の後、ハケ目調整が施され、器面にかすかにハケ目が残る。

土師器鍋は鈎の形状およびその成形技法から、断面三角形状の退化した鈎を貼り付けるもの(835・838・839・841・842・844・845)、鈎が退化し、段状となったもの(840・843・849)、段が消えて、鈎が消滅したもの(850～853)に大きく分類される。

(835・838・839・841・842・844・845)は口縁部外面に退化した断面三角形状の鈎を貼り付ける。いずれも、粘土紐巻上げ成形で、体部外面には横方向(837)あるいは斜め方向の平行叩き目(838・839・841)が残る。また、内面にハケ目調整を施すもの(838)がある。いずれも、長谷川分類播磨型I類相当で15世紀前半～16世紀初頭に比定される。

(840・843・849)は鈎の退化が更に進み、段状になったもので、長谷川分類播磨型II類に相当し、16世紀中頃～後に比定される。

(850～853)は段状の鈎が完全に消滅したもので、外面に斜め方向の叩き目の残るもの(850・852)、格子目叩きの残るもの(853)などがある。いずれも、長谷川分類播磨型III類相当で、16世紀末～17世紀前半に比定される。

三足鍋(846～848)は三足鍋の脚部と考えられる。いずれも外面にナデ調整を施す。

焙烙(854)は土師器焙烙である。体部は短く、内傾する。型作り成形で、内外面とも回転ナデ調整を施す。形態の特徴から19世紀前半代の所産と考えられる。

羽釜(855)は土師器羽釜である。外面に断面台形状の比較的幅の広い鈎を貼り付ける。内外面とも器面の摩減が著しく詳細な調整は不明であるが、内外面ともヨコナデ調整を施している。

擂鉢(856)は無釉陶器擂鉢である。体部は僅かに内彎気味に斜め上方に延びる。口縁部は丸みをもつ。外面は指おさえの後、回転ナデ調整を施す。内面は横方向の粗いハケ目調整の後、7条1単位の櫛搔きの播目を施す。焼成は堅緻で明赤褐色に発色し、口縁部外面には重ね焼痕が見られる。产地は不明である。形態的には土師器擂鉢に酷似し、16世紀代の所産と考えられる。

擂鉢(857)は土師器擂鉢である。体部は内彎気味に斜め上方に延び、口縁部は僅かに外方にひらく。口縁部内面から体部外面は回転ナデ調整を施す。内面は(856)と同様に横方向の粗いハケ目調整の後、9条1単位の播目を施す。16世紀代の所産と考えられる。

皿(858)は無釉陶器の皿である。器壁は全体に厚く、平底で体部はほぼ直立する。内外面とも回転ナデ調整を施し、底部外面は未調整で、糸切痕が残る。焼成は堅緻で明赤褐色に発色する。

皿(859・860)は土師器皿である。いずれもロクロ成形で、平底で体部は短くほぼ直上に延びる。また、器壁はいずれも比較的厚い。内外面とも指おさえの後、回転ナデ調整を施し、底部は未調整でヘラ切痕が残る。(860)は体部外面に指頭圧痕が残る。

壺(861)は平底で体部は短く斜め上方に延びる。内外面ともヨコナデ調整を施す。割面が摩減し皿状の形態を呈するが、元来は壺で、おそらくは嫡壺の底部片と考えられる。

(862)は丸瓦片である。外面には多方向のナデ調整が、内面には布目圧痕が残る。

壺（863）は無釉陶器で頸部が直立し、口縁部は若干玉縁状に肥厚する。外面には胡麻状に灰被りが見られる。16世紀後半から17世紀前半代の備前焼と考えられる。

（864）も口縁部は（863）と同様の形態を呈するが頸部は短い。体部は大きく内彎する。16世紀後半から17世紀前半代の備前焼壺と考えられる。

火入れ（865）は体部が外反し、口縁部は上面に水平に端面をもつ。内外面とも回転ナデ調整を施し、口縁部内外面には赤土部を塗布する。また、体部には縦耳状の把手を貼り付ける。近世前半の丹波焼と考えられる。

鉢（866）は体部と底部の界は大きく屈曲し、体部は直線的に斜め上方に延びる。口縁部は水平に外方にひらく。内外面とも回転ナデ調整が施され、外面には2条の沈線が巡る。近世後半から近代にかけての植木鉢と考えられる。

培培（867）は器壁が非常に厚く、体部は緩やかに斜め上方に延びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内外面とも、煤が附着し、培培と考えられる。

（868）は鉄製の羽釜を模倣した羽釜である。体部外面には断面長方形形状の比較的幅の狭い錫を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整の後、ヘラミガキ調整を施す。口縁部外面には四線を4条施す。近世以降の瓦質土器羽釜と考えられる。

播鉢（869）は無釉陶器で体部が直線的に斜め上方に延び、口縁部は上下に拡張して縁帶を形成する。内外面とも回転ナデ調整を施し、体部内面には7条1単位の御書きの播目を施文する。備前焼Ⅳ期の製品で15世紀代に比定される。

皿（870・871）は施釉陶器皿である。（870）は高台を浅く削りだし、体部は緩やかに斜め上方に延びる。底部の器壁は非常に厚い。内外面とも灰釉を施釉し、外面の高台脇以下は露胎である。（871）も（870）とほぼ同じ形態を呈し、灰釉を施釉する。底部内面には胎土目跡が4箇所見られる。いずれも肥前系唐津皿で17世紀前半代の所産である。

香炉（872）は土師器で平底で底部に逆円錐形の脚を3箇所貼り付ける。体部は内彎気味に斜め上方に延び、口縁部は水平に外方にひらく。ロクロ成形で底部外面にはヘラ切痕が残る。

青磁碗（873）は断面長方形形状の比較的高い高台をもつ。内外面とも青磁釉を施釉するが、高台裏は露胎である。焼成があまく、また全面に灰被りがみられるため、灰白色に発色する。龍泉窯系青磁碗と考えられる。

皿（874）は無釉陶器で比較的低い高台をもち、体部は僅かに内彎気味に斜め上方に延びる。内外面とも銅緑釉を施釉し、灰オリーブ色に発色する。底部内面は蛇の目状に釉ハギを行う。肥前系唐津緑釉皿で、17世紀後半～18世紀前半代の製品である。

白磁紅皿（875）は型作り成形で、外面には放射状に筋が入る。内面には透明釉を施釉し白色に発色する。外面は露胎である。肥前系白磁紅皿で19世紀前半代の製品である。

灯明皿（876）は土師器で体部内面に凸帯を巡らし、内面から口縁部外面に透明釉を施釉するいわゆる柿釉の灯明皿である。19世紀前半代の所産であろう。

皿（877・878）はいずれも施釉陶器皿である。（877）は低い高台を削りだし体部は緩やかに斜め上方に立ち上がる。内面には灰釉を施釉し灰色に発色する。肥前系唐津皿で17世紀前半代に比定される。（878）は高台が比較的高く、体部は内彎気味に斜め上方に延びる。内外面とも施釉して底部内面は蛇の目状に釉ハギする。高台裏は露胎である。肥前系唐津皿で17世紀後半～18世紀前半代に比定される。

碗（879）は染付磁器器壁が比較的厚く、体部は内彎気味に斜め上方に延びる。体部外面には草花文、高台裏には簡略化された渦紋文を描く。肥前系波佐見産のいわゆるくらわんか手の碗で、18世紀後半代に比定される。

灯明皿（880）は平底で体部は緩やかに斜め上方に延びる。無釉陶器体部内面にヘラで斜格子状に施文する。内面は灰釉を施釉し、オリーブ灰色に発色する。外面は露胎である。内面に3箇所目跡が見られる。京・信楽系の灯明皿で19世紀前半代に比定される。

壺（881）は無釉陶器で平底で中央部を浅く削って高台を作り出す。体部は内彎してほぼ直上に延び、口縁部は短く直立する。口縁部内面から体部外面上半に白濁釉を施釉し、さらに鉄釉で「□正右野製」の文字を書く。内面および外面の体部下半以下は露胎である。近代～現代にかけての製品と考えられる。

引用・参考文献

1. 長谷川 真 「土製煮炊具」「兵庫津遺跡 II」 兵庫県教育委員会 2004
2. 池田征弘 「須恵器」「兵庫津遺跡 II」 兵庫県教育委員会 2004
3. 乗岡 実 「備前焼擂鉢の編年について」「第3回 中近世備前焼研究会資料」 中近世備前焼研究会 2000
4. 上田秀夫 「14～16世紀の青磁碗の分類について」「貿易陶磁研究」 No.2 日本貿易陶磁研究会 1982
5. 大橋康二 「肥前陶磁」 ニューサイエンス社 1993

7. タイル

(894) は完形品で $155\text{mm} \times 155\text{mm}$ 、厚さ 10.5mm の6インチ正方形で白無地乾式成形タイルである。表面は白色で透明釉の発色は渦っている。二次焼成を受けているようで部分的に黒ずんでいる。また嵌入も顕著にみられる。裏面の多くが接着モルタルで覆われている。部分的にモルタルが剥がれておりその情報では周囲に 6mm の枠部分の内側は 11mm の方形の升目が詰まっている。またこの段階では製造者等のマークは見あたらない。

(895) は一つのコーナーをもつもので、残存 $88\text{mm} \times 86\text{mm}$ 、厚さ 12mm の破片である。したがって形は不明であるが、6インチの半分である3インチ以上が1辺にあることから6インチ正方形白無地乾式成形タイルと考えられる。表面は白色で透明釉の発色は渦っている。二次焼成を受けているようで部分的に黒ずんでいる。裏面は周囲に 5mm の枠部分の内側は 7mm の方形の升目が詰まっている。またこの段階では製造者等のマークは見あたらない。

(896) はコーナー部はなく、1辺のみ残すもので、残存 $49\text{mm} \times 51\text{mm}$ 、厚さ 7.5mm の破片品である。したがって形は不明な乾式成形である。表面は茶色で透明釉がかかる。裏面は白色系統の釉薬が若干のり、1センチの間に8本の細かな線が入る。またこの段階では製造者等のマークは見あたらない。

(897) はコーナー部はなく、1辺のみ残すもので、残存 $34\text{mm} \times 41\text{mm}$ 、厚さ 9mm の破片品である。したがって形は不明な乾式成形である。表面は茶色で透明釉がかかる。裏面は外枠が 9mm がありその内側に1辺 12mm の格子目がある。この格子目の中にアルファベットの「O」と考えられる文字が見えるが製造者のマークは見あたらない。

これらのタイルは元々どのような建物に使用されていたのかまでは不明である。タイルを考古学的に調査した例は珉平焼窯跡例があげられる（注1）。同窯は明治中期から戦後までの淡陶株式会社が生産時に廃棄したタイルであり、我が国のタイル歴史の代表的な資料である。今回出土したタイルのうち、メーカー名が判明したものはない。

わずかに（896）と同様の文様をもつものが淡陶タイルG型式の一部分に似ている。もしこのタイプであれば昭和20年代の資料であろう。

(897) はアルファベット「O」と考えられる文字が見える。升目の中に文字のある資料は国内ではゴット・フリート・ワグネルが明治初年に東京深川で生産した旭焼きがある（注2）が生産量が極少量でしかも白無地は知られていない。なおイギリスのタイルメーカーではこの升目の中の文字は多數みられる（注3）。894・895は裏型の方形が崩れ気味であることや、メーカー名が不明であり国内メーカーにも見あたらないが台湾と関係する可能性もある（注4）。

これらのタイルは少量であるが今後の近現代の考古学を考える上において、興味ある資料となろう。

（注1） 深井明比古他 『珉平焼窯跡』 兵庫県教育委員会 2005

（注2） 佐野一信他 『ゴットフリート・ワグネルと万国博覧会』 愛知県陶磁資料館 2004

(注3) 世界のタイル博物館 竹多格氏の御教示による

(注4) 深井が台湾台北市内で同系統のタイルの存在を確認した。なお台湾中原大学建築学系堀込憲二氏によれば台湾の北投タイルで生産されていた可能性があるとのご教示を得た。

8. タコ壺

イイダコ壺はコップ形のものと釣鐘形のものまで出土しているが、過渡期のタイプといわれるコップ形の底部に穿孔があるものは出土していない。今回の特徴は集中して出土していることで、両タイプともに1縄の単位で出土している可能性が高い。なかでも釣鐘形のイイダコ壺は多数出土しており注目される。

釣鐘形のイイダコ壺の製作

原則的に把手部から作成している。棒に粘土を巻き付けて把手部を形成している。その際に体部上半まで作っているものが多数を占める。内面は強いヨコ成形によって把手部と体部を一体化するとともに内面を平滑にしている。ただ、釣鐘の尖った形状のものは未調整のものも多い。外面もナデによって整形している。

次に把手部の芯となった棒を引き抜いている。その際に粘土の歪み(引っ張り)が把手部上面に溝状になるものと思われる。その芯を引き抜いた部分をナデしている例もあり、これが使用痕と見間違うこともある。芯を抜いた方向を手前とし、富島遺跡ではこの面をA面として扱い表記している。以下に記すナデの位置やヘラ記号・スタンプ文の位置もこれに即している。すなわち、A面からみた左側(観察表ではLと記載)右側(同R)と記している。正面はFと記載している。芯を抜くのに把手側面をユビで押さえており、その痕跡も顯著に認められる。

芯を抜いた後の把手側面を強くナデすることによって成形している。その後、体部から口縁部まで粘土を巻き上げている。口縁部側は強いヨコナデによって仕上げられているものが多い。粘土紐で2段前後の3cm前後をヨコナデ調整している。大きく粘土の垂ぎ目が3ヶ所ある。把手部基部と口縁部から3cm前後上と両者の中间の3ヶ所である。

ヘラ記号・スタンプ文は最終段階に施したと思われるが、今回出土資料は非常に高率で認められる。ヘラ記号の方が圧倒的に多い。両方が施されているものもある。

釣鐘形イイダコ壺の分類

主に把手部の形態から分類した。口縁部は多くは端部が外反ぎみになる。全体的に歪のものが多いのも富島遺跡イイダコ壺の特徴である。

I オーソドックスな釣鐘形のもので4つに細分する

- a 把手部が小さく小型のもの、把手が小さく裾広がりになるのとさらに細分可能
- b 把手部が大きいもの
- c 口縁部が内傾・直立するもの
- d 孔の位置が把手最大径にあるもの

II 把手部が不定円形のもの

III 把手部が大きく方頭になるもの(把手最大径が孔の上にある)

IV 把手部が大きくバチ形になるもの(把手最大径が孔の上にある)

イイダコ壺外面には比較的多数のヘラ記号・スタンプ記号が見られる。ヘラ記号は円を描くものが主体で「×」と「二」と斜めの直線があり、スタンプ文は竹管による円形の組み合わせである。ヘラ記号は体部外面か把手接続部にあるが、スタンプは体部外面よりも把手部側面に多く施されている。

コップ形イイダコ壺の分類

底部の形態で3つに分ける

I 尖り底のもの

II 丸底のもの

III 重心の低い平底に近い丸底

丸底（特にIII）では底部の粘土紐が顕著なものとそうでないものに細分可能か。

全体が細身と太いものにも分類される。

9. 土錐

土錐は多く出土しており、富島遺跡を代表する遺物の1つである。古墳時代から現代まで、各種土錐が存在する。大きさもまちまちである。大きさから大中小の3種に分類し、その中で小分類を行った。大きさは14タイプに分けた。小形と中形では管状土錐は変化している。そのことから、中大形は別の分類を行った。

小形は10g未満のもので4~8gが主体である。8種類に分けた。A~Fまでは管状の土錐である。

- A 通常の管状土錐で平面形態がエンタシス状で丁寧なもの
- B エンタシス状で歪なもの、両端は面に仕上げる
- C エンタシス状で最大径が中央にない歪なもの
- D 手捏ねで作られ、中央がやや膨らむもの
- E 管状で両端が尖るか丸いもの
- F 手捏ねで円筒形（中央が膨らまない）もの
- G 最大径が大きいもので球形に近いもの

H 有孔棒状土錐（双孔土錐・双孔棒状土錐・棒状土錐）と呼称されているもので、棒状で両端に側面から孔を有するもの

中形は10~150gのもので、小形の分類以外に5種類が追加される。管状土錐は手捏ねがなくなり、タイプは小形とは異なる。

- A 1 中央膨らみ断面の端部尖るもの
- A 2 中央膨らみ端部面となるもの
- B 1 円筒形で中央膨らみ端部尖るか丸いもの
- B 2 円筒形で中央膨らみ端部面になるもの
- C 1 平面長い菱形で中央が最大径になるもの（小形のAに近い）

- I 円筒形のもの
- J 球形のもの
- K 算盤玉状もしくは最大径が中央より上にある算盤玉状のもの
- L 扁平な算盤玉状
- M 有溝土錐の1種で、管状土錐ではあるが外面縱方向に溝があるもの

大形は150g以上のもので、中形の分類に加えて1種類追加される。

- N 円盤状で上下に円筒形の突起が付くもの

この中でK・Nは新しい時期に限られる土錐で、Hが古墳~奈良時代と古くに限られる土錐である。確実に時期を決することはできないが、Mも古い方に限定できそうで逆に、Iは新しい時期を指向している。管状土錐でも、高温で焼成された土師質のものは新しい時期になろうかと思われる。小形のA・E、中大形のA 1・B 1・C 1・Iがそれに該当する。

10. 金属器

金属器は60数点出土している。そのうち、図化不能なものや断面形状から現代のものと判断したものを除外した結果、鉄器30点と青銅製品14点の計46点を図化した。ただ、性格のわかる遺物は少なく錢貨を除くと不明遺物が多数を占める。

種別が明確なものは、錢貨15点と耳環・鉄鎌・釘・鎌である。茎状のものが多く含まれているが、釘の一部と考えている。

M1はB地区の石棺1内から出土している。富島遺跡の今回の調査で4基の石棺が検出されているが、その中では唯一の出土品である。(製塙土器以外では唯一の副葬品) 径2.9~3.1cmと通常の大きさであるが、中空になっている。そのため、重さも4.60gと非常に軽量である。端面に僅かに金箔が残されていることから、金製の中空耳環である。残存状況から全体に金箔を巻いたと想像されるが、痕跡が残っているわけではない。

M2は鉄鎌である。茎部を欠いている。刃先が扇形に開き最大幅3.3cmとなる。刃先から関節に向けて急激に狭まり幅0.6cmとなる。茎部に向かってさらに細くなっているが、両側に2mmずつ十字形に幅2mmの突出部を作り出した関としている。そのまま平面形態は細くなっているが、4mmの幅の茎部となる。毀損しているが、この幅で延びるものと思われる。刃先近くで0.65cm、関節部で0.50cmの厚さとなっている。B地区西側の遺構面から出土しており、古墳時代末から奈良時代にかけての遺構が存在しているところである。

M3~M15は鉄釘である。釘としているが、鉄鎌茎部と考えられるかもしれない。断面はすべて方形である。頭部の残っているものはM6だけが作り出すタイプで、それ以外は折り曲げて頭部を作っている。長さはM7が最も短く、M5が最も長い。

M3は僅かに頭部を曲げた釘で、長さ5.25cmを測る。断面形状は1.18×0.5cmと長方形になっている。厚みのある断面である。先端が欠損しているが、数値は変わらない程度の破損と思われる。M4 M5の出土地点は異なるが、似たタイプの釘である。M4で長さ6.55cm、断面0.8×0.48cmを測る。M5で長さ7.0cm、断面0.82×0.52cmを測る。M6は頭部を作り出している釘で、頭部は0.6cmと小さい。周囲を1mm前後細くして頭部を形成している。下側からも同様に頭部を作り出している。幅は頭部と同じ幅となり先端部に向かって細くなっている。断面は0.46×0.5cm方形である。M7は最も短い釘で長さ3.12cmしかない。断面は0.45×0.55cmの台形である。M8も頭部を折り曲げて作っている。やはり断面は1.0×0.5cmと長方形で厚くなっている。先端を大きく欠いている。M9は逆に先端部の破片で頭部を欠いている。先から1.5cm付近で90度曲がっている。断面は隅丸方形となっている。M11 M15も同様の部分と思われる。それ以外のM10 M12~M14も鉄釘の先端部としたが、すべて小片で他の器種の一部である可能性も十分に考えられる。

M16 M17は同一個体かと思われる破片である。中央部分が高くなっている。両端に向かってハの字状に平たくなっている。端部は丸くなっている。裏面は表面に平行に(厚さは同じ)なり、中央が上がっている。M16は先端部で上部も丸くなっている。M17は上下両端を欠失している。幅2cmの細長い板状の鉄製品である。M16に比べて中央の突起が低くなっている。幅もやや狭くなっている。

M18~M27は板状の製品であるが、性格は不明である。M20は片側を棒状のものに巻きつけており、径2~4mmの楕円形の空間を作っている。板部分は厚さ1~2mmと非常に薄い。M21は微妙に頭部を作り出している。鍛造品である。断面は隅丸長方形となっている。上方に延びるなら刀子の柄になるかもしれない。M23 M24も同一個体と思われる。断面形態がレンズ状から菱形になっており、鎌を持ったものかもしれない。脆弱で劣化しているが、剣製品などの可能性も考えられる。M25 M26は扇形の平面をした厚さ5~7mmの板状で周囲の多くが欠損している。ともに残存部と欠損部の見極めが難しい。M27は幅1.5~1.9cmの弧状を呈する鉄器である。形状からは鎌を思い浮かべるが、刃を作り出していない。下から上に向かって徐々に細くなっている。

M28は鎌である。切先部・基部とも欠く刃部中央部分であろう。幅2.5cmで刃部を有している。両端を欠いていることから、形態不明である。

M29は袋状を呈した製品である。鉄斧とも思われるが、内面に突帯状のものが斜めに認められるなど通常の鉄斧とは異なっている。刃部・基部とともに残存していないことが断定できない理由となっている。不明製品としておくが、鉄斧の可能性も高いと思われる。

M30M31は鉄滓である。M30は非常に空洞が多く歪な形状である。孔の多い不定形の鉄滓である。M31は椀形滓と思われる。重量感があり、磁着度も強い。下面に粘土は付いていない。上下部分は生きている面と思われ、全体の3分の2以上残存しているのではないかと思われる。

錢貨は16点（図化15点）出土している。そのうち1点は鉄錢である。錢種で分けると、皇宋通寶1枚と天保通寶1枚以外は寛永通寶である。近世の錢貨も5枚出土している（1枚は残存状態が悪く図化していない）。

M32は北宋錢で皇宋通寶である。国内でも出土量の多い錢種である。行書体で、表面の残存状況は悪い。B地区の近世遺構面から出土している。その他の錢貨もすべて遺構面や包含層から出土しており、遺構から出土しているものは富島遺跡では確認されなかった。

M33～M35は寛永通寶の文銭である。文字が丁寧に鋳出されている。その他の寛永通寶はM41の鉄錢を除いて新寛永である。方孔の大きなものや郴の広いものがある。M41は残存状態の悪い鉄錢である。半分強しか残っておらず、文字も明瞭に判読できない。

M42は天保通寶である。天保6（1835）年初鋳の百文銭である。鋳化が進んでいることから銭名は読みにくい。特に裏面は不明瞭である。

M43～M46は明治以降の錢貨である。M45が十銭で、その他は一銭である。M45は大正11年と新しく、円孔がある。

11. 石器と石製品

ここでは、すべての地区から出土した石器と石製品を一括して報告する。遺構に伴う石器はわずかで、大部分は遺物包含層から出土したものである。打製石器はすべてサヌカイトが用いられているが、他は多様な石材が使用されており、経験的に石材の判断ができるものは少ない。

S 1～S 7は石礫である。基部形態はS 1～S 4が四基式、S 5が平基式、S 6が凸基式、S 7が有茎式となる。凹基式の4点はすべて縄文時代の土坑が検出されたA地区から出土している。4点とも遺構には伴わず、縄文時代後期の遺構面よりも上層から出土しているが、形態や大きさなどから縄文時代の石礫とみなしうる。調整剥離はS 4を除いて全面に及び、整った形態に仕上げられている。重量も1g以下で薄手のつくりである。これに対してS 5～S 7はやや大型で重量も1gを越える。S 5は薄く精巧なつくりで、S 7では刃部を鋸歯状にする。これらは弥生時代の石礫と考えたい。

S 8は両端が欠損しているため本来の形状はわからないが、両側縁が直線的に伸びることから、打製尖頭器と判断した。横長の板状剥片を用い、打面側と末端側を刃部とする。調整剥離は部分的で両面とも素材面を大きく残している。打面側の厚みが減じられていないため、左右のバランスは悪い。

S 9～S 11は削器である。S 9とS 10は大型剥片の末端に刃部加工を施す。S 9では自然面の平坦打面を残した剥片が素材となっており、縄文時代の石器である可能性がある。S 11は不整形な剥片の打面部に急角度の調整剥離が加えられている。

S 12～S 14は楔形石器である。これらもS 1～S 4の石礫と同様にA地区から出土したもので、縄文時代に属する可能性がある。S 12は小さな円錐を輪切り状に分割した厚みのある剥片が素材となっており、淡路産のサヌカイトと考えられる。S 13、S 14は上下一对の作用部を設ける。縦断面が凸レンズ状であることから、楔としての使用を想定

し得る。

S15～S18は調片である。S16以外の3点はA地区から出土しており、平坦な打面を有する点で共通している。S16は打面が線状を呈し、あまり風化が進んでいない。

S19は緑色片岩の扁平な自然縁で、一側縁に小剥離が連続している。この剥離面は転磨によって後が摩耗しているため、人工品とは断定できないが、島内に産しない石材が使用されていることから、石庵丁などの素材として搬入された可能性がある。

S20～S25は砥石である。極端に厚みがあって他とは一線を画するS24を除いて、板状の直方体に成形された通常の砥石である。砥面はS20とS21では表裏と両側面の4面、S22、S24では表面のみ、S23では表面と側面、S25では表裏2面となる。端面や砥面として使用されていない側面は、成形時の粗い削り痕を残す例が多い。石材は凝灰岩系と思われるものが、S20、S22、S23の3点。このうちS22は本山砥風の良質な石材が使用されている。S21は流紋岩、S24は砂岩と思われる。S25は赤味を帯びた乳白色の軟質石材で、端面には刃物で削った際の段差が認められる。S26の硯と同じ石材である。

S26は硯である。よく使い込まれており中央は海部にむかって舌状に浅く窪んでいる。

S27は軽石である。成形されているわけではないが、刃物によって刻まれた直線的な筋がある。

S28は石錘であろうか。蛇紋岩風の重量感のある石材が使用されている。平面形は涙形あるいは水滴形で、側面形は楔状、横断面形は薄鉢状を呈する。裏面に分割面あるいは自然面と考えられる平坦面を残し、他は磨いて成形している。特に両側面は強く研磨されている。上部に穿孔があり、孔から上端に向かって1条、両側面にそれぞれ1条のV字形の溝を刻んでいる。穿孔は片側穿孔で、孔径は表側で8mm、裏側で6mmである。重量は770g。

12. 人骨

富島遺跡B地区で検出された石棺2からは埋葬された人骨が出土している。骨の遺存状態は悪く、頭骸骨や四肢骨の一部が部分的に残存していただけであるが、出土状況からほぼ元位置を保っていたと考えられる。

以下の観察所見は、京都大学理学部教授片山一道氏に同定いただいた際の所見を藤田がまとめたものである。

- ・骨はすべて人骨で、他の動物の骨は混ざっていない。
- ・頭蓋骨（上顎骨の一部・外耳道周辺を含む左側頭骨の一部）、下顎骨、左上腕骨、左尺骨、左右大腿骨、左右脛骨、右腓骨などがある。
- ・出土状況から伸展葬の状態で埋葬されていたと考えて良い。
- ・死亡年齢は、第3大臼歯まで生え揃っていることと、歯の咬耗の進行程度から、成人（壮年～熟年）である（図版308写真1）。
- ・下顎の右第1大臼歯と第2大臼歯との隣接部に大きな虫歯の跡があり、第2大臼歯は生前に抜け落ちて歯槽が完全に閉鎖している（図版308写真2）。おそらく、虫歯が原因で歯が抜け、その後10年ほどは経過していると考えられる。このことからは、死亡年齢は熟年の可能性のほうが高い。
- ・性別は不明であるが、大腿骨が骨太で骨幹部後面の粗線がよく発達して柱状構造となっていること（図版308写真3）や、歯が大きいことから、どちらかと言えば男性の可能性のほうが高い。
- ・上顎の中切歯にエナメル質減形成が認められることから、子供（3～5才）の頃に何回かの栄養失調を経験していると考えられる。
- ・左脛骨と左腓骨にはネズミの咬み跡がある（図版308写真4）。これは骨化した後、ネズミに齧られたもので、古人骨ではしばしば観察される。

13. 動物遺存体

富島遺跡の各調査区からは、獣魚骨や貝類などの動物遺存体もわずかながら出土している。その主なものについて第2表に示す。哺乳類ではシカとキジ科が見られる。魚類ではマダイとフグ科があり、貝ではアカニシとバカガイが見られる。いざれも遺物包含層から散発的に出土したもので、一括性のある資料ではない。時期についてもおおまかにしか捉えることはできない。しかしながら、島内での動物遺存体の出土例は淡路市佃遺跡を除くと数少なく、こうした事例の増加が、島内における自然環境や食物資源の利用に関する検討材料を提供することとなろう。

なお、資料は独立行政法人奈良文化財研究所の松井章環境考古学室長に同定していただいた。

第2表 富島遺跡出土の動物遺存体

報告地			地 区	土 壤	時 期	調査番号	ネーミング
1	ニホンジカ 前顎骨 右オス (自然落角か)	C	80街区-4		奈良	2003146	8
2	シカ 上腕骨 遺位端	C	10号線-3 東半	機械 貝殻	近世	2003125	8
3	シカ 尺骨 右	C	10号線-3 東半	黒褐色	古墳後期-奈良	2003125	2
4	シカ 脊骨 (小型ゆえ若年個体)	C	80街区-1	黒灰紗	古墳後期	2003070	18
5	シカ 末踏骨	C	10号線-3 東半	黒褐色	古墳後期-奈良	2003125	2
6	シカ 中足/指骨 左 遺位未化骨 (若年個体)	C	10号線-2 東半	上層 黒色土	中世後半~近世	2003070	19
7	キジ科 足根中足骨 メス		12G		近世	2000317	3
8	マダイ 鰹骨 右	C	10号線-3 東半	黒褐色	古墳後期-奈良	2003125	2
9	フグ科 鮎骨 左	C	10号線-3 東半	黒褐色	古墳後期-奈良	2003125	2
10	アカニシ	E	2-1区	第2層	近世	2002054	59
11	アカニシ	D	79街区-1		古墳後期	2002182	7
12	アカニシ	E	2-1区	2~3層	近世	2002054	58
13	アカニシ		2G		縄文か-近世	2000317	32
14	アカニシ	E	2-1区		縄文?	2002054	53
15	アカニシ	C	80街区-1	黒灰紗	古墳後期	2003070	18
16~18	バカガイ	C	10号線-3 東半		近世	2003125	1
19~24	バカガイ				近世		

第3表 遺物調査表

施	出土地・土層	種別	性別	口徑	體長	底径	括法		他		形態の特徴	備考
							(mm)	(mm)	(mm)	(mm)		
140	1 33号地-1 S601	土瓶	男	(17.10)	(17.20)	-	2°成形から口部、「口縁部がくび」		長脚の体部から外反する口縁部、底部丸い			
2	33号地-1 S601	土瓶	女	(33.60)	(4.80)	-	2°成形から口部、「口縁部がくび」		底部に膨り、外側丸く、底部丸い			
3	33号地-1 S601	土瓶	女	(13.50)	(7.30)	-	2°成形、「口縁部がくび」、底部丸い		直線的に内湾する体部、口縁部が外反する、底部となり肥厚	内面に有機質		
4	33号地-1 S601	土瓶	女	(17.20)	(9.30)	-	2°成形、「口縁部がくび」		底部に内湾する体部から外側する口縁部、底部丸い	内面に有機質		
5	33号地-1 S601	土瓶	女	(14.70)	(6.95)	-	2°成形、「口縁部がくび」、		直線的に内湾する体部、口縁部が外反する、底部丸い	内面に有機質		
6	33号地-1 S601	土瓶	女	(16.50)	(5.25)	-	内面分岐り、斜面の彫形、「口縁部がくび」		内側からその字彫刻、外縁は底部丸い			
7	33号地-1 黒陶	土瓶	男	13.10	9.00	5.60	2°成形から口部、「口縁部がくび」		底部から丸い内湾する体部、彫刻薄く浅い			
8	33号地-1 S601	土瓶	男	(13.60)	(6.65)	-	2°成形から口部、「口縁部がくび」		直線的に内湾する体部から外側する口縁部、底部丸い			
9	33号地-1 S601	土瓶	男	(7.10)	-	-	2°成形、「口縁部がくび」		内湾する体部から底から外側する口縁部、底部丸い			
10	33号地-1 S601	土瓶	男	(16.50)	(7.90)	-	2°成形、「口縁部がくび」、内面当て具痕		内湾する体部から底から外側する口縁部、底部丸い			
11	33号地-1 S601	土瓶	男	(7.70)	(7.70)	-	2°成形から口部、「口縁部がくび」		底部から内湾し、口縁部は外、底部丸い			
12	33号地-1 S601	土瓶	男	(16.30)	14.25	-	2°成形から口部、「口縁部がくび」		底部から内湾し、口縁部は外、底部丸い			
13	33号地-1 S601	土瓶	男	(15.00)	(10.30)	-	2°成形から口部、「口縁部がくび」		内湾する体部から外側する口縁部、底部丸い			
14	33号地-1 S601	輪輪瓶	梅	(1.45)	(6.10)	-	2°成形、「口縁部がくび」		内湾する底部、輪輪は圓滑形			
142	15 33号地-1 S601	輪輪	桜	(16.50)	3.70	-	2°成形、「口縁部がくび」		水平な底部分から底部へ向かう上縁部、圓平な底後つまみ			
16	33号地-1 S601	輪輪	桜	(17.50)	(2.55)	-	2°成形、「口縁部がくび」		底部に丸び、輪輪内側に記章がある			
17	33号地-1 S601	輪輪	桜	(2.0)	(10.00)	0.95±	2°成形、「底部がくび」		底部から外側する体部			
18	33号地-1 S601	輪輪	桜	(13.60)	2.80	(9.30)	2°成形		底部から外側する口縁部、「底部がくび」			
19	33号地-1 S601	輪輪	桜	(15.20)	3.00	10.80	2°成形、「底部がくび」		底部から外側する体部底部薄い			
20	33号地-1 S601	輪輪	桜	(14.70)	(2.75)	(11.70)	2°成形、「底部がくび」		底部から外側する体部、「底部がくび」			
21	33号地-1 S601	輪輪	桜	(14.70)	3.80	10.70	2°成形、「底部がくび」		不安定な底部分する体部			
22	33号地-1 S601	輪輪	桜	(14.90)	3.65	(11.20)	2°成形、「底部がくび」		底部から外側する口縁部、「底部がくび」			
23	33号地-1 S601	輪輪	桜	(15.50)	3.15	(11.80)	2°成形、「底部がくび」、内側は上りげ		底部から外側する体部、「底部がくび」			
24	33号地-1 S601	輪輪	桜	15.80	4.40	12.10	2°成形、「底部がくび」		平底で外側する体部、底内側へ底部丸い			
25	33号地-1 S601	輪輪	桜	15.20	3.15	12.40	2°成形、「底部がくび」		底部丸い、輪輪丸い			
26	33号地-1 S601	輪輪	桜	12.65	3.35	9.00	底部がくびり、2°成形		底部丸い、輪輪丸い、底部外方に凹型			
27	33号地-1 S601	輪輪	桜	(13.70)	4.10	9.20	2°成形、「底部がくびり」		上げ形になり、体部内側、底部丸い、底部低く茎			
28	33号地-1 S601	輪輪	桜	(16.00)	4.00	(10.70)	2°成形、「底部がくびり」		底部から内側へ底を2つて外反す、底部丸い、高台低く方形			
29	33号地-1 S601	輪輪	桜	(2.25)	(10.70)	0.95±	-		平たい底部から外側する体部になる、高台低く幅			
30	33号地-1 S601	輪輪	桜	15.10	5.65	10.80	2°成形、「底部がくび」		平底な底部から外側する体部、横部丸い			

No.	出土地・土器	種別	断面	口径 (cm)	底面 (cm)	方法	地	形態の特徴	備考
142	31 古号櫛-1 SH01	直底器	底厚	(1.30)	8.80	切打付 ^a 、底部未溝整		内凹する底部で、高台付 ^b 。腹部中央に巴耳	
32	33号櫛-1 SH01	直底器	底部	(1.60)	11.60	切打付 ^a		内凹する底部で外腹部が広がる。直腹方形容	
33	33号櫛-1 SH01	直底器	蓋	(23.00)	17.95	切打付 ^a		直線的突起 ^c 、輪郭部近くで削減する。直腹方形容	
34	33号櫛-1 SH01	直底器	底部	(3.65)	9.40	切打付 ^a 、底部少しきつり		内凹する底部で外腹部が削減する。直腹方形容	
25	33号櫛-1 SH01	直底器	底部	(10.60)	10.10	切打付 ^a 、底付 ^d		不安定な平底で内腹部を削除する。内腹部として腹部に反する。	2次地成
26	33号櫛-1 SH01	直底器	底部	(10.75)	10.25	切打付 ^a 、底付 ^d		内凹する底部で外腹部が削減する。直腹方形容	自然地
37	33号櫛-1 SH01	直底器	底	9.10	6.75	5.60	底部少しきつり、底付 ^d 、底付 ^a	内凹する底部から少しきつりする。直腹方形容	
144	33号櫛-3	直底器	底部	(11.80)	10.55	切打付 ^a		直腹方形容外腹部が尖る。	40とセトトト
39	33号櫛-3	直底器	底付	10.00	5.65	6.20	切打付 ^a 、底付 ^d	内凹する底部で立ち上げた部分に外腹部角張る。受部付 ^e	
40	33号櫛-3	直底器	底付	(11.40)	5.65	5.70	切打付 ^a 、底付 ^d のち下方開口付 ^f	内凹する底部で立ち上げた直腹外腹部、受部付 ^e 、	
41	33号櫛-3	直底器	底付	12.60	5.70	4.30	切打付 ^a 、底付 ^d のち下方開口付 ^f	内凹する底部で直腹外腹部で底部外腹部に尖る。	
42	10号櫛-5	直底器	底付	(12.80)	10.95	切打付 ^a		内凹する底部は組立外反、立ち上がり直腹的で尖る	
43	10号櫛-5	土器	杯	(12.60)	3.10	切打付 ^a 、底部少しきつり		内凹する底部に底付 ^d 、端部斜削 ^g し丸い。	
44	10号櫛-5	土器	杯	(13.10)	3.10	切打付 ^a 、底部少しきつり		平底から直腹部を絞り立てる体形、削部無い。	
45	10号櫛-3	土器	杯	(12.30)	2.10	切打付 ^a		内凹する底部で、橢圓不規則で底部に、直腹部内腹部に丸く	
46	10号櫛-3	直底器	碗	(13.20)	10.15	2 ^g 、直腹 ^g 、口縁部少しきつり、内面 ^g 付 ^h		内凹する底部から直腹部へ丸く	
47	10号櫛-3	直底器	碗	(15.30)	6.40	2 ^g 、直腹 ^g 、底付 ^d もぼり付 ⁱ 、「丁字縫合付 ^j 」		内凹する底部から口縁部に、直腹尖る	
48	10号櫛-3	土器	碗	(16.80)	5.20	2 ^g 、直腹 ^g のち付 ⁱ 、口縁部少しきつり		内凹する体形で、直腹外腹部丸い。	
49	10号櫛-3	土器	碗	(18.20)	4.90	2 ^g 、底部から付 ⁱ		内凹する底部で、直腹尖る。	
50	10号櫛-3	土器	マコ付	(11.10)	6.95	2 ^g 、底部から付 ⁱ 、口縁部少しきつり		内凹する体部から外反せず口縁部、直腹内腹、彫刻尖り	
51	10号櫛-3	直底器	碗	(10.80)	6.00	2 ^g 、底付 ^d 、口縁部直腹 ^g		内凹する底部で直腹部、直腹内腹 ^g	
52	10号櫛-3	土器	直	(12.80)	2.50	6.00	2 ^g 、底部付 ^d	水牛字口縁と直腹部を斜めに底付 ^d する。	
53	10号櫛-3	土器	神灰土器	(3.90)	1.00	1.00	2 ^g 、底部付 ^d	直の輪が広くなる直付 ^h 種	4.8 H
54	33号櫛-1 SH01	土器	付付-2頭	6.00	11.70	2 ^g 、底部付 ^d 、付 ^h 仕上げ		直の輪が広くなる直付 ^h 種	
55	33号櫛-1 SH01	土器	付付	(4.70)	6.80	12.00	2 ^g 、底部付 ^d 、付 ^h 仕上げ	直の輪が広くなる直付 ^h 種	
56	33号櫛-1 SH01	土器	付付	(4.70)	6.50	11.90	2 ^g 、底部付 ^d 、付 ^h 仕上げ	直の輪が広くなる直付 ^h 種	
57	33号櫛-1 SH01	土器	付付	(4.70)	6.20	12.20	2 ^g 、底部付 ^d 、付 ^h 仕上げ	直の輪が広くなる直付 ^h 種	
58	33号櫛-1 SH01	土器	付付	(6.00)	12.30	2 ^g 、底部付 ^d 、付 ^h 仕上げ		直の輪が広くなる直付 ^h 種	
59	33号櫛-1 SH01	土器	付付	(6.50)	12.15	2 ^g 、底部付 ^d 、付 ^h 仕上げ		直の輪が広くなる直付 ^h 種	
60	33号櫛-1 SH01	土器	付付	(7.70)	12.00	2 ^g 、底部付 ^d 、付 ^h 仕上げ		直の輪が広くなる直付 ^h 種	
61	33号櫛-1 SH01	土器	付付	6.20	11.90	2 ^g 、底部付 ^d 、付 ^h 仕上げ		直の輪が広くなる直付 ^h 種	

No.	出产地・土画	種別	工具	西周	東晉	方法	備考
販賣店			(cm)	(cm)	(cm)		形態の特徴
158 93	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	—	(10.0)	—	方形の把手から鉢状に内側する体部に 方形の把手から鉢状に内側する体部に 方形の把手から鉢状で直立する、口縁が尖る
162 94	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	7.00	12.00	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縁が尖る
95	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(6.80)	12.20	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縁が尖る
96	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(6.80)	11.80	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縁が尖る
97	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	6.70	12.00	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
98	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	6.80	12.40	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
99	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	6.80	12.50	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
100	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(8.00)	13.00	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
101	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(7.80)	12.00	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
102	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(6.80)	11.80	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
103	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(4.80)	11.40	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
104	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(5.80)	11.70	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
105	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	6.30	12.00	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
106	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	5.70	12.00	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
107	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(7.00)	12.10	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
108	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	6.80	12.30	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
109	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(5.50)	12.40	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
110	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(6.80)	11.90	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
111	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	6.50	12.20	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
112	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	5.80	12.30	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
113	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	7.20	11.60	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
114	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(6.00)	11.30	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
115	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(5.80)	12.00	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
116	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(7.40)	12.50	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
117	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(7.20)	12.20	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
118	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	5.90	11.70	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
119	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	7.70	11.20	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
120	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(6.80)	12.30	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状で直立する、口縫部尖る
121	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(6.80)	11.90	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
122	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	6.50	11.70	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手から鉢状に内側する、口縫部尖る
123	33号墓-1 SR01	土舟器	イギリス地	(5.80)	11.20	ビ'底直後、ナ'仕上げ	方形の把手で内対する体部になる、縫部が反し良い

No	出土場・土層	種別	器形	口径	腹周	底深	経式		形態の特徴	備考
							(cm)	(cm)		
166	124 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.00	12.20	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
125	33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.50	11.70	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
126	33号標-1 SR01	土器	41φ-78	7.10	11.50	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
127	33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.20	11.70	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
128	33号標-1 SR01	土器	41φ-78	7.30	11.70	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
129	33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.70	11.50	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
170	130 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.40	11.80	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
131	131 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	8.00	10.90	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	尖りきの方の把手から外傾する形記。海唇尖る	
132	132 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.50	12.00	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
133	133 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.50	11.30	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸く無い	
134	134 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.70	11.80	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
135	135 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.30	11.80	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から内傾する形記。海唇部丸い	
136	136 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.00	12.00	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	尖りきの方の把手から外傾する形記。海唇尖る	
137	137 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.60	12.20	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
138	138 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.50	12.10	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から内傾する形記。海唇部丸い	
139	139 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.50	11.80	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から直立する形記。海唇部丸い	
140	140 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	4.90	12.50	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から内傾する形記。海唇部丸い	
141	141 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.00	12.00	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	尖りきの方の把手から外傾する形記。海唇尖る	
142	142 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.40	11.20	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から内傾する。海唇丸い	
143	143 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	7.10	12.00	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から内傾する。海唇丸い	
144	144 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.70	12.50	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から内傾する。海唇丸い	
171	145 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.00	11.30	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	尖りきの方の把手から内傾する形記。海唇尖る	
146	146 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	4.80	10.90	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から内傾する形記。海唇丸い	
147	147 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.00	11.00	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	大日の丸の把手から内傾する形記になる	
148	148 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.00	10.60	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	丸の把手で体部を斜めする。海唇丸い	
149	149 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.50	10.70	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	尖りきの方の把手から内傾する形記に。海唇丸い	
150	150 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	4.80	11.30	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。「口輪部丸い」	
151	151 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.40	11.20	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。口輪部丸い	
152	152 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	5.00	10.80	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	方彌の把手から鉛錆状で発達する。「口輪部丸い」	
153	153 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.00	10.20	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	丸の把手で体部を斜めする。海唇丸い	
154	154 33号標-1 SR01	土器	41φ-78	6.00	11.50	-	22°	底膨張、サ" 仕上げ	ハサ形の把手から内傾する形記。海唇尖る	

No.	出土地・土層	場所	口径 (cm)	縦幅 (cm)	横幅 (cm)	技法	他	形態の特徴	備考
171	155・33号墳-1 S801	土脚部	14.2	12.0	13.0	A'・直彫版、印文上げ		バチ型の把手から内側する体部、端部尖る	
194	156・78号墳-3-4	須恵器	14.65	4.0	4.0	印文		天井部平坦で、体部が内側、端部尖り、並み大きい	
157	33号墳-1	須恵器	14.00	3.0	3.0	印文		天井部をよく内折する体部、頂部へ傾斜する	
158	33号墳-1	須恵器	13.60	3.05	3.05	印文		天井部平で体部が内折する、端部へ肥厚	
159	33号墳-1	須恵器	13.40	3.10	3.05	印文		天井部をよく内折する、端部へ肥厚	
160	10号墳-7	須恵器	14.80	3.25	3.25	印文		天井部をよく内折する、端部下部に凹凸	
161	33号墳-1	須恵器	16.00	3.00	3.00	印文		内側をよく、端部近くの内面側になりシーザーブルに仕上げる	
162	33号墳-1	須恵器	14.00	2.15	2.15	印文		内側を尖り、立ち上がり早く丸まる	
163	33号墳-1	須恵器	13.00	3.70	3.70	印文		内側をよく握ら屈曲して握る、立ち上がり外反し尖る	自然軸
164	33号墳-1	須恵器	14.00	3.90	3.90	印文		内側する体部から外折する受部、立ち上がり外反	自然軸
165	33号墳-1	須恵器	14.00	3.10	3.10	印文		外傾し受部は水平で握る丸い、立ち上がり切く外反	
166	33号墳-1	須恵器	13.20	3.70	3.70	印文		内側をやや長い形に、立ち上がり外折しシード	
167	33号墳-1	須恵器	18.10	3.10	3.10	印文		腰から内側から外折する、立ち上り	
168	10号墳-7	須恵器	11.60	3.40	3.40	印文		内側する体部で受部を強く内折しない	
169	33号墳-1	須恵器	11.80	3.85	3.85	印文		平底きの底部から外側に立ち上り、立ち上がり内反	
170	10号墳-7	須恵器	13.65	2.20	2.20	印文		内側する体部で受部から内折する、立ち上り内反	
171	33号墳-1	須恵器	15.60	4.15	4.15	印文		内側する体部から屈曲、輪郭が尖り立つ	
172	33号墳-1	須恵器	13.80	3.50	3.50	印文		内側し、立ち上がり外反する、輪郭が尖る	
173	78号墳-3-4	須恵器	13.60	3.00	3.00	印文		内側する体部、立ち上がりは上反し強調する	156とセット
174	33号墳-1	須恵器	13.80	4.15	4.15	印文		内側する体部から水滴きみの意識、立ち上がり反る	
175	33号墳-1	須恵器	14.60	3.80	3.80	印文		内側する体部で引削線、輪郭が尖り立つ、まくら中央	
176	33号墳-1	須恵器	16.80	4.80	4.80	印文		内側する体部が深く、直立する輪郭尖る	
177	33号墳-1	須恵器	14.55	4.20	4.20	印文		内側する体部で端部が仄くなる、輪台削出し輪郭尖る	
178	78号墳-6	須恵器	19.60	12.60	12.60	印文		直角的にひ曲部がいい、腰三角の組合せ	自然軸
179	33号墳-1	須恵器	11.60	2.80	2.80	印文		腰や少しに曲げる形で腰部から輪郭三角の折り、宝珠つまみ	
180	33号墳-1	須恵器	12.00	4.00	4.00	氣泡小切り、印文		内側する体部で端部が削る、底部に横割り有り	
181	33号墳-1	須恵器	12.70	4.00	4.00	印文		内側する体部近辺に切削が深く、底部に横割り有り	
182	78号墳-6	須恵器	11.60	3.95	3.95	印文		腰かに内側して端部尖って丸い	
183	33号墳-1	須恵器	14.65	5.50	5.50	印文		腰や底に内側する形で腰部から輪郭三角の折り	
184	33号墳-1	須恵器	14.75	4.80	4.80	印文		外反し端部が内側する、輪台外反する	
185	33号墳-1	須恵器	12.70	3.80	3.80	印文		内側する体部	

No.	出土地・土器	種別	断面	口径	器蓋	蓋縫	形态の特徴		備考
							(cm)	(cm)	
194	166 33号縦-1	漆器	平底	(1.30)	切妻形 [†] 、口縁内側 引出 [†]	内側する天井部	切妻形 [†]	内側する天井部	自然地
195	187 33号縦-1	漆器	平底	(21.70) (4.80)	口縁内側、休部付 [†]	起承する腹から直い口縁部、型に因襲する体部	自然地	自然地	自然地
196	188 78街区-6	漆器	平底	(26.90) (5.20)	内圓斜付をナ [†] 、蓋 [†] 、口縁内側 [†]	内側する腹から直い口縁部、型に因襲する体部	自然地	自然地	自然地
197	189 78街区-6	漆器	平底	(20.50) (7.80)	制御付 [†] 、口縁内側 [†]	直通的内側 [†] 、外反する口縁部 [†] 、腹部曲がりに因縁	自然地	自然地	自然地
198	190 33号縦-1	漆器	平底	(4.20) (6.95)	休部付 [†]	體部外側と [†] 、外反する口縁部 [†] 、腹部曲がりに因縲	自然地	自然地	自然地
199	191 33号縦-1	漆器	平底	(17.70) (14.10)	休部付 [†] のち付せ上げ、口縁部 [†] 付 [†]	腹部外側と [†] 、外反する口縁部 [†] 、腹部曲がりに、腹部壓迫し丸い	自然地	自然地	自然地
200	192 33号縦-1	漆器	平底	(13.20) (4.50)	口付 [†]	直通的内側から外反する口縁部 [†] 、腹部壓迫し丸い	自然地	自然地	自然地
201	193 33号縦-1	漆器	平底	(14.00) (4.30)	口付 [†]	腹部玉状の休部 [†] で腰 [†] 、端部引し丸い	外側円滑り	外側円滑り	外側円滑り
202	194 33号縦-1	土器	直縁	(10.50)	休部付 [†] 、腹部のち付 [†] 腰 [†] 、口縁部付 [†]	腹内側 [†] が直角的な休部から外反し、腹部内外に壓迫	直入十筋	直入十筋	直入十筋
203	195 33号縦-1	土器	直縁	(21.30) (4.10)	元 [†] 腹形のち付 [†] 腰 [†] 、口縁部付 [†]	體部外側、腰 [†] 付 [†] に、休部付 [†] の形に、休部付 [†] の形に	直入十筋	直入十筋	直入十筋
204	196 33号縦-1	土器	直縁	(31.50) (5.30)	休部付 [†] の形に、口縁部付 [†]	口縁部外側、腰 [†] 付 [†] に、休部付 [†] の形に、休部付 [†] の形に	直入十筋	直入十筋	直入十筋
205	197 33号縦-1	土器	直縁	(27.10) (7.10)	付 [†] 腰 [†] のち口縁部付 [†]	直通する休部から外反する口縁部 [†] で腰 [†] 付 [†] する形態	直入十筋	直入十筋	直入十筋
206	198 33号縦-1	土器	直縁	(20.60) (5.70)	付 [†] 腰 [†] のち口縁部付 [†]	直通する休部から外反する口縁部 [†] で腰 [†] 付 [†] する形態	直入十筋	直入十筋	直入十筋
207	199 33号縦-1	土器	直縁	(11.00) (4.40)	元 [†] 腹形のち付 [†] 、外引付 [†] 腰 [†] 、口縁部付 [†]	直通する休部から外反する口縁部 [†] 、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
208	200 33号縦-1	土器	直縁	(14.00) (6.20)	元 [†] 腹形のち付 [†] 、口縁部付 [†]	直通する休部から外反する口縁部 [†] 、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
209	201 33号縦-1	土器	直縁	(16.00) (2.40)	三付 [†]	外反する	直入十筋	直入十筋	直入十筋
210	202 10号横-3	土器	直縁	(11.50) (4.95)	休部のめ不明	直通する休部から外反する口縁部 [†]	直入十筋	直入十筋	直入十筋
211	203 33号縦-1	土器	直縁	(12.00) (3.20)	元 [†] 腹形のち付 [†] 、外引付 [†] 腰 [†]	直通する休部から外反する口縁部 [†] 、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
212	204 33号縦-1	土器	直縁	(18.00) (4.50)	元 [†] 腹形のち付 [†]	直通する休部から外反する口縁部 [†] 、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
213	205 33号縦-1	土器	直縁	(19.60) (3.15)	付 [†] 腰 [†] のち口縁部付 [†]	直通する休部から外反する口縁部 [†] 、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
214	206 33号縦-1	土器	直縁	(26.00) (6.10)	内外面とも付 [†] 腰 [†] 、口縁部付 [†]	外反する口縁部、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
215	207 10号横-3	土器	直縁	(19.80) (3.10)	内外面とも付 [†] 腰 [†] 、口縁部付 [†]	長軸で半低丸い丸 [†] 、腰 [†] 付 [†] 口縁部外反する、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
216	208 78街区-6	土器	直縁	(11.80) (6.65)	元 [†] 腹形のち付 [†] 腰 [†] 、口縁部付 [†]	直通し口縁部外反する、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
217	209 33号縦-1	土器	直縁	(12.80) (5.50)	元 [†] 腹形のち付 [†]	内側し直い腰 [†] の胸部から外反する口縁部、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
218	210 10号横-7	土器	直縁	(6.40)	元 [†] 腹形のち付 [†] 腰 [†]	内側する休部から外反する口縁部、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
219	211 33号縦-1	土器	直縁	(3.20)	三付 [†]	外反し腰 [†] 丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
220	212 33号縦-1	土器	直縁	(12.00) (5.10)	元 [†] 腹形のち付 [†] 腰 [†] 、口縁部付 [†]	内側する休部から外反する口縁部、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
221	213 10号横-7	土器	直縁	(13.40) (7.15)	元 [†] 腹形のち付 [†] 腰 [†] 、口縁部付 [†]	直通する休部から外反する口縁部、腹部丸い	直入十筋	直入十筋	直入十筋
222	214 78街区-6	土器	直縁	(1.90)	付 [†] 腰 [†]	腹部丸い、つまみ脚は平出セタン状	直入十筋	直入十筋	直入十筋
223	215 33号縦-1	土器	直縁	(17.70) (1.70)	付 [†] 腰 [†] のち付 [†] 腰 [†]	腰 [†] 付 [†] に口縁部 [†] なり、腹部内外に壓迫	直入十筋	直入十筋	直入十筋
224	216 33号縦-1	土器	直縁	(15.70) (2.65)	付 [†] 腰 [†]	内側し腹部は直く直下する	直入十筋	直入十筋	直入十筋

No	出土地・土層	種別	断面	口径	断面	断面	探査法	性状	形態の特徴	備考	
図版番号			(cm)	(cm)	(cm)	(cm)					
198	33号地-1	須恵器	杯盤	(1.82)	1.50	円切?	のち仕上げ付?		直線的からS字形に屈曲して「U」形部に、端部はりつい		
218	23号地-1	須恵器	杯盤	(1.80)	1.30	円切?	のち仕上げ付?		端部屈曲して「U」字形に、つまみ押下く中央少し突起		
219	33号地-1	須恵器	杯	(1.00)	0.95	円切?	のち仕上げ付?		内湾すら底付せず反ぞも、側部高い	高元	
220	23号地-1	須恵器	杯	(0.90)	4.00	円切?	のち仕上げ付?		内湾すら底付せず口部低、側部高い		
221	75号地-3・4	須恵器	杯	(1.00)	0.90	円切?			内湾すら底付せず口部低、側部高い		
222	23号地-1	須恵器	杯	1.160	2.35	底部少切り、内側少切り、外側少切り	のち仕上げ付?		不安定な底付から外側する「滑落、崩落免れ」		
223	33号地-1	須恵器	杯	(1.46)	0.25	円切?			直線的で底部、側部尖る		
224	33号地-1	須恵器	杯	(1.35)	3.00	9.00	底部少切り、内側少切り、「のち仕上げ付?」		半円から直線部が仄見する上唇部、側部高い		
225	33号地-1	須恵器	杯	(1.43)	4.30	底部少切り、内側少切り、「のち仕上げ付?」			内湾すら底付せず外側する口部低、側部高い		
226	23号地-1	須恵器	杯	(1.52)	3.20	(1.00)	底部少切り、内側少切り?		内湾すら底付せず外側する口部低で口部粗は僅かに外反		
290	227	75号地-5	須恵器	杯	(1.38)	0.25	円切?	のち仕上げ付?		外傾、底部丸い	
228	33号地-1	須恵器	直	(1.63)	2.40	13.40	底部少切り、内側少切り両面の仕上げ付?		やや上唇に小さな底付で僅に外反する、側部丸い		
229	33号地-1	須恵器	杯	(1.72)	3.80	(1.60)	9.00	円切?	半円から外傾する外張部で口部低は僅かに外反し丸い		
230	23号地-1	須恵器	杯B	(1.60)	3.60	9.00	円切?		内湾すら底付せず下唇部を削て外反する、側部丸い		
231	75号地-6	須恵器	杯	(2.36)	1.20	9.00	円切?		半丸く底付から直線的に広がる体部、底部が肥厚する直台		
232	75号地-6	須恵器	杯	(1.65)	1.00	底部少切り、内側少切り仕上げ付?			半丸く底付から直線的に広がる体部、底部が少する直台		
233	23号地-1	須恵器	杯C	(3.00)	0.60	9.00	円切?		半圓な底付から外側する体部に、高台傾く方面		
234	23号地-1	須恵器	杯C	(1.53)	4.20	9.80	円切?		半圓な底付から外側する体部に、高台傾く方面		
235	23号地-1	須恵器	杯C	(1.45)	5.65	(10.15)	9.00	円切?	側部少する体部に底付丸く、周辺外側が広がる		
236	10号地-7	須恵器	直	(1.65)	1.20	9.00	底部少切り		内湾すら下唇から底部を削て外反する、側部丸い		
237	23号地-1	須恵器	直	(1.50)	4.00	9.00	底部少切り		平底で直線部に底付丸く、側部丸い		
238	23号地-1	須恵器	杯B	(1.16)	4.10	(8.10)	9.00	底部少切り、底部少切りから上方	半圓な底付から片側丸みに底付する体部、高台傾く方面	ヘビテ型	
239	23号地-1	須恵器	片足部	(3.25)	10.10	9.00	底部少切り		外傾する体部に底付丸く、周辺外側が広がる	片足部丸く	
240	10号地-7	須恵器	直	(1.46)	3.15	9.00	円切?		内湾すら底付から外側する体部を削て外反する、側部丸い		
241	75号地-4	須恵器	直	(1.30)	10.40	9.00	円切?	「参考例」参考例の仕上げ付?	内湾すら底付から外側する直台が付く		
242	10号地-7	須恵器	直	(2.30)	6.00	9.00	底部少切り、内側少切り		内湾すら底付から外側する直台が付く		
243	23号地-1	須恵器	直	(2.20)	6.00	9.00	円切?		内湾すら底付から外側する直台が付く		
244	10号地-7	須恵器	脚台	(2.15)	12.30	9.00	円切?		外側に直線的で脚台、底部側に丸く	自然地	
245	33号地-1	須恵器	脚	(1.45)	4.50	9.00	円切?		内湾すら底付から外側する体部、脚部丸く		
246	75号地-6	須恵器	脚	(2.00)	6.00	7.75	円切?	内湾すら底付から外側する体部、脚部丸く	底付丸く		
247	33号地-1	須恵器	脚	17.65	8.60	7.75	円切?		平底で直線部に底付丸み出す、側部丸い		

No.	出土地・土層	層別	口径	器種	直径	技法	形態特徴		備考	
							(m)	(m)		
246	78街区-3-4	鋪地	直	(19.30)	(6.80)	0.0794*	圓板に沈幅	内溝する小縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
249	33号棟-1	鋪地	直	(3.50)	(6.00)	0.0794*	直形で内溝する外縫、両台は方形で漏れ穴なし	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
250	33号棟-1	鋪地	臺	(4.70)	(4.00)	0.0794*	直形で内溝する外縫、両台は方形で漏れ穴なし	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
251	33号棟-1	鋪地	瓦	(9.50)	(9.30)	0.0794*	沈幅2cm	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
252	33号棟-1	鋪地	瓦	(5.75)		0.0794*		内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
253	33号棟-1	鋪地	瓦	(8.25)	9.60	0.0794*	内溝形*、斜面*、三方透孔	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
254	10号棟-7	鋪地	瓦	(2.25)	(10.00)	0.0794*		内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
262	33号棟-1	井手	井手	(2.00)		0.0794*		内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
266	78街区-6	上縫替	井手	(17.50)	(17.50)	0.0794*	井手*、1.5*4	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
267	78街区-6	土輪替	井	(11.70)	(3.20)	*		内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
268	33号棟-1	土輪替	井	(14.00)	(3.00)	0.0794*	1.5*4	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
269	33号棟-1	土輪替	井	(13.50)	(3.10)	0.0794*	1.5*4	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
260	78街区-3	土輪替	井	(14.10)	(2.95)	0.0794*		内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
261	33号棟-1	土輪替	井	(17.30)	(2.85)	0.0794*	1.5*4	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
262	33号棟-1	土輪替	井	(17.20)	(2.15)	0.0794*		内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
263	33号棟-1	土輪替	井	(15.20)	(3.60)	0.0794*	1.5*4	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
264	33号棟-1	上縫替	井	(13.20)	4.25	0.0794*	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
265	33号棟-1	上縫替	井	(12.00)	(4.70)	0.0794*	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
266	33号棟-1	土輪替	井	12.30	5.75	0.0794*	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
267	33号棟-1	土輪替	井	(13.40)	5.60	0.0794*	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
268	33号棟-1	土輪替	井	(13.40)	5.45	0.0794*	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
269	33号棟-1	鋪地	井	(1.25)	(5.80)	0.0794*	井手形*、直縫形*2	内溝する外縫で、口縫形外周に漏れ穴なし		
270	33号棟-1	土輪替	井	(7.80)		0.0794*	成形のちおけ*、内溝形*2	内溝的で奥付<		
271	78街区-6	上縫替	井	(14.20)		0.0794*	成形のちおけ*	側の広い底部		
272	78街区-6	土輪替	井	(1.80)		0.0794*	成形のちおけ*、内溝形	側の広い底部		
273	33号棟-1	土輪替	井	(7.40)	(4.60)	0.0794*	成形のちおけ*、内溝形	側的的で奥付<		
274	27街区-1	黒磚	土輪替	井	(19.00)	37.00	(0.26)	成形のちおけ*、内溝形	内溝する外縫で、底大きめから漏れ穴なし	
275	33号棟-1	黒磚	土輪替	井	(22.60)	21.70	(8.60)	成形のちおけ*、内溝形	内溝する外縫で、底大きめから漏れ穴なし	
276	10号棟-7	土輪替	鋪地		(3.75)		成形のちおけ*		外気込みに水平に向く	
277	10号棟-7	土輪替	鋪地		(5.80)		成形のちおけ*		傾く一方に漏れするようになりびる	
278	33号棟-1	土輪替	鋪地		(5.85)		成形のちおけ*		直線的に並ぶ、平直な方針	

No.	出土地・土層	場所	口徑 (cm)	器物 (cm)	蓋面 (cm)	蓋縁 (cm)	方法		備考
							内法 (cm)	外觀	
268	33号櫛-1	土師器	147-2型	4.20	1.030	1.030	1.030	1.030	全周的に歪、内凹する。円孔1ヶ所、突起部、凹
269	33号櫛-1	土師器	147-2型	5.20	1.075	1.075	1.075	1.075	突起部で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
281	33号櫛-1	土師器	147-2型	3.60	1.020	1.020	1.020	1.020	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
282	33号櫛-1	土師器	147-2型	4.60	1.080	1.080	1.080	1.080	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
283	33号櫛-2	土師器	147-2型	4.60	0.960	0.960	0.960	0.960	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
284	33号櫛-2	土師器	147-2型	4.60	0.910	0.910	0.910	0.910	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
285	33号櫛-2	土師器	147-2型	4.95	1.005	1.005	1.005	1.005	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
286	33号櫛-2	七輪器	147-2型	4.80	0.950	0.950	0.950	0.950	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
287	33号櫛-2	土師器	147-2型	5.00	0.920	0.920	0.920	0.920	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
288	33号櫛-2	土師器	147-2型	5.00	0.880	0.880	0.880	0.880	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
289	33号櫛-2	土師器	147-2型	5.00	0.775	0.775	0.775	0.775	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
290	33号櫛-1	土師器	147-2型	4.00	0.955	0.955	0.955	0.955	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
291	33号櫛-2	十輪器	147-2型	5.00	0.900	0.900	0.900	0.900	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
292	33号櫛-2	土師器	147-2型	4.55	0.775	0.775	0.775	0.775	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
293	33号櫛-2	土師器	147-2型	4.60	0.770	0.770	0.770	0.770	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
294	33号櫛-2	土師器	147-2型	4.50	0.930	0.930	0.930	0.930	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
295	33号櫛-2	土師器	147-2型	5.60	1.220	1.220	1.220	1.220	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
296	33号櫛-1	土師器	147-2型	5.20	1.280	1.280	1.280	1.280	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
297	33号櫛-1	土師器	147-2型	5.20	1.270	1.270	1.270	1.270	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
298	33号櫛-1	土師器	147-2型	5.20	1.270	1.270	1.270	1.270	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
299	33号櫛-1	土師器	147-2型	5.20	1.270	1.270	1.270	1.270	突起で腰部を押す。内窓とする体部、「丁字形、茎
300	75街区-3	土師器	147-2型	6.20	1.105	1.105	1.105	1.105	内凹する体部、「丁字形、茎
301	75街区-3	土師器	147-2型	5.00	1.070	1.070	1.070	1.070	内凹する体部、「丁字形、茎
302	75街区-6	土師器	147-2型	6.30	1.050	1.050	1.050	1.050	内凹する体部、「丁字形、茎
303	33号櫛-1	土師器	147-2型	4.60	1.190	1.190	1.190	1.190	内凹する体部、「丁字形、茎
304	10号櫛-7	土師器	土器	5.20	1.10	1.10	1.10	1.10	中央より腰部に最大があり、いびつ
305	10号櫛-7	土師器	土器	5.60	1.20	1.20	1.20	1.20	中央より腰部に最大があり、いびつ
306	75街区-5	土師器	土器	2.80	1.20	1.20	1.20	1.20	内凹する体部、「丁字形、茎
307	75街区-5	土師器	土器	7.20	0.90	0.90	0.90	0.90	内凹する体部、「丁字形、茎
308	75街区-3	土師器	土器	9.00	0.880	0.880	0.880	0.880	内凹する体部、「丁字形、茎
309	75街区-4	土師器	土器	5.90	0.825	0.825	0.825	0.825	内凹する体部、「丁字形、茎

No.	出土地・土種		種別	器種	口径	底面	底面 直径 (mm)	底面 厚度 (mm)	技法	焼	形態の特徴		備考
	区段	範囲									(mm)	(mm)	
212	78街区-4	土師器	土師器	土師器	7.50	3.65	4.10	2.2	成形のちけ	無	純が色く焼状になら、平頂くしな形	9.15g M	
311	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	1.30	1.25	1.25	2.2	成形のちけ	無	單刃形、單刃下下口鋸齿、斷面円形	(8.3g) H	
312	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	6.75	1.55	1.35	2.2	成形のちけ	無	單刃形、單刃下下口鋸齿、斷面円形	15.4g H	
313	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	6.75	1.55	1.35	2.2	成形のちけ	無	外周全体にガスズ津付		
214	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	11.30	4.90	5.00	2.2	成形からかげ、茎部、茎部	外側に渦んばらしい跡台、内済する体感			
315	10号棟-7	土師器	土師器	土師器	11.00	4.90	5.00	2.2	成形のちけ、粘土層と骨頭	内済する、断面内側に折り曲げる			
316	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	13.00	4.90	5.00	2.2	成形のちけ	内済し端縁を尖る			
317	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	10.00	5.20	5.20	2.2	成形のちけ	内済し端部丸み			
318	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	11.00	5.60	5.60	2.2	成形のちけ	内済し渦ぬ丸み			
319	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	11.00	6.00	6.00	2.2	成形のちけ	内済し底部や内底丸い			
320	33号棟-5 黒砂	土師器	土師器	土師器	13.00	5.00	5.00	2.2	成形からかげ	内済し底部丸く			
321	33号棟-5 黒砂	土師器	土師器	土師器	13.00	5.00	5.00	2.2	成形からかげ	内済し底部丸く			
322	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	12.80	3.25	3.25	2.2	成形のちけ	平底ふうの底面、内済する			
323	78街区-6	土師器	土師器	土師器	11.20	2.50	2.50	2.2	成形のちけ	丸底から内済する体感			
324	78街区-6	土師器	土師器	土師器	11.00	2.40	2.40	2.2	成形	球形に内済する			
325	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	12.00	3.40	3.40	2.2	成形からかげ	内済し端部共尖る			
326	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	12.00	5.90	5.90	2.2	成形からかげ、參毛	内済し端部内側に折り曲げる			
327	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	12.00	5.70	5.70	2.2	成形のちけ	内済し渦部内側に折り曲げる			
328	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	11.90	5.55	5.55	2.2	成形のちけ	歪に広がり、端部消失する			
329	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	18.00	7.30	7.30	2.2	成形のちけ	歪厚く歪、内側し端部多く肥厚する			
330	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	22.00	7.15	7.15	2.2	成形のちけ	歪外傾する、端部角張る			
331	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	14.30	2.25	2.25	2.2	成形のちけ	内済する、斜面丸い			
332	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	15.60	4.70	4.70	2.2	成形のちけ、口横筋ばかり	内済する体感から強いため屈曲して外反する口横筋			
333	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	15.70	4.70	4.70	2.2	成形のちけ	強から内済する体感から強く外傾する口横筋、端部丸い			
334	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	17.60	7.20	7.20	2.2	成形のちけ、内面や壁料	強から内済する体感から外反する事、口横筋、端部尖る			
335	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	17.60	7.00	7.00	2.2	成形のちけ	強的で口横筋は端から内済する、端部内側に面する			
336	33号棟-1	土師器	土師器	土師器	18.00	9.00	9.00	2.2	成形のちけ	強的に内済する体感から強く外傾する			
337	33号棟-5 黒砂	瓦	瓦	瓦	11.20	11.60	12.00	2.2	成形のちけ	外傾し、器形重い			
338	78街区-3	瓦	瓦	瓦	9.00	7.80	7.80	1.70	圓底瓦・横筋、凸面觸目	内済する			
339	78街区-3	瓦	瓦	瓦	7.20	7.20	7.20	1.70	圓底瓦・横筋、凸面觸目	直線的			
340	78街区-3	瓦	瓦	瓦	7.20	7.20	7.20	1.70	圓底瓦・横筋、凸面觸目	内済する			

No.	出土地・土質	種別	口径 (cm)	直筒 (cm)	直筒 (cm)	方法	他	断面の特徴	備考
216	788号E-3	A ₁	半丸	(6.90)	2.10	内削る	板骨、凸面削り	内削する	
245	788号E-3	A ₁	平五	(4.20)	1.90	内削る	板骨、凸面削り	直桶的	
243	33号E-1	瓦	平瓦	(3.40)	1.20	内削る	板骨、凸面削り	内削する	
344	788号E-3	A ₁	半丸	(7.25)	2.45	内削る	板骨、凸面削り	内削する	
345	788号E-3	瓦	平瓦	(9.70)	2.10	内削る	板骨、凸面削り	内削する	
246	33号E-1	瓦	丸瓦	(8.15)	1.50	内削る	板骨、凸面削り	内削する	
347	33号E-1 SR01	A ₁	半丸	(25.15)	2.10	軸上削り、横毛き、内切り	平面になり、端部は合幅に切る	平面になり、立ち上がりを有し尖る	
218	10号E-6	須恵器	杯盤	(12.50)	4.05	(6.00)	内削り、外削り	内削する	
349	10号E-2 黒炒	須恵器	杯盤	(9.30)	2.65	内削り、外削り	内削する	内削する	
280	10号E-2 黒色土	須恵器	杯	(12.00)	3.30	内削り	水平な底部、立ち上がり外削り尖る	内削する	
351	10号E-3	須恵器	杯盤	(13.60)	2.60	内削り	水平、立ち上がり外削り尖る	内削する	
352	808号E-1 黑灰砂	須恵器	杯	(10.70)	3.10	内削り	水平で底部丸い、立ち上がり二重角で尖る	内削する	
353	10号E-3 黑炒	須恵器	杯盤	(12.00)	2.90	内削り	内削する	直筒的及び深湯丸い、立ち上がり二重角で尖る	
354	10号E-2 黑色土	須恵器	杯	(11.60)	2.60	内削り	水平な底部、立ち上がり直し尖る	内削する	
355	10号E-2 黑色土	須恵器	盤	(3.30)	8.10	内削り	直筒的	平底から内削する特形	
356	808号E-1 黑灰砂	須恵器	盤	(14.20)	3.75	内削り	外反する二重角で斜絞丸い	外反する二重角で斜絞丸い	
357	808号E-1 黑灰砂	須恵器	盤	(1.60)	10.95	底削り、内削り	内削して台座部分削る必要、	内削する	
358	10号E-3 貝層	須恵器	蓋	(2.30)	1.90	内削り	半球な底から外に削く特形、内削に對応する底口	自然地	
259	808号E-1	須恵器	蓋	(8.30)	3.00	内削り	内削する	自然地	
260	808号E-1 黑灰砂	須恵器	蓋	(12.10)	1.80	内削り	直筒的	直筒的	
361	10号E-2 黑色土	須恵器	杯盤	(11.60)	1.70	内削り	外削し所に削けてくねい仄口をつくる	自然地	
362	10号E-2 黑灰砂	須恵器	杯盤	(13.65)	1.65	内削り	直筒的が内側、直部	直筒的が内側、直部	
363	808号E-1	須恵器	蓋	(9.30)	1.60	内削り	内削する	自然地	
364	10号E-3 黑灰砂	須恵器	杯盤	(11.70)	1.70	内削り	直筒的	直筒的	
365	10号E-11	須恵器	杯盤	(16.60)	2.00	内削り	内削する	自然地	
366	808号E-1	須恵器	杯盤	(19.00)	2.00	内削り	内削する	自然地	
367	10号E-3	須恵器	杯盤	(14.55)	2.25	内削り	天部膨張する、内削不完全の特徴	内削する	
368	10号E-3	須恵器	杯盤	(17.70)	1.70	内削り	天部膨張する	自然地	
369	10号E-3 黑灰砂	須恵器	蓋	(3.60)	1.60	内削り	内削する	自然地	
370	10号E-3	須恵器	杯盤	(2.30)	9.80	内削り	内削する	自然地	
371	10号E-2 黑色土	須恵器	杯盤	(11.6)	12.65	内削り	直筒な底から内削する特形、高台は直筒厚	直筒な底から内削する特形、高台は直筒厚	

No.	出上地・土壌	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	性状		備考
							形状	形態の特徴	
218	10号機-3	渠道	渠底	4.75	(12.00)	2.75		平腹な底部から直角的に弧び開屈しない、両台は方形	
372	10号機-3	渠道	渠底	14.00	6.60	7.00	2.75	底部が圓形の渠底、側面が直角	
373	10号機-3	渠道	渠底	16.70	7.60	10.05	2.75	底部が圓形で外傾する渠底、側面が直角	自然端、他の渠片
374	10号機-3	渠道	渠底	7.10	(9.85)	5.05	2.75	底部が圓形で外傾する渠底、側面が直角	自然端、他の渠片
375	10号機-3	渠道	渠底	11.80	6.00	7.00	2.75	底部が圓形で外傾する渠底、側面が直角	自然端、他の渠片
376	10号機-3	渠道	渠底	16.90	(5.50)	10.05	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
377	10号機-6	渠道	渠底	11.70	(3.00)	7.00	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
230	10号機-3	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
379	10号機-3	土壌	渠底	12.20	(2.40)	13.00	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
380	10号機-2 黒灰土・ 80街区C-1 黑灰砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
381	10号機-3 黑泥	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
382	10号機-3 黑泥	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
383	10号機-3 黑泥砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
384	10号機-3 黑泥砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
385	10号機-1 黑灰砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
386	80街区C-1 黑灰砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
387	10号機-3 黑泥	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
388	10号機-3 黑泥砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
389	10号機-3 黑泥砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
390	10号機-3 黑泥土	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
391	10号機-3 黑泥土	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
392	80街区C-1 黑灰砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
393	80街区C-1 黑灰砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
394	80街区C-1 黑灰砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
395	80街区C-1 黑灰砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
396	10号機-3 黑泥	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
397	80街区C-1 黑灰砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
398	80街区C-1 黑泥砂	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
399	10号機-10	土壌	渠底	11.40	3.10	12.50	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
400	10号機-6	土壌	渠底	7.50	1.00	1.00	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
401	10号機-3 黑泥砂	土壌	渠底	7.00	1.00	1.00	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片
402	10号機-3 黑泥砂	土壌	渠底	11.00	(4.80)	11.00	2.75	底部が圓形から外傾する渠底	自然端、他の渠片

No.	出土場・土層	種別	口径	高さ	底径	技法	備考	底部の特徴
222	40号墳・灰砂	土師器	鉢形土器	(8.00)	(5.00)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側し端部内側に溝なし	
404	10号墳-3灰砂	土師器	鉢形土器	(7.60)	(5.00)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側し端部内側につまみ出しがある	
405	10号墳-3灰砂	土師器	鉢形土器	(8.00)	(5.30)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側し端部内側に内側にがる	
406	10号墳-3灰砂	土師器	鉢形土器	(8.00)	(4.60)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側し端部内側につまみ出しがある	
407	10号墳-3	土師器	鉢形土器	(10.00)	(3.00)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側する「縫隙」、底部内側に丸みがある	
408	10号墳-3灰砂	土師器	鉢形土器	(11.10)	(5.30)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側する「縫隙」、底部内側に丸みがある	
409	10号墳-3	土師器	鉢形土器	(9.00)	(5.00)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側する「縫隙」、底部内側につまみ出しがある	
410	10号墳・灰砂	土師器	鉢形土器	(11.00)	(3.55)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側し、底部内側に丸み	
411	10号墳・灰砂	土師器	鉢形土器	(12.00)	(6.20)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	僅かに内側で、底部内側につまむ	
412	10号墳・灰砂	土師器	鉢形土器	(14.00)	(5.10)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	僅かに内側で、底部内側に丸みがあり	
413	10号墳-3・黒陶砂	土師器	鉢形土器	(12.00)	(6.30)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側する「縫隙」から内側する「縫隙」に、底部内側に丸みがある	
414	10号墳-3・黒陶砂	土師器	鉢形土器	(12.00)	(3.70)	北・底のちげ、粘土の跡	内側する「縫隙」、底部内側に丸みがある	
415	10号墳-3・灰砂	土師器	鉢形土器	(15.00)	(4.60)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側する「縫隙」、底部内側に丸み	
416	10号墳-3・灰砂	土師器	鉢形土器	(14.00)	(4.20)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側する「縫隙」、底部内側に丸み	
417	10号墳-3・黒陶砂	土師器	鉢形土器	(16.00)	(5.30)	北・底のちげ、粘土漬ぎ目	内側する「縫隙」、底部内側に丸みがある	
418	10号墳-2・井戸周辺	土師器	鉢形土器	(16.00)	(10.00)	北・底から下垂毛	内側する「縫隙」から内側して下垂毛が横に並んでる	
419	10号墳-2・黑色土	土師器	サトダ鉢	(14.00)	(7.00)	北・底から下垂毛	内側する「縫隙」	
420	10号墳-6	土師器	輪	(14.80)	(5.10)	切口	内側し端部は外側する、底部尖る	
421	20号墳-2・井戸周辺	瓦	井戸用	24.00	22.70	3.10	製作り、井戸・井戸のちげ	僅かに内側する
224	34号墳-1・黒灰砂	土師器	杆形	(杆A)	(16.00)	(12.10)	押出A、押出X	平頂な土台部から内側し底部は灰厚、半だつしまみ
423	34号墳-1・黒灰砂	土師器	杆形	(杆B)	(16.10)	4.15	押出A、押出X	平頂な土台部から内側し底部は灰厚、半だつしまみ
424	34号墳-1・黒灰砂	土師器	杆形	(杆A)	(16.00)	(12.10)	押出A、押出X	内側する「縫隙」、蓋台は方形で外側に開く
425	34号墳-1・黒灰砂	土師器	杆形	(杆B)	(16.00)	(12.60)	押出A、押出X	内側し端部下方に丸り曲げる
426	34号墳-1・黒灰砂	土師器	杆形	(杆B)	(16.00)	4.30	押出A、押出X	内側する「縫隙」で端部所引出げる
427	34号墳-1・黒灰砂	土師器	杆形	(杆A)	(13.00)	5.35	(3.20)	内側する「縫隙」し外側所引出げる
428	34号墳-1・黒灰砂	土師器	長筒形	(筒A)	(10.00)	2.90	切口	僅やかに開いていく
429	34号墳-1・黒灰砂	土師器	長筒形	(筒B)	(10.30)	2.90	切口	僅やかに開いて外する
430	34号墳-1・黒灰砂	土師器	筒	(筒C)	(9.00)	2.90	切口	内側する「縫隙」に開いてする
431	34号墳-1・黒灰砂	土師器	長筒形	(筒D)	(9.30)	2.90	切口	明瞭な縫隙で蓋台所引出せる
432	34号墳-1・黒灰砂	土師器	筒	(筒E)	(22.70)	(5.80)	切口	蓋立さずに開き、口縫隙外側、蓋部面に丸み
433	34号墳-1・黒灰砂	土師器	筒	(筒F)	(13.00)	(15.10)	杆状底から下垂毛	長筒の底部の体部から外側する「口縫隙」、蓋部面に丸み

No.	出土地・土層	標的	口徑	深さ	技法	備考
回転						
224	434 号機-1 黒灰砂	馬頭	(cm)	(cm)		
435	34号機-1 黒灰砂	馬頭	参	(9.20) (1.00)	体部外成形から“鑿”出	平底から内側する体部
436	34号機-1 黑灰砂	馬頭	参	(18.80) (3.45)	“鑿”出	内蔵する体部、口縁部は墨く直立並みに内底、彌部丸い
437	34号機-1 黑灰砂	馬頭	晋	(8.75) (1.00)	“鑿”出	自然地
225	438 54号機-4 地灰土	土輪器	晋	(21.50) (3.10)	“鑿”出	平底から内側する
439	80号機-4 地灰土	土輪器	晋	(12.00) (8.00)	“鑿”出	新面丸く底部前に述べる
440	80号機-4 地灰土	土輪器	晋	(6.60) (9.90)	“鑿”出	外模する体部から削り外反する口部差、彌部丸い
441	24号機-1 土輪器	土輪器	晋	(11.00) (4.20)	“鑿”成形から“鑿”出形、	内蔵する口縁部で底部に側げる
442	34号機-1 土輪器	土輪器	晋	(11.20) (4.80)	“鑿”成形から“鑿”出形、粘土接觸面	僅かに内折る、彌部丸く、器内重い、
443	34号機-1 黑灰砂	土輪器	晋	(10.80) (5.80)	“鑿”成形から“鑿”出形	内蔵し彌部丸く
444	34号機-1 黑灰砂	土輪器	晋	(12.60) (4.80)	“鑿”成形から“鑿”出形	内蔵し彌部丸い
445	34号機-1 黑灰砂	土輪器	晋	(7.70) (1.50)	“鑿”成形から“鑿”出形、	器内底立し彌部丸く、彌部切付
446	34号機-1 黑灰砂	土輪器	晋	(13.60) (3.20)	“鑿”成形から“鑿”出形、粘土接觸面	内蔵し彌部丸く
447	34号機-1 黑灰砂	土輪器	晋	(11.90) (8.00)	“鑿”成形から“鑿”出形、粘土接觸面	内蔵する口縁部で彌部丸間に来る
448	34号機-1 黑灰砂	土輪器	晋	(13.40) (6.60)	“鑿”成形から“鑿”出形、粘土接觸面	内蔵する口縁部前して彌部丸く、外反する口縁部
449	34号機-1 黑灰砂	土輪器	晋	(21.40) (20.00)	“鑿”成形から“鑿”出形、口縁部分“鑿”出	平底から外側忤れる、底部以外薄地
450	34号機-1 黑灰砂	陶器	晋	(19.20) (1.20)	“鑿”出	内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
228	451 34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	3.70	“鑿”成形のち“鑿”彫	先端で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
452	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	(4.60) (16.50)	“鑿”成形のち“鑿”彫	先端で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
453	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	4.25	“鑿”成形のち“鑿”彫、内底取り口	先端で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
454	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	9.25	“鑿”成形のち“鑿”彫、内底取り口	先端で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
455	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	4.30	“鑿”成形のち“鑿”彫	先端で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
456	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	4.70	“鑿”成形のち“鑿”彫	先端で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
457	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	4.70	“鑿”成形のち“鑿”彫	先端で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
458	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	9.15	“鑿”成形のち“鑿”彫	先端で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
459	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	4.30	“鑿”成形のち“鑿”彫	平に沿い丸く内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
460	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	4.50	“鑿”成形のち“鑿”彫	丸底で直立させた時に口縁部となる、彌部丸く、円孔1ヶ所
461	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	5.20	“鑿”成形のち“鑿”彫	丸底で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
462	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	4.80	“鑿”成形のち“鑿”彫	丸底で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
463	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	9.10	“鑿”成形のち“鑿”彫	丸底で内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所
464	34号機-3 黑灰砂	土輪器	“鑿”出	4.70	“鑿”成形のち“鑿”彫	平に沿ぎ丸く内蔵する体部、彌部丸く内底、円孔1ヶ所

No.	出土地・土面	種類	口径 (cm)	器高 (cm)	蓋縫 (cm)	蓋縫 (cm)	形態の特徴		備考
							技法	他	
226	34号地-3	土壜器	14.7	9.40	1.2	1.2	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く円孔1ヶ所
466	34号地-3	土壜器	13.52	4.40	1.15	1.15	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
467	34号地-3	土壜器	14.7-28	4.90	8.70	8.70	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
468	34号地-3	土壜器	14.7	4.50	8.35	8.35	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
469	34号地-3	土壜器	14.7	4.50	8.50	8.50	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
470	34号地-3	土壜器	14.7-28	4.20	6.60	6.60	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
471	34号地-3	土壜器	14.7-28	5.40	8.30	8.30	「底部のちげ」彫形、底に内縫底の痕跡	「底部のちげ」彫形、底に内縫底の痕跡	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
472	34号地-3	土壜器	14.7-28	5.30	8.85	8.85	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
473	34号地-3	土壜器	14.7-28	4.65	8.35	8.35	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
474	34号地-3	土壜器	14.7-28	5.00	8.70	8.70	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
475	34号地-3	土壜器	14.7-28	4.20	8.25	8.25	「中腹部のちげ」彫形	「中腹部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所、いびつ
476	34号地-3	土壜器	14.7-28	5.00	9.15	9.15	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
477	34号地-3	土壜器	14.7-28	5.10	9.35	9.35	「底部のちげ」彫形、黒墨、底墨付	「底部のちげ」彫形、黒墨、底墨付	手延き丸底で内側する、底墨丸く内縫
478	34号地-3	土壜器	14.7-28	4.70	9.90	9.90	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
479	34号地-3	土壜器	14.7-28	5.40	10.00	10.00	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
480	34号地-3	土壜器	14.7-28	4.65	8.85	8.85	「中腹部のちげ」彫形	「中腹部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
481	34号地-3	土壜器	14.7-28	5.50	7.10	7.10	「底部のちげ」彫形	「底部のちげ」彫形	丸底で内側する体部、彌足丸く内縫、円孔1ヶ所
223	25号地-5 SK102	陶器	七輪	1.30	1.25	1.25	製作	製作	外反・彌足立ち立、彌足張立
482	33号地-5 SK102	陶器	七輪	2.05	1.25	1.25	製作	製作	西端に縦筋立る、彌足張立
483	33号地-5 SK102	土壜器	土壜器	4.80	1.30	1.25	「中腹部のちげ」	「中腹部のちげ」	中央小窓部で内縫圓になる
485	33号地-5 SK101	土壜器	羽釜	3.20	0.65	0.65	内縫せりがけり、口縫部付近	内縫せりがけり、口縫部付近	6.4 K A
486	33号地-5 P105	土壜器	羽釜	1.60	0.32	0.32	玉付	玉付	内側・側面上方にまづみあがける、脚小さく
487	33号地-5 P146	土壜器	羽釜	1.60	0.45	0.45	玉付	玉付	内側・側面上方にまづみあがれるようで反屈、脚小さく三角
488	33号地-5 P143	陶器	酉鉢	1.80	0.80	0.80	口付	口付	内側・側面内側に凹厚する
489	33号地-5	陶器	酉鉢	0.60	1.70	1.70	口付	口付	内側する
490	33号地-5 P105	土壜器	土壜器	2.80	2.50	2.50	土壜部から立ち	土壜部から立ち	14.0 g J
491	33号地-5	陶器	鉢	0.35	0.50	0.50	内縫せり、底膨らむ	内縫せり、底膨らむ	平底から壁かたに反する体部
492	33号地-5 SK201	土壜器	要	1.35	0.55	0.55	内縫せり	内縫せり	外反する口縫部・底部内側に肥厚
493	33号地-5 SK201	土壜器	製造土拂	1.50	0.50	0.50	内縫せり	内縫せり	内側する体部で横筋や内縫する
234	74号区-1 SK301	土壜器	要	0.40	1.00	1.00	内縫せり、外縫せり	内縫せり、外縫せり	分離式、底の内縫から外方する口縫部、底膨らみ付け
495	74号区-4	灰陶器	杯身	1.20	0.50	0.50	内縫せり	内縫せり	底膨らみで底堅尖る、立ち上がりカーブで尖る

地 区	出土地・土壁	種別	構造	口径	機場	底盤	形態の特徴		備 考
							(m)	(m)	
区画番号									
234 496 77街区-4 SSX01	新潟市 上野寺	井	[11.80] (3.10)	3.00†			外側し上層部分で断続、端部丸い		
497 77街区-4	上野寺	井	[11.70] (2.60)	2.50	3.00†		人蔵から突出する、端部丸い、内丸1ヶ所		
498 77街区-4	瓦	井	[26.70] (3.05)	2.50†			外反する「輪郭」で環形部分で合体には内側、端部となり凹弧		
499 77街区-1	瓦	井	[26.60] (5.80)	2.70†	3.00†		化点を斜めに連続的で直線的で合体には内側、端部となり凹弧		
500 7街区-1 SSX201	土野寺	井	(4.00)				外側する「輪郭」で直線的で合体には内側、端部となり凹弧		
501 7街区-1 SSX215	土野寺	井	[11.00] (5.80)	2.50†	3.00†		化点を斜めに連続的で直線的で合体には内側、端部となり凹弧		
502 7街区-1 3層	上野寺	井	[26.20] (3.05)	2.50†			内側し、角張った把手部	2次地盤	
503 7街区-1 2-3層	新潟市 石越	井	[28.00] (6.50)	2.50†			外張する斜面に斜面部分に影響する	重ね焼き	
504 7街区-1 2-3層	石越	井	(2.50)				外側し端部丸い、斜は、角に近く端部丸い		
505 7街区-1 2-3層	新潟市 瓦	井	[17.40] (3.10)	2.50†			端部丸く端部丸い		
506 7街区-1 SSX01	瓦	井	[16.90] (3.05)	2.50†	3.00†		直線的に丸くなる、端部丸い		
236 507 77街区-1 2-3層	上野寺	井	[27.30] (5.85)	2.50†	3.00†		端部から斜面部にかけて内側、端部丸く端部丸く	端付番	
508 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[26.00] (6.20)	2.50†	3.00†		内側する斜面から口部斜面へ、端部丸く端部丸く	端付番	
509 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[26.40] (8.20)	2.50†	3.00†		端部丸く端部丸く直面して内側する「輪郭」	端付番	
510 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[26.20] (6.10)	2.50†	3.00†		半たい端部から丸く端部丸く内側するは斜面、端部丸く	端付番	
511 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[25.00] (5.50)	2.50†	3.00†		平坦な底面から内側丸く「輪郭」に、端部丸く、端部丸く	端付番	
512 77街区-1 2-3層	上野寺	井	[30.40] (5.20)	2.50†	3.00†		端部から斜面部にかけて内側、端部丸く端部丸く	端付番	
513 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[33.40] (5.85)	2.50†	3.00†		平らな底面から内側丸く「輪郭」に、端部丸く	端付番	
514 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[31.40] (6.50)	2.50†	3.00†		端部丸く端部丸く内側する、端部丸く内側する、端部丸く	端付番	
515 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[21.60] (4.80)	2.50†	3.00†		内側する斜面部は斜く外反、端部丸く	端付番	
516 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[7.40] (2.50)	2.50†	3.00†		端部丸く丸く端部丸く	端付番	
517 77街区-1 2-3層	土野寺	井	[7.80] (2.60)	2.50	3.00†		平らな底面が内部内側する、端部丸く	端付番	
518 77街区-1 2-3層	瓦質十番	火舟	[11.40] (5.30)	2.50†			半的な底面で内部内側する、端部丸く	端付番	
519 77街区-1 2-3層	周辺	火舟	[15.20] 4.25	(8.10) 3.00†	3.00†		半的な底面で内部内側する、端部丸く	端付番	
520 77街区-1 2-3層	新潟市 瓦	井	[12.80] 3.60	(4.80) 3.00†			端部丸く丸く端部丸く	端付番	
521 77街区-1 2-3層	新潟市 瓦	井	(10.00) 3.20	4.30	3.00†		逆斜面の内側、内側丸く逆斜面	端付番	
522 77街区-1 2-3層	新潟市 瓦	井	[12.80] 3.65	4.80	3.00†		逆斜面台形形状で内側する、内側する「輪郭」	端付、端止端	
523 77街区-1 2-3層	施設周辺	天日井戸	[12.00] (4.70)	2.50†	3.00†		内側する斜面部は斜面に逆斜、端部丸い		
524 77街区-1 2-3層	施設周辺	天日井戸	[5.00] (4.65)	3.00†			傾り出る斜面丸く内側する「輪郭」	端付	
525 77街区-1 2-3層	陶器	井	[18.80] (6.35)	2.50†			端部丸く丸く端部丸く	端前地丸割	
526 77街区-1 2-3層	陶器	井	[31.20] (7.10)	2.50†			端部丸く丸く端部丸く	端前部丸割	

No.	出土地・土質	種別	断面	口径 (cm)	底径 (cm)	方法	他	形態特徴	備考
238	77番区-1-2-3層	周壁	錐形	(6.50)	(1.13)	引抜法	底部から側面に内溝する体型となる	平底から底部から側面に内溝する体型となる	複数発見
528	77番区-1-2-3層	周壁	錐形	(6.60)	(1.30)	引抜法	外側へ大きく膨らむ形をして頭となる端部から底部から外反する体型	外側へ大きく膨らむ形をして頭となる端部から底部から外反する体型	複数発見
529	77番区-1-2-3層	周壁	錐形	(5.50)	(1.30)	引抜法	底部は付	底部は付	V型
530	77番区-1	土師瓦	V字型	(19.30)	1.00	引抜法	くの字型底で外側に内溝する、	くの字型底で外側に内溝する、	
531	77番区-4 SX01	土師器	V字型	(2.30)	1.00	引抜法	底部は付	底部は付	
532	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(7.20)	0.75	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
533	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(9.75)	11.30	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
534	77番区-1-2-3層	土師器	錐形	(11.60)	3.70	引抜法	内底から外側するV型溝が、腹部側面に	内底から外側するV型溝が、腹部側面に	
535	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(10.00)	6.30	引抜法	口縁高張型、端部をくび形	口縁高張型、端部をくび形	
536	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(12.00)	1.00	引抜法	内底から外側する、端部をくび形	内底から外側する、端部をくび形	
537	77番区-1	土師器	V字型	(12.70)	17.25	(11.00)	引抜法”、内底付	内底から外側する、平底、口縁部外側に滑落感あり	
240	57番区-1-2-3層	土師器	V字型	(3.50)	9.85	引抜法	内底から外側する、平底	内底から外側する、平底	
539	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(6.50)	10.10	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
540	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(6.50)	9.80	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
541	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(10.50)	9.85	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
542	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(12.50)	9.40	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
543	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(16.50)	5.80	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
544	77番区-1-3-4層	土師器	V字型	(11.75)	10.95	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
545	77番区-1	土師器	V字型	(12.50)	9.90	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
546	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(9.80)	11.70	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
547	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(15.60)	11.00	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
548	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(13.50)	11.00	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
549	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(14.50)	9.60	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
550	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(13.65)	10.35	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
551	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(19.20)	10.00	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
552	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(18.50)	9.80	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
553	77番区-1-2-3層	土師器	V字型	(14.50)	9.70	引抜法	底部内面に“波形”、底面糸切り	底部内面に“波形”、底面糸切り	
554	77番区-1-2-3層	土師器	土瓶	3.95	1.00	粘土	土瓶の底が丸められ、底部が丸められ、	土瓶の底が丸められ、底部が丸められ、	A
555	77番区-1-2-3層	土師器	土瓶	3.60	1.15	粘土	土瓶の底が丸められ、底部が丸められ、	土瓶の底が丸められ、底部が丸められ、	B
556	77番区-1-2-3層	土師器	土瓶	4.15	1.35	粘土	土瓶の底が丸められ、底部が丸められ、	土瓶の底が丸められ、底部が丸められ、	B
557	77番区-1-2-3層	土師器	土瓶	(4.95)	1.35	粘土	土瓶の底が丸められ、底部が丸められ、	土瓶の底が丸められ、底部が丸められ、	B

No.	出土地・土層	断面	口径	器蓋	底径	特徴	技法	他	形態の特徴
	断面	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)				
245	558 77街区-1-2-3層 上部質 土層	4.90	1.30	1.30	1.25	粘土層	輪郭は丸く圓となり、中央幅はやや狭部が長い、全体的に細長い		7.3g B
559	77街区-1-2-3層 上部質 土層	5.25	1.25	1.15	1.25	粘土層	中央幅が広く側面は圓くなる、輪郭部は丸い		6.1g B
560	77街区-1-2-3層 上部質 土層	5.20	1.35	1.45	1.35	粘土層	中央幅が広く側面は丸くなる		10.2g B
561	77街区-1-2-3層 上部質 土層	5.40	1.35	1.35	1.35	粘土層	全体的に細長く直角で側面は丸い		6.8g B
562	77街区-1-2-3層 上部質 土層	3.95	1.40	1.30	1.25	粘土層	円錐形で側面は丸い、中央が少し立ち		6.2g C
563	77街区-1-2-3層 上部質 土層	4.10	1.50	1.30	1.25	粘土層	中央が少し立ち側面は丸い、張り出しがある、張り出しの部分が側面に当たる		7.0g C
564	77街区-1-2-3層 上部質 土層	4.60	1.60	1.15	1.25	粘土層	中央が少し立ち側面が側面にならぶ、側面は丸い		6.2g C
565	77街区-1-2-3層 上部質 土層	4.25	0.95	0.95	0.95	粘土層	細長く側面は丸い		3.8g D
566	77街区-1-2-3層 上部質 土層	4.00	1.15	1.15	1.25	粘土層	円錐形で側面は丸い		5.2g D
567	77街区-1-2-3層 上部質 土層	3.85	1.35	1.25	1.25	粘土層	円錐形で側面は丸い		6.3g D
568	77街区-1-2-3層 上部質 土層	3.35	1.20	1.10	1.25	粘土層	円錐形で側面はやや丸い		4.1g D
569	77街区-1-2-3層 上部質 土層	3.95	1.05	0.95	1.05	粘土層	中央幅が広く側面は丸い側面に寄る、側面は丸い		2.9g E
570	77街区-1-2-3層 上部質 土層	4.00	0.95	0.95	1.25	粘土層	円錐形で側面は丸い		3.4g E
571	77街区-1-2-3層 上部質 土層	3.60	1.25	1.25	1.25	粘土層	円錐形で側面は丸い		6.0g F
572	77街区-1-2-3層 上部質 土層	6.10	3.90	3.90	3.90	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で、側面は圓ではなく丸い		7.8g A
573	77街区-1-2-3層 上部質 土層	7.00	3.60	3.45	3.45	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で、側面は圓ではなく丸い		7.11g A2
574	77街区-1-2-3層 上部質 土層	6.75	3.60	3.90	3.90	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で、側面は圓ではなく丸い		7.15g B2
575	77街区-1-2-3層 上部質 土層	5.95	3.50	3.35	3.25	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で、側面は圓ではなく丸い		6.45g B2
576	77街区-1-2-3層 上部質 土層	5.95	3.65	3.60	3.25	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で、側面は圓ではなく丸い		7.05g B1
577	77街区-1-2-3層 上部質 土層	5.30	2.90	2.90	2.90	粘土層	円錐形で側面は丸く、側面は半円になる		3.72g E
578	77街区-1-2-3層 上部質 土層	5.45	2.85	3.00	2.85	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で、側面は圓ではなく丸い、側面が尖る		3.80g C1
244	579 77街区-1-2-3層 上部質 土層	8.00	5.75	5.45	5.45	粘土層	円錐形で側面は丸い、側面が尖る		(229.5g) R 31
580	77街区-1-2-3層 上部質 土層	7.10	4.90	4.80	4.80	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で側面は尖る		122.3g B1
581	77街区-1-2-3層 上部質 土層	8.50	6.55	6.55	6.35	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で側面は尖る		(156.6g) R 31
582	77街区-1-2-3層 上部質 土層	6.40	6.10	6.10	6.10	粘土層	円錐形で側面は丸い、張り出しがある		196.8g I
583	77街区-1-2-3層 上部質 土層	7.70	7.75	7.65	7.25	粘土層	中央が少し立ち側面が側面で側面は尖る		468.1g I
584	77街区-1-2-3層 上部質 土層	4.35	4.50	4.20	4.20	粘土層	球形で側面は平たい、側部はみをもつ		(343.7g) J
585	77街区-1-2-3層 上部質 土層	4.90	6.25	6.25	6.25	粘土層	球形で側面は平たい、側部はみをもつ		(74.7g) J
586	77街区-1-2-3層 上部質 土層	6.25	6.20	5.30	5.25	粘土層	扁平な球形で側面は丸くなる		(226.9g) R J
587	77街区-1-2-3層 上部質 土層	6.20	8.40	6.30	6.30	粘土層	球形で側面が丸くなる		(271.7g) K
588	77街区-1-2-3層 上部質 土層	7.25	9.85	5.20	5.20	粘土層	球形で側面が丸くなる		(395.4g) K

No.	出典書・土蔵	場所	口径	高さ	経年	洗浄	他	影響の特徴	備考
244	77番地5-1-2-3階 土蔵貯	土蔵貯	土蔵	6.40	12.40 (6.40)	x ² *底板のちかげ*、底+側壁の施き口		大底の簡な底板裏形、片側に底板はある	(441.6) K
580	77番地5-1-2-3階 土蔵貯	土蔵貯	土蔵	5.20	3.20 (4.40)	x ² *		底板が山中で両端を支つ	マダコ販送を主用
581	77番地5-1-2-3階 貯丸	貯丸	(18.15)	13.80	20	瓦当板と土瓦複合させ、面げで溝蓋、瓦丸	瓦丸、瓦交換保存 (11割か)		
592	77番地5-1-2-3階 瓦	瓦	25.00	24.00	360	断つくり、 内窓少たり、口縁泥付け	厚い瓦		
246	93号地5 SH01 十輪器	美	(29.40)	13.40			内窓少たり、口縁泥付け	内窓する事起ての字に外側する門扉形、隅板も張る	
594	14号地5 SH01 上脚器	美	(29.30)	9.60		x ² *底板から離かいの垂形、「門扉形付け」		内窓する事起ての字に外側する門扉形、端板をい	
595	14号地5 SH01 土脚器	美	(15.10)	25.35		x ² * 斜形から離離基材付け		角形の外板から反する垂形、端板をい	
596	14号地5 SH01 土脚器	版	(20.80)	16.70		x ² * -アガマで底板から離形、行 滲濬		外側する外板で、接底板から外反、端板をい	
597	14号地5 SH01 上脚器	斧	(15.40)	8.00		x ² * 番形、ひざき4、口縁泥付け		内窓する事起ての字に外側する垂形、口縁泥付けへつまみあける	
598	14号地5 SH01 十輪器	高杯	(6.90)			x ² * 番形から離す		外側する接底版、外脚も張る外板、円脚も張る	
599	14号地5 SH01 上脚器	脚板上器	8.70	6.60		x ² * 底板から離す		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
600	14号地5 SH01 土脚器	雙脚土脚	(9.80)	7.40		x ² * 底板から離す、雙脚 (は取工具使用)		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
601	14号地5 SH01 土脚器	脚板土脚	(11.90)	6.65		x ² * 底板から離す、番形、板上脚泥付け		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
602	14号地5 SH01 上脚器	電	(21.50)			x ² * 番形から離す		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
603	14号地5 SH01 十輪器	電	(22.65)	(6.20)		x ² * 底板から離す		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
248	604 14号地5 SH01 底泥器	杆蓋	(13.80)	4.50		四口付、底板から離すのち板上工作		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
605	14号地5 SH01 底泥器	杆蓋	(11.00)	4.50		四口付、天部を立てるのち板上工作		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
606	14号地5 SH01 底泥器	杆蓋	(9.00)	4.50		四口付、底板から離すのち板上工作		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
607	14号地5 SH01 脚板器	杆蓋	(13.30)	3.75		四口付、天部を立てるのち板上工作		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
608	14号地5 SH01 脚板器	杆蓋	(12.80)	3.30		四口付、底板から離す		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
609	14号地5 SH01 底泥器	杆	(11.30)	3.60		四口付、底板から離すのち板上工作		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
610	14号地5 SH01 底泥器	杆蓋	(14.00)	4.15		四口付、天部を立てるのち板上工作		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
611	14号地5 SH01 底泥器	杆	(11.20)	4.40	(6.60)	四口付、底板から離す		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
612	14号地5 SH01 底泥器	杆	10.90	4.00	7.70	四口付、底板から離すのち板上工作		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
613	14号地5 SH01 角出器	翼	(32.70)	(15.85)		四口付、底板と底板が空いたる		内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
614	14号地5	張牛器	美	(16.10)	35.30	4.90	サハのちかげ、内側に底板から離形	上から離形に、その字に底板から離形	張牛器
615	14号地5 SH01 張牛器	蓋			(7.85)	三寸付	内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
616	14号地5 SH01 張牛器	翼			(20.00)	4.50	内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	
250	617 14号地5 十輪器	翼 ² 葉			(14.70)	(5.65)	x ² * 底板から離す	内窓する事起ての字に外側する外板、端板をい	2次施設
618	14号地5 SH01 土脚器	翼	(16.50)	(7.80)		内窓する事起ての字に外側する外板、口縁泥付け	内窓する事起ての字に外側する外板、口縁泥付け		
619	14号地5 SH01 土脚器	翼	(16.30)	(9.80)		内窓する事起ての字に外側する外板、口縁泥付け	内窓する事起ての字に外側する外板、口縁泥付け		

No.	出土地・土器	種別	標識	口径 (cm)	断面 (cm)	底径 (cm)	残存 高さ (cm)	特徴	時代	形態の特徴	備考
250	四輪車	七輪器	要	17.90	(20.00)	-	-	縁が缺形で口部折内傾し、輪部厚さある	-	-	-
620	14号機-5 SK01	七輪器	鋤	18.80	(17.65)	-	-	底がぎみに匂いに外反する。鋤先鋒へ	鋤先鋒十番	-	-
621	14号機-5 SK01	十輪器	鋤	15.00	(15.00)	-	-	内側が鋸刃、外側が鋸刃。口縁部37°	-	-	-
622	14号機-5 SK01	七輪器	鋤	12.40	(12.40)	-	-	底が鋸刃、前部内傾が尖る。鋤先鋒へ	-	-	-
623	14号機-5 SK01	七輪器	鋤	12.30	(4.25)	0.60	0.60	内側が鋸刃の外張り。鋤先鋒へ	内側が鋸刃の外張り。鋤先鋒へ	-	-
624	14号機-5 SK01	七輪器	鋤	11.40	(11.40)	4.75	0.60	内側が鋸刃、前部内傾が尖る。鋤先鋒へ	内側が鋸刃の外張り。鋤先鋒へ	-	-
625	14号機-5 SK01	七輪器	鋤	11.40	(11.40)	4.25	0.60	内側が鋸刃、前部内傾が尖る。鋤先鋒へ	内側が鋸刃の外張り。鋤先鋒へ	-	-
626	14号機-5	無底器	鋤	12.50	6.50	6.60	0.60	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	朱色丸	-
627	14号機-5 SK01	無底器	鋤	13.20	4.50	0.60	0.60	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	朱色丸	-
628	14号機-5 SK01	無底器	鋤	12.20	3.65	0.60	0.60	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	朱色丸	-
629	14号機-5	無底器	鋤	12.70	(12.70)	3.65	0.60	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	朱色丸	-
630	14号機-5	無底器	鋤	12.50	(12.50)	3.65	0.60	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	朱色丸	-
631	14号機-5 鋤	無底器	鋤	7.45	(7.45)	0.60	0.60	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	内側が鋸刃の外張り。立上がり腰がシャーブ	朱色丸	-
252	33号機-1 黒泥器	七輪器	鋤	15.80	(20.00)	2.70	2.70	外側から面白出、外側に開け、背観丸い	外側から面白出、外側に開け、背観丸い	-	-
632	33号機-1 黒泥器	七輪器	鋤	15.50	(15.50)	2.70	2.70	外側から面白出、外側に開け、背観丸い	外側から面白出、外側に開け、背観丸い	-	-
633	公園用具集落 8號	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
634	公園用具集落 8號	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
635	公園用具集落 8號	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
636	北野櫻塚 黑褐	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
637	東奈造跡部分	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
638	公園用具集落	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
639	北野櫻塚	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
640	公園用具集落	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
641	公園用具集落	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
642	北野櫻塚 黑褐	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
643	北野櫻塚 黑褐	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
644	北野櫻塚 黑褐	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
645	北野櫻塚 黑褐	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	-	-
646	14号機-1 黑泥砂	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側から外反する	外側から外反する	投入品	-
647	公園用具集落	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	投入品	-
648	北野櫻塚 黑褐	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	投入品	-
649	公園用具集落	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	外側に口縁部を削り直す、底が丸い	投入品	-
254	公園用具集落	鐵文土器	深鉢形井筒形土器	-	-	-	-	底がぎみで底が外反する	底がぎみで底が外反する	-	-

No	出土者・土器	種類	断面	西面 (m)	底面 (m)	技法	他	形態の特徴	備考
256 高橋清	654 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	21.00	1.60	沈痕横付 [†] 沈痕横付 [†]			外傾し底面水平に近く 外傾し、海綿内外に凹部	
652 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			2.45	2.45	沈痕横付 [†]		外傾し、海綿内外に凹部	
653 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			2.80	2.80	沈痕横付 [†]		外傾し底面丸くやべ形する	
654 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			4.00	4.00	沈痕横付 [†]		外傾し底面丸くやべ形する	
655 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			3.00	3.00	沈痕横付 [†]		外傾し底面丸くやべ形する	
656 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			4.00	4.00	沈痕横付 [†]		外傾し底面丸くやべ形する	
657 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			2.70	2.70	沈痕付近で僅かに外反する、解剖孔入り		僅かに外反する	
658 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			5.30	5.30	沈痕付近で僅かに外反する		内済し底面丸くやべ形する	
659 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			8.80	8.80	沈痕付近で僅かに外反する		内済し底面丸くやべ形する	
660 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			2.30	2.30	沈痕付近で僅かに外反する		内済し底面丸くやべ形する	
661 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			1.70	1.70	余量全・沈痕横付 [†]		内傾する	
662 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			3.60	3.60	余量全・沈痕横付 [†]		僅かに内済する	
663 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			5.00	5.00	ガラ・北船、朱赤色		外傾し底面丸くやべ形する	
664 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			3.80	3.80	ガラ・北船		外傾し底面丸くやべ形する	
665 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			2.30	2.30	余量全・沈痕横付 [†]		外傾し底面丸くやべ形する	
666 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			2.30	2.30	余量全・沈痕横付 [†]		外反する、壁肉薄い	
667 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			3.10	3.10	余量全・沈痕横付 [†]		僅かに内済する	
668 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			2.65	2.65	余量全・沈痕横付 [†]		僅かに内済する	
669 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			3.30	3.30	余量全・沈痕横付 [†]		僅かに内済する	
670 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			3.20	3.20	余量全・沈痕横付 [†]		僅かに内済する	
671 公園筋・堀川沿 6号 萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器			4.70	4.70	余量全・沈痕横付 [†]		僅かに内済する、底肉薄い	
256 672 33号地-1 黒堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	11.00	1.50	外底下平ほり、その他のはげ [†]			外反し底面丸くやべ形する	
673 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	25.20	5.00	2.17 [†]			外反し底面丸くやべ形する	
674 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	24.80	5.30	外底全幅、縫合横付 [†]			外反し底面丸くやべ形する	
675 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	13.90	1.30	王才 [†] 、刺突文			僅かに内済しつつ内傾する	
676 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	21.00	5.00	王才 [†] 、内面けい、外底全員			外反し底面丸くやべ形する	
677 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	38.00	3.70	外底けい [†] 、内面けい [†] 、縫合横付 [†]			縫曲して内傾する	
678 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	5.30	5.30	外底全幅、凹付 [†]			外反し底面丸くやべ形する	
679 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	15.20	5.00	外底全幅、内面けい [†]			外反し底面丸くやべ形する	
680 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	22.00	5.80	外底全幅、内面けい [†]			外反し底面丸くやべ形する	
681 33号地-1 黑堀砂	萬文士器 深鉢型土器	萬文士器 深鉢型土器	22.00	5.80	外底全幅、内面けい [†]			外反し底面丸くやべ形する	

No.	出土物・土層	種別	断面	口径	直面	底面	底径	技法		形態の特徴	備考
								(mm)	(mm)		
236	682 33号標-1 黒灰砂	陶文土器 長持型土器	(8.50)		外削余材、内削り					内削する	輸入品
683	33号標-1 黑灰砂	陶文土器 長持型土器	(3.40)		外削余材、内削り					内削する やや外削する、端部丸さぎみ	輸入品
684	33号標-1 黒灰砂	陶文土器 長持型土器	(2.50)	ヨリナリ、ナリ						内削し底面を削る	輸入品
685	33号標-1 黑灰砂	陶文土器 長持型土器	(6.60)	ナリ						外反し、端部を強まる	輸入品
686	33号標-1 黑灰砂	陶文土器 長持型土器	(2.65)	ヨリナリ、底削えびき						外削し、途中削りが反する、端部丸さ	輸入品
687	33号標-1 黑灰砂	陶文土器 長持型土器	(3.90)	外削余材か、内削り						外反し、端部丸さげ形	輸入品
688	33号標-1 黑灰砂	陶文土器 長持型土器	(3.00)	ヨリナリ、伏削り						縦やわらかに外反する	輸入品
238	689 10号標-10	陶文土器 長持型土器	(3.60)	突筋付込み、突筋に削込み目						縦やわらかに外反する	
690	80街区-4	陶文土器 長持型土器	(2.40)	突筋付込み、突筋と底面に削込み目						縦やわらかに外反する	
691	34号標-1 黑灰砂	陶文土器 長持型土器	(2.00)	突筋付込み						底から外傾し直立、端部丸さ	
692	74街区-1 S301	陶文土器 長持型土器	(2.00)	ナリ						内傾し、端部丸さげ形、1脚の突筋に刻文	
693	74街区-1 S3201	陶文土器 長持型土器	(4.40)	外削り						内傾、端部丸さげ形、1脚の突筋に刻文	
694	33号標-5	陶文土器 長持型土器	(2.70)	ナリ						内傾し、内削する、リボン状突起、底凹口跡	
260	695 34号標-4 黑灰土	先生土器 長持型	(12.10)	(8.40)	ヨリナリ、底削えびき形、口縁は口付					底から外傾し直立、端部丸さ	
696	74街区-1 下層	先生土器 長持型	(10.60)	(4.60)	ヨリナリ、口縁は底状					底から外傾し直立、端部丸さ	
697	74街区-1 下層	先生土器 長持型	(10.60)	(4.50)	ヨリナリ、口縁は底状					底から外傾し直立、端部丸さ	
698	33号標-5	陶生土器 簋	(3.50)		内削り直面					内傾	
699	34号標-2	土器	(4.80)		縦かくひききの底状					表面削減	
700	34号標-4 湿灰土	先生土器 簋	(4.00)	(12.00)	外削り、縦削り、底削えびき					外反し、端面下に肥厚し直面になる	
701	34号標-4 湿灰土	先生土器 簋	(3.80)	(14.70)	外削り、縦削り、底削えびき					外反し、端面下に肥厚し直面になる	
702	77街区-4	先生土器 簋	(3.80)	(8.40)	片面削り					外反し、端面下に削り	
703	34号標-5 湿灰土	先生土器 簋	(2.25)	(17.50)	内削り、底削えびき、外削り、底削えびき					高外反する直面で、外削も内削する、円底丸窓	
704	34号標-1 黑灰砂	先生土器 簋(底部)	(3.80)	(6.00)	ビニ成形からげ、底削えびき、外削り					半底から外反する直面	
705	10号標-3	土器	(1.90)	(4.00)	一定削り					内削する内面で、底部は一定削り	2次削成
706	74街区-1 S3201	先生土器 簋(底部)	(3.00)	(5.80)	外削り、底削えびきのち底削り、底削えびき					平底から外反する	
707	33号標-1 黑灰	土器	(3.20)	(4.30)	ヨリナリ					丸底に底面外削成でドーナツ状に上げる	
708	36号標-2	土器	(20.70)	(24.35)	ビニ成形からげ、底削えびき					底削えびきが反する直面、底削えびき形になる	
709	34号標-1 黑灰砂	土器	(6.75)	(3.00)	ビニ成形からげ、底削えびき					小さな平底で内削する直面	
710	35号標-1 黑灰	土器	(2.10)	(4.10)	外削り、底削えびき					小さな平底で内削する直面	
711	36号標-2	土器	(2.60)	(3.70)	ヨリナリ					やや上げげの直面	
712	33号標-1 ST01	土器	(2.60)	(5.00)	ナリ					上げげで内削する直面、直い、	輸入品

No	出土地・土面	種別	頭骨	脛骨	肱骨	指法	他	形態的特徴	備考
290	713-33号墓-1 墓室	土器部	舟型器	舟 (23.9)	舟 (4.7)	舟かず	舟底	外反する舟形部で船底上につまり げる	
714	33号墓-1	土器部	舟	舟 (24.00)	舟 (5.80)	舟整形の舟は「舟整形舟」、舟整形舟目		横筋のいわゆる舟底を負担する舟底、舟底を負担する	
715	10号墓-7	土器部	舟	舟 (17.00)	舟 (3.70)	舟かず		舟の底面は舟底と舟底を負担する舟底、舟底を負担する	
716	25号墓-1 ST04	土器部	舟	舟 (14.20) (4.80)	舟 (1.70)	舟かず	舟	舟の底面は舟底と舟底を負担する舟底、舟底を負担する	
292	717-74号墓-1 下層	土器部	舟	舟 (13.70)	舟 (15.95)	舟内面かず	舟のちけ舟、外腹 舟のちけ舟、舟かず	舟底で外側する体部、「舟整形舟」	内湾する、舟底が外傾し尖る
718	33号墓-1 黒縁舟	頭蓋部	舟舟	舟 (11.70)	舟 (3.65)	舟かず	舟のちけ舟	舟底で外側する体部で愛顧よく深窓といい、立ち上がりが外傾し尖る	
719	33号墓-3	頭蓋部	舟舟	舟 (12.40)	舟 (2.80)	舟かず		舟内湾する舟底、立ち上がりが外傾し尖る、愛顧ともに外傾する、愛顧といい	
720	33号墓-3	頭蓋部	舟舟	舟 (11.80)	舟 (3.65)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底で愛顧、愛顧の舟底舟舟といい、立ち上がりが外傾	自然地
721	33号墓-3	頭蓋部	舟舟	舟 (14.70)	舟 (3.20)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底で屈曲形へ軽的に、立ち上がりが外傾で失む	
722	10号墓-3	頭蓋部	舟舟	舟 (2.80)	舟 (2.80)	舟かず		直立する体部からやや圓く膨らむ舟部に、立ち上がりが外傾	
723	33号墓-3	頭蓋部	舟舟	舟 (15.80)	舟 (2.80)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底から輪郭丸い、振りは三面で尖る	
724	10号墓-3	頭蓋部	舟舟	舟 (12.15)	舟 (4.00)	舟かず	舟のちけ舟、二段階かずり舟舟仕上げ	半円状舟部から内湾する舟部、口輪舟立し、輪郭丸い	
725	33号墓-1 黑縁舟	頭蓋部	舟舟	舟 (10.50)	舟 (3.95)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底から輪郭丸い舟舟仕上げ	
726	梅原	頭蓋部	舟舟	舟 (14.00)	舟 (8.15)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底、外反し内外に大きく肥厚する輪郭	
727	33号墓-4	土器部	舟舟	舟 (15.80)	舟 (3.70)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底、輪郭上方に舟舟仕合する	
728	33号墓-5 黑縫	頭蓋部	舟舟	舟 (19.80)	舟 (2.80)	舟かず	舟のちけ舟、舟舟仕合舟舟仕上げ	舟内湾する舟底に輪郭折り舟舟仕合になる	
729	713-25号墓-1 黑縫舟	頭蓋部	舟舟	舟 (17.70)	舟 (2.90)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底で舟舟仕合つまみ出す、輪郭丸い	
730	33号墓-5	頭蓋部	舟	舟 (12.10)	舟 (4.30)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底で輪郭丸い	
731	713-26号墓-1 黑縫舟	頭蓋部	舟	舟 (11.60)	舟 (4.30)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底から屈曲して輪郭丸い舟舟仕上げ	
732	10号墓-3	頭蓋部	舟	舟 (14.80)	舟 (2.80)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底から輪郭丸い舟舟仕合する	
733	10号墓-3	頭蓋部	舟舟	舟 (14.90)	舟 (7.00)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底から輪郭丸い舟舟仕合する	
734	34号墓-5 福地舟	頭蓋部	舟舟	舟 (12.30)	舟 (6.30)	舟かず	舟のちけ舟、舟舟仕合	舟内湾する舟底で内湾する舟部はよく、輪郭丸い、新月形の舟舟	
735	34号墓-5 黑縫舟	頭蓋部	舟舟	舟 (14.5)	舟 (12.10)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底で、高台は輪郭舟舟	
736	33号墓-5	頭蓋部	舟舟	舟 (13.10)	舟 (4.30)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底で、体部は外傾し輪郭丸い、高台は内湾する	
737	33号墓-5 黑縫舟	頭蓋部	舟舟	舟 (16.65)	舟 (4.35)	舟かず	舟のちけ舟	舟内湾する舟底に舟舟仕合いく、体部内傾し輪郭丸い	
738	10号墓-5	頭蓋部	舟舟	舟 (19.30)	舟 (5.30)	舟かず		舟内湾する舟底で輪郭舟舟	
739	713-25号墓-1 黑縫舟	頭蓋部	舟	舟 (9.80)	舟 (4.30)	舟かず		輪郭丸い舟舟の舟部で、内傾す輪郭となる	
740	33号墓-1	頭蓋部	舟	舟 (9.80)	舟 (3.85)	舟かず		外反する頭部で輪郭舟舟み出す	舟底丸
741	33号墓-5	頭蓋部	舟	舟 (14.80)	舟 (2.80)	舟かず		外反する頭部に舟舟仕合する	1.577
742	10号墓-5	頭蓋部	舟舟	舟 (12.00)	舟 (5.80)	舟かず		外反する舟舟で輪郭舟舟み出す	自然地
743	24号墓-1 黑灰砂	頭蓋部	舟舟	舟 (14.60)	舟 (1.95)	舟かず		内湾し屈曲した舟舟部、輪郭丸い	

No.	柱上地・土壁		構造	口径 (mm)	幅員 (mm)	高さ (mm)	技術		用語の特徴	備考
	支承部	遮断部					操作	他		
262	33号機-5 黒鉛粉	無出器	直通	(7,355)	(9,60)	2,974 [†] 、高台運び [*]			内蔵する施設で高台運びする	
744	33号機-5 黒鉛粉	無出器	直通	(1,50)	(1,40)	2,974 [†]			外反し偏重の形になる	
745	33号機-5 黒鉛粉	無出器	直通	(17,60)	(2,60)	2,974 [†]			外傾し偏重の形になる	
746	33号機-5 黑鉛粉	無出器	直通	(1,40)	(1,40)	2,974 [†]			外傾し偏重の形になる	
747	33号機-5 黑鉛粉	無出器	直通	(13,20)	(4,20)	2,974 [†] 、底部カット			内蔵する	
264	758 33号機-5 黑鉛粉	無出器	直通	(14,00)	(4,10)	3,300 [†] 、底部カット、側部切欠き [*]			平底で底から内蔵するが斜傾的な外形、端部丸い	
749	33号機-1 黒鉛粉	土脚器	直通	(12,60)	(4,75)	3,270 [†] 、底部カット			底部から内蔵し端部丸い	
750	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(15,80)	(5,60)	11,30 [†] 、底部カット、側部切欠き [*] 、輪郭線直行			底部不規則な底面で側に内蔵する外形、端部丸い	
751	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(20,30)	(5,10)	王字 [†] 、底部カット			輪郭線直行	
752	33号機-5 黑鉛粉	土脚器	直通	(12,70)	(3,85)	王字 [†] 、底部カット			内蔵する外形で底部丸い、端部丸い、配重する	
753	33号機-5 黑鉛粉	土脚器	直通	(14,00)	(3,40)	7,90 [†] 、底部丸い、輪郭線直行			内蔵し、端部丸い	
754	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(12,70)	(3,85)	王字 [†]			輪郭線直行	
755	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(22,10)	(7,10)	外伝送機械工具 [†] で側引、口縁部カット [*]			平底ぎみで、内側する外形で、端部丸い	
756	34号機-2 SSX01	土脚器	直通	(15,10)	(3,05)	王字 [†] 、側に切込み			平底ぎみで底部丸い	
757	33号機-5 黑鉛粉	土脚器	直通	(21,50)	(3,05)	王字 [†] 、側に切込み			側に切込みで側引 [†] する外形となる	
758	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(19,40)	(5,30)	王字 [†] 、側部切欠き [*] 、輪郭線直行			内蔵する外形が側から側引する外形、端部丸い	
759	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(22,10)	(4,30)	王字 [†] 、側部切欠き [*] 、輪郭線直行			外反する外形が、端部丸い	
760	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(22,60)	(2,30)	王字 [†]			内蔵する外形から外反する外形部に、端部丸い	
761	34号機-2 SSX01	土脚器	直通	(22,60)	(2,90)	王字 [†]			外傾し偏重の形	
762	33号機-5 黑鉛粉	土脚器	直通	(19,40)	(5,30)	王字 [†] 、側部切欠き [*] 、輪郭線直行			内蔵する外形が側から側引する外形	
763	34号機-1 黑鉛粉	土脚器	直通	(23,80)	(6,40)	王字 [†] 、側部切欠き [*] 、輪郭線直行			内蔵する外形が側から側引する外形	
764	33号機-5 黑鉛粉	土脚器	直通	(29,40)	(2,30)	王字 [†] 、側部切欠き [*]			内蔵する外形で側傾をも外傾する口縁部、端部つまり	
765	33号機-5 黑鉛粉	土脚器	直通	(33,60)	(3,20)	王字 [†] 、側部切欠き [*]			外反し、輪郭線直行	
766	34号機-1 黑鉛粉	土脚器	直通	(25,50)	(2,50)	王字 [†]			側から外反する、輪郭線直行	
767	34号機-1 黑鉛粉	土脚器	直通	(23,80)	(6,40)	王字 [†] 、底部カット、輪郭線直行			内蔵する外形が側から外反する外形	
768	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(25,50)	(6,70)	王字 [†] 、底部カット、輪郭線直行			側から内蔵して外反する、輪郭線直行	
769	34号機-1 黑鉛粉	土脚器	直通	(16,70)	(12,20)	王字 [†] 、側部切欠き [*] 、輪郭線直行			内蔵する外形で側傾をも外傾する口縁部、端部つまり	
265	770 34号機-2 SSX01	土脚器	直通	(13,80)	(1,90)	王字 [†]			外傾から外反曲面 [†] の半分にまつまし山字	
771	34号機-1 黑鉛粉	土脚器	直通	(16,60)	(6,50)	王字 [†] 、底部カット、輪郭線直行			底傾に外反する外形から外反する外形	
772	10号機-3 黑鉛粉	土脚器	直通	(15,00)	(5,90)	王字 [†] 、底部カット、輪郭線直行			内蔵する外形が側から外反する外形	
773	34号機-1 黑鉛粉	土脚器	直通	(14,60)	(7,80)	王字 [†] 、底部カット、輪郭線直行			内蔵する外形が側から外反する外形	
774	34号機-1 黑鉛粉	土脚器	直通	(10,70)	(5,20)	王字 [†] 、底部カット、輪郭線直行			内蔵する外形が側から外反する外形	

No.	出土地・土質	種別	口径	底面	断面	方法	備考
266	35号樋-5 土野路	土野路	新道上部 (65)	北* 亂形から小豊形	未定	全体部に削る	
776	34号樋-1 黒塗砂	土野路	土野路 土野路	變 變	北(12.80) 北(10.80)	北* 亂形から「變形」、口縁等(2)付	2次地成、削成十番
777	34号樋-1 黒塗砂	土野路	土野路	變	北(10.80)	北* 亂形から「變形」、口縁等(2)付	
778	10号樋-3	土野路	土野路	變	北(16.60) (18.10)	外側が豊形、内面が「變形、圓窓、圓孔」	直角の内側で外反する「變形」、變形ない
779	34号樋-1 黒塗砂	土野路	土野路	變	北(20.60) (16.70)	北* 亂形から「變形」、杆、口付	内側する体形で横形外側、端部を剥ぐ
780	34号樋-1 黒塗砂	土野路	土野路	變	北(22.50) (16.70)	北* 亂形から「變形」、口縁等(2)付	尾曲する輪郭で輪郭や尖端など削ぐ
781	80街区-4	土野路	土野路	變	北(30.00) (18.10)	北* 亂形から外側が豊形、輪郭圓窓(2)付	内側してから直ぐみに削る
782	34号樋-1 黒塗砂	土野路	土野路	板	北(32.00) (12.90)	北* 亂形から「變形」、口縁等(2)付	内側する体形から点ざみに削り下すも、端部丸い
783	34号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	板	北(31.5)	北* 亂形から「變形」、杆、口付	変形に沿り合せせる
784	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	板	北(31.5)	北* 亂形から「變形」、杆、口付	直立的で端部尖る
785	34号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	板	北(31.5)	北* 亂形から「變形」	直立する、底部に削りに削り下す
786	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	板	北(31.5)	北* 亂形から「變形」	上方に反ら、直角円形
787	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(32.0) (5.80)	北* 亂形の「ちけ」變形	内側する、端部丸い
788	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(37.0) (5.80)	北* 亂形の「ちけ」變形	内側と外側に削り下すも、變形丸い
789	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(37.0) (5.65)	北* 亂形の「ちけ」變形	内側する、端部削りに削り下げる變形丸い
790	34号樋-4 露灰土	土野路	土野路	製造土器	北(38.0)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部丸い
791	34号樋-4 P12	土野路	土野路	製造土器	北(38.0)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部削りに削り下げる
792	34号樋-4 P12	土野路	土野路	製造土器	北(38.0)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部丸い
793	34号樋-4 P12	土野路	土野路	製造土器	北(41.0)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部丸い
794	34号樋-4	土野路	土野路	製造土器	北(45.0)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部丸い
795	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(47.0) (6.65)	北* 亂形の「ちけ」變形、部分的に削り下げ	内削し、端部尖る
796	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(48.0) (6.50)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部尖る
797	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(48.0) (6.30)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部尖る
798	35号樋-5	土野路	土野路	製造土器	北(48.0) (6.30)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部尖る
799	35号樋-3	土野路	土野路	製造土器	北(48.0) (6.50)	北* 亂形、粘土堆積ぎ口付	内削し、端部尖る
800	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(49.0) (6.60)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部尖る
801	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(52.0) (6.60)	北* 亂形の「ちけ」變形	内削し、端部削りまみあげる
802	10号樋-3	土野路	土野路	製造土器	北(54.0) (6.60)	北* 亂形、粘土堆積ぎ口付	裏から削りしてから外反すも、變形丸い
803	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(56.0) (6.60)	北* 亂形の「ちけ」變形	外削し、端部削り削り削いでいる
804	35号樋-5 黑塗砂	土野路	土野路	製造土器	北(56.0) (6.20)	北* 亂形の「ちけ」變形	外削し、端部削り削ける
805	10号樋-3	土野路	土野路	製造土器	北(58.0) (6.15)	北* 亂形の「ちけ」	内削する山根まで、端部丸い

No.	出土場・土層	種別	基盤	口径 (cm)	横幅 (cm)	底厚 (cm)	技法		備考
							内面の特徴	外側の特徴	
268	805.10号機-3	土器部	基盤	13(5.0)	(3.10)	2~3'成形のち打け'			内面する口縁部で、漏れ穴部分が丸い部分あり。並
807	10号機-3	土器部	基盤土器	17(5.0)	(6.40)	2~3'輪形'			内面する口縁部、漏れ穴あり。
808	10号機-3	土器部	基盤土器	14(5.0)	(6.10)	2~3'輪形、粘土接觸部口縫'			内面する口縁部、漏れ穴あり。
809	10号機-3	土器部	基盤土器	16(5.0)	(2.95)	2~3'輪形、粘土接觸部口縫'			内面する口縁部、漏れ穴あり。
810	35号機-5 黒灰砂	土器部	基盤土器	16(5.0)	(4.50)	2~3'成形のち打け 塗装'			内面する口縁部、漏れ穴あり。
811	35号機-5 黒灰砂	土器部	基盤土器	17(5.0)	(4.55)	2~3'成形のち打け 塗装'			内面する口縁部、漏れ穴あり。
812	10号機-3	土器部	基盤土器	15(5.0)	(6.20)	2~3'成形から打け'			外側から
270	813.20G	発送部	粗鉢	2(5.0)	(4.20)	2~3'打け'			様子から内面を複数回摩擦する。
814	75街区	深部	粗鉢	22(2.0)	(6.50)	2~3'打け、北' 腹部、外圍に状況工式焼'			直線的に広がり、施品は外に見当する。
815	80街区-1 黒灰砂	東部	粗鉢	27(2.0)	(2.80)	2~3'打け'			直線的で腹部以外に肥厚する。
816	35号機-2	東部	粗鉢	26(3.0)	(1.70)	2~3'打け'			外側し漏れ部周辺に肥厚しない。
817	35号機-2	東部	粗鉢	26(3.0)	(3.00)	2~3'打け'			外側し漏れ部より内側に肥厚
818	75街区-4	東部	粗鉢	33(3.0)	(4.50)	2~3'打け'			直線的に広がり漏部内外に肥厚
819	75街区-3-4	東部	粗鉢	21(5.0)	(4.55)	2~3'打け'			直線的に広がり漏部内外に肥厚
820	75街区-3	東部	粗鉢	4(6.0)	(4.00)	2~3'打け'			外側する部体部口縁部は内側に大きく肥厚
821	25G	東部	粗鉢	4(7.0)	(4.00)	2~3'打け'			直線的に外に个体部から背面に肥厚する漏部になる
822	9街区	東部	粗鉢	2(4.0)	(2.40)	2~3'打け'			直線的に外する
823	35号機-2 黑色砂	東部	粗鉢	23(3.0)	(2.95)	2~3'打け'			外側し漏部肥厚する。
824	35号機-2 黑色砂	東部	粗鉢	21(5.0)	(3.30)	2~3'打け'			外側し漏部肥厚する。
K25	13号機-1	東部	粗鉢	4(20)	(8.40)	2~3'打け' のち打け、裏赤系切り			平手で裏赤方で挖りげる部
K26	34号機-1 SX01	瓦筋	板	13(4.0)	(3.10)	2~3' 亂形から打け'、上縁は打け'			外側し漏部肥厚する。
827	74街区 TT3回復	瓦筋	板	14(3.0)	(4.25)	2~3'成形から打け'、2~3'打け'			内面する体部口縫部先端
828	20G	瓦筋	板	14(5.0)	(4.70)	2~3'成形のち打け 塗装、はね上げ'、丁' 漆刷2227'			内面する体部口縫部先端、漏部ない。
829	34号機-4.3窓	黑色土器	板	16(5.0)	(5.80)	2~3'成形から打け 塗装、はね上げ'、内面打け'			平手い塊部から内側する体部に、前面三角の裏面
830	中央部	黑色土器	板	1(3.0)	(9.00)	2~3' 打け'			内面する底部、三脚部に近い所台
831	34号機-1	黑色土器	板	1(7.0)	(6.80)	2~3'成形から打け'			底少に内側へ、器曲して外方に延びる、漏部ない。
832	10号機-3	土器部	三	11(5.0)	(1.65)	2~3'輪形、口縁部2227'			漏部文化化している。
833	35号機-3	骨組	板	13(3.0)	(2.85)	2~3'打け'			體内から内側漏部外反する、漏部ない。
834	34号機-1 黑灰砂	青鐵	板	14(5.0)	(4.00)	2~3'打け'			體内から内側漏部外反する、漏部台形
272	80街区-2	土器部	板	29(2.0)	(3.40)	2~3'打け'			直線的な体部、體は水平に張げる、漏部負張る
836	80街区-1 黑灰砂	土器部	瓦盤	1(7.0)		2~3'成形から打け 塗装'			

No	出土地・土器	種類	口径 (cm)	底面 (cm)	直径 (cm)	表法 他	形態的特徴		備考
							内側	外側	
272	837 34号墓-1 土葬器	土葬器	刃鑿	(22.00) (6.00)	刃' 斧部からげ' 鋸形、外側が鋸形、刃付'		内側する部品で内面に切削、鋸は‘鋸形’で付加する		
838	33号墓-1 土葬器	土葬器	鍬	(23.80) (7.20)	右上がりの刃、内側が鋸形、刃部が刃付'		内側する部品で口縁部厚さから外反、前面三角の脚ある		
839	7号墓-1 精土	土葬器	鍬	(24.00) (6.00)	外側が刃、内面・口縁部が刃付'		内側する部品で外反する口縁部、端部三角の脚ある		
840	10号墓-3 土葬器	土葬器	鍬	(22.00) (6.00)	刃' 斧部のちが' 外側が刃、口縁部が刃付'		内側する部品で凹部する口縁部、端部三角の脚ある		
941	7号墓-3-1 十輪器	十輪器	鍬	(24.00) (6.00)	外圓右上がりの刃が、刃付'		内割し、塑い面由・内側の筋筋が付く		
842	7号墓-1 SX001	土葬器	鍬	(27.00) (3.00)	外側上面が鋸形、刃' 斧部からげ'		内側する部品で外反		
843	北朝鮮鉢	土葬器	鍬	(25.80) (3.80)	刃' 斧部のちが'、刃部が刃付'		内側し口縁部さらに内側し、外圓に變化した質を持つ		
844	26G	十輪器	鍬	(3.00)	刃付'		内側し筋筋が付る		
945	北朝鮮	土葬器	鍬	(4.00)	刃付'		内側し口縁部屈曲し、彌彦肥厚したく、質は堅い		
946	7号墓-2 TP3	土葬器	鍬	(8.00)	刃付'		直圓的口以が付く、三足器		
847	24号墓-1 海参	土葬器	頭骨耳	(11.20)	刃' 斧部からげ'		圓かくに溝して盛る二足の脚部		
848	24号墓-1 被命	土葬器	頭骨耳	(4.75)	刃' 斧部からげ'		直圓的口が付る脚部		
849	10号墓-3 十輪器	十輪器	鍬	(18.60) (3.35)	刃付'		全体的に外反する、面三角の突起付		
274	850 23号墓-2 上輪器	上輪器	鍬	(26.00) (4.00)	外輪側が、刃付'		内側する口縁部、彌彦丸い		
851	33号墓-2 土和器	土和器	鍬	(1.80) (3.10)	刃付'		内側し頭部外張る		
852	10号墓-3 土和器	土和器	鍬	(26.80) (7.10)	外輪・刃部から刃付'		内側する外張部、頭部外張る		
853	34号墓-1 P13	上輪器	鍬	(23.40) (8.05)	外輪側が刃付、刃部が刃付'		内側する外張部で柔く、彌彦膨らむ		
854	23号墓-1 表上	土葬器	始邊	(31.00) (3.30)	刃付'		内側する口縁部で彌彦丸い		
855	78号墓-3 十輪器	十輪器	鍬	(25.30) (6.00)	刃付'		内側し頭部外側に丸み、頭部耳に彌彦丸い		
856	23号墓-2 土葬器	土葬器	鍬	(25.20) (7.75)	刃付'		腹面前部から頭部の腰目（木半位）		
857	23号墓-2 土葬器	土葬器	鍬	(25.60) (8.10)	刃付'		横側する外張部で柔く、彌彦丸い		
858	12G	両管	鍬	(8.50) (2.30)	刃付'		直立きの体形で彌彦丸い		
859	34号墓-1 直根4A	上輪器	鍬	(7.80) 1.75	直根付切り、刃付'		腹く付ける口縁部、彌彦丸い		
860	20G	土葬器	鍬	(8.80) 2.35	(7.80) 0.975"		今や内側し頭部丸く、頭部耳		
861	10号墓-3 土葬器	土葬器	鍬?	(10.20) 3.10	刃付、荒窓付'		平坦な本部で体形は短く丸い、彌彦丸い		
862	86号墓-4 R.	丸瓦	鍬	(7.20) (5.30) 2.55	内側をR、		やや至		
276	863 38号墓-2 土葬器	土葬器	壺	(11.60) (3.75)	刃付'		裏から引出しながら外傾する、彌彦肥厚		
864	38号墓-1	土葬器	壺	(9.30) (7.10)	刃付'		体部内側し、口縁部外側		
865	34号墓-4 墓灰上	陶器	火入れ	(14.00) (5.95)	刃付'		彌やかS字形に突出、彌彦肥厚、折手付		
866	23号墓-1 陶器	陶器	火入れ	(21.80) (6.30)	刃付'		外側する部品で本部には開く口縁部、彌彦外張る		
867	34号墓-3 土葬器	土葬器	火入れ	(23.20) (5.90)	刃付'		内側し彌彦丸い		

No.	出土地・土壌	種別	基盤	口径 (cm)	断面 (cm)	底面 (cm)	検査	備考	形態の特徴	
									内側	外側
276	858 45街区-1	瓦質十唇	円柱	(22.01) (8.53)	切妻口 [*]				底きのある口部直で内側下する、男やや下方に高く弧びる	
869	33号棟-1	陶器	捲鉢	(29.40) (9.20)	切妻口 [*] 、腰引17.5cm				盤から内側十字形窓を立てる、直腹壁、輪脚外側に足耳有	輪脚外側有
870	34号棟-3	高脚傳持器	皿	(11.30) (4.60)	切妻口 [*] 、削り出し台せ				内側口部端端、筋感有い、直腹壁	筋感有
871	10号棟-2	施釉内沿	皿	10.70	2.95	4.35	切妻口 [*] 、先端削り出し		内側の口部端端、筋感有い、直腹壁	筋感有
872	15号棟-2-3	土瓶器	香炉	10.00	3.69	6.95	切妻口 [*] 、脚部はげ [*] 、底部切口 [*]		内側から突出する全体に、口縁部が反する、三脚	
873	34号棟-4 滅灰土	青磁	碗	(20.05)	4.70	高台厚底			底面瓦形の形合、底感有い	
874	34号棟-4 滅灰十	施釉内沿	皿	(15.30)	3.45	(4.70)	切妻口 [*] 、足込み深感ねぬき足跡		内側する全体で、窓台直角、口縁部反り、腰部丸い	
875	45街区-1-2	白磁	缸	4.00	1.45	1.25	垂繩目 [*] 、内面と口縁部施釉		筋感有系白磁	
876	34号棟-1 實現	上部器	灯明皿	(8.80) (1.85)	切妻口 [*]				筋感打刃直	
877	33号棟-2	施釉内沿	皿	(2.30)	(4.30)	切妻口 [*]			迷津地	
878	79街区-1	施釉内沿	皿	12.20	4.60	4.16			腰感丸	
879	79街区-1	青磁	碗	(2.00)	4.15	切妻口 [*]			くらかん手	
880	34号棟-1 黒彩	陶器	灯明皿	(11.00)	2.25	4.90	切妻口 [*] 、内面施釉施釉		内側に窓台の窓台	
881	10号棟-2 井口周辺	陶器	甕	(7.00)	2.20	2.20	切妻口 [*] 、削り出し直角、底感有		方の窓台で腰感有	
882	45街区-1	土瓶器	土甕子	3.95	4.20	1.00			内側受部直に内側して弧びる	
883	45街区-1	土瓶器	土甕子	2.50	2.60	0.90			内側する底部、前り出し直角、底感有	
884	46	土甕子	土甕子	2.60	2.65	0.60	フ [*]		内側に窓台の窓台	
885	10号棟-3 月池	土瓶器	土甕子	2.55	2.60	0.60	フ [*]		上部内側すら、腰感有	
886	77街区-1 実地焼	陶器	皿子	3.95	3.90	0.75	内面切口 [*] 、外面切口 [*] 、腰感打ち欠く		平本から内側する全体、口縁部直立	
887	196	土瓶器	土甕子	3.40	3.20	0.95	フ [*]		他本に内側十字窓を施用	
888	45街区-1	土瓶器	土甕子	2.70	2.60	0.60	フ [*]		僅かに内側十字窓を施用	
889	4C	土瓶器	土甕子	2.40	2.25	0.60	フ [*]		承	
890	10号棟-3 貝唇	土瓶器	土人形	(2.90)	1.35	1.30	蓋作り			
891	34号棟-1 黑彩	土瓶器	土人形	(4.95)	3.85	1.50	蓋作り			
892	45街区-1	土瓶器	土人形	(4.05)	(2.75)	0.65	蓋作り			
893	14号棟-2	十唇品	土人形	(3.30)	(3.15)	0.95	2C 係影			
894	14号棟-7 黒土	筒22	タイル	15.55	15.45	1.05	製作り、7面角の筒了			
895	14号棟-7 灰土	陶器	タイル	(8.80)	(8.65)	1.20	製作り			
896	14号棟-7 黒土	筒25	タイル	(6.90)	(6.10)	0.75	製作り			
897	14号棟-7 灰土	陶器	タイル	(3.40)	(4.00)	0.90	製作り			
898	34号棟-1 黑灰彩	上部器	アーチ窓	(16.00)	(4.90)	2C 底部からちがう窓型、外縁が窓形、立ち				

No	出土地・土器	種別	断面 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	技法		特徴	備考	
						外周輪郭 の有無	内側輪郭 の有無			
280	899(10号墳-1)	土器	79°-2底	(14.20)(8.80)	北'底、輪郭なし、口縁部が切られ、端部が丸い、端部が丸い、	内側する舟形から腹に外反する口縁部に、端部が丸い、				
290	34号墳-1	土器	79°-2底	(11.40)(14.80)	北'底、輪郭から付け、輪郭、U字型切付'	内側する舟形から腹に外反するU字型切付				
901	24号墳-1 露灰土	土器	79°-2底	(12.20)(7.15)	内外ともU字型切付	内側して底部に外反する舟形、軽く外反するU字型切付				
902	34号墳-2 黑灰砂	土器	79°-2底	16.20	18.75	10.30	北'底部の内側が垂直、U字型切付'	不安定な底から内側する舟形、軽く外反するU字型切付		
903	33号墳-2	陶器	79°-2底	(11.40)(4.60)	79°90°	35°	底部の内側が垂直、U字型切付'	内側して底部が直線である舟形、軽く外反するU字型切付		
904	34号墳-5 黑砂	土器	79°-2底	(10.20)(5.25)	北'底部の内側が垂直、U字型切付'	底部に浅く外反する、端部が丸い				
905	33号墳-5 黑砂	土器	149°2底	(12.20)(4.00)	79°90°	35°	底部の内側が垂直、U字型切付'	底部が丸い		
906	33号墳-2	陶器	79°-2底	(12.60)(3.30)	79°90°	35°	底部が丸から直線する形状	内側する舟形から直線する形状		
907	79号墳-2	土器	79°-2底	5.20	9.00	5.20	北'底部が丸から付け、内側が、口縁部が切付'	内側する舟形で直線的、底部が丸い、底部が丸い		
908	79号墳-2	土器	41°-2底	(8.80)(7.70)	35°	35°	底部が丸から付け、U字型切付	平底で直線する体形		
909	25G	土器	41°-2底	(5.80)	35°	35°	底部の内側が切付'	把手部と舟形で広がる、把手にU字型切付	2次焼成	
910	34号墳-2 SXII	土器	41°-2底	(5.05)	35°	35°	底部が丸から直線形	方形の把手		
911	34号墳-2 斧型鉢	土器	41°-2底	(6.70)	12.40	12.40	北'底部が切付、内側が直線	内側する舟形が丸い、把手小さく舟形		
912	33号墳-5	土器	41°-2底	(9.80)	35°	35°	底部が丸から付け、内側が直線	内側する舟形が丸い、把手小さく舟形	2次焼成	
913	桶	上荷若	41°-2底	(5.80)	11.40	11.40	北'底部が丸から付け、端部が切付'	把手部が丸く、体形丸い		
914	24号墳-1	土器	41°-2底	(12.20)	35°	35°	底部が丸から直線形	長い把手の直線する体形とU字型の把手がく	2次焼成	
915	22G	土器	41°-2底	5.20	11.50	11.50	北'底部の内側が、端部が切付'	把手部方舟形、舟形の把手が丸い	2次焼成	
916	34号墳-2 黑灰砂	土器	41°-2底	(8.80)	35°	35°	底部が丸から付け、U字型切付	U字型の把手から直線の丸い舟形		
917	33号墳-5	土器	41°-2底	(4.30)	11.80	11.80	北'底部が丸から付け、端部が切付'	把手部が丸く、把手が丸い		
918	26G	土器	41°-2底	(5.00)	13.10	13.10	北'底部が丸から付け、端部が切付'	把手部が直線で広がる、車い	2次焼成	
919	34号墳-1	土器	41°-2底	(5.00)	18.00	18.00	北'底部が丸から直線形	内側する舟形から直線ぎみになる、丸い腹部になる	2次焼成	
920	34号墳-2 黑灰砂	土器	41°-2底	(9.80)	35°	35°	北'底部が丸から付け、U字型切付'	U字型の把手から舟形が舟形に		
921	10号墳-3	土器	41°-2底	(11.55)	12.70	12.70	北'底部の内側が切付'	U字型の把手と舟形が舟形に		
282	922	34号墳-4 露灰土	土器	79°-2底	(12.20)(16.35)	79°90°	35°	底部が丸から直線ぎみになる	内側する舟形から直線ぎみになる	
923	33号墳-2	土器	79°-2底	(11.80)(22.00)	79°90°	35°	底部が丸から直線ぎみになる	内側する舟形から直線ぎみになる		
924	34号墳-1 露灰土	土器	79°-2底	(8.80)	10.20	10.20	U字型切付、底部が丸い	平底な形状が丸い		
925	77号墳-1	土器	79°-2底	(10.50)	18.20	9.70	底部が丸り、U字型切付'	平底で直線的、舟形の把手でU字型		
926	10号墳-3	土器	マダコ型	(11.25)(10.60)	35°90°	35°	底部が丸い	平底で丸い内側する舟形		
927	74号墳-7 T3周辺	土器	79°-2底	(6.80)	18.95	18.95	U字型切付'	不安定な底から丸い舟形があり、内側し直線的になる		
928	18号墳-3	土器	79°-2底	(11.45)(10.40)	35°90°	35°	底部が丸い	平底で丸い		
929	75号墳-2	土器	79°-2底	(13.80)(10.50)	35°90°	35°	底部が丸い	平底から直線する舟形		

No.	出土地・土層	測定	断面	口径	器高	底径	柱法	焼	用途の特徴	備考
図版番号			(cm)	(cm)	(cm)	(cm)				
282	930.78街区-5	上階器	vr-2型		(8.90)	(9.80)	29切符、底部斜切り		平底で外側する体部、	
931	78街区-6	上階器	vr-2型		(6.90)	10.35	底部斜切り、斜刃		平底で内側する体部、	
932	34号棟-1 廊下	土階器	vr-2型	(2.60)	11.40	長筒形身(9.40)、斜刃		平底で底部斜する体部、		
933	34号棟-1 廊下	土階器	vr-2型		(4.90)	5.30	底部斜切り、ナ"盤元		底部斜する体部、	
934	13号棟-1	土階器	vr-2型		(3.90)	(10.40)	29切符のちげ、底部斜切り		底部斜する体部、	
284	935.33号棟-2	土階器	vr-2型		(6.40)	10.20	29切符、底部斜切り		平底で底部斜する体部、	
936	33号棟-2	上階器	vr-2型		(6.00)	9.80	29切符、底部斜切り		平底で底部斜する体部、	
937	35号棟-1	上階器	vr-2型		(6.50)	(9.70)	29切符、底部斜切り		平底で内側する体部、	
938	34号棟-4 駐牧土	土階器	vr-2型		(8.40)	10.70	底部斜切り、29切符		平底で底部斜する体部、	
939	77街区-2	上階器	vr-2型		(6.50)	11.00	29切符、底部斜切り		平底から外側する体部、	
940	79街区-1	陶器	vr-2型		(6.10)	9.60	29切符、底部斜切り		"基"から内側する体部、	
941	74街区-1 S301	陶器	vr-2型		(14.00)	9.75	29切符、底部内斜け、底部斜切り		内側する体部、輪郭半周	
942	16号棟-3	陶器	壺		(10.25)	9.15	29切符、底部斜切り		平底で端部斜する、体格直線的で延びる	29" 2面合
943	77街区-4 S301	陶器	壺		(9.30)	(9.20)	29切符、底部内斜け、底部斜切り		平底から内側する体部、	
944	33号棟-1	陶器	vr-2型		(9.30)	9.10	29切符、底部斜切り		平底から内側する体部に	
945	74街区-1 S301	陶器	vr-2型		(9.10)	(9.60)	29切符、底部内斜け、底部斜切り		内側する体部、輪郭半周	
946	33号棟-1	陶器	vr-2型		(3.10)	(9.80)	29切符、内面斜り		平底から外側する体部、	
285	10号棟-2 両土	土階器	土壇	2.45	0.80	0.80	2" 底部斜り		中央が被穴式で開口する	16g A
948	33号棟-1 表土	土階器	土壇	(3.10)	1.05	1.15	2" 底部のひげ		中央が被穴式で開口する	(34g) A
949	79街区-2	土階器	土壇	(4.35)	1.05	1.15	2" 底部のひげ		中央が被穴式で開口する	51g A
950	34号棟-1 陶器	小階器	土壇	(4.55)	1.10	1.10	2" 底部のひげ		中央に最大がかりで開口する	58g A
951	56街区-2	上階器	土壇	4.60	1.10	1.10	2" 底部斜り		中央が被穴式で開口する	48g A
952	10号棟-3 貝層	土階器	土壇	5.00	1.00	1.00	2" 成形のひげ		最大が中央より開口する	40g B
953	56街区-2	土階器	土壇	4.20	1.00	0.95	2" 成形のひげ		手捏ねで削、端部丸い	35g B
954	10号棟-3	上階器	土壇	4.85	1.15	1.15	2" 底部のひげ		中央下部が丸く開口する	45g B
955	56街区-2	土階器	土壇	3.65	0.95	0.95	2" 成形のひげ		端部が中央より開口する	31g B
956	58街区-2	上階器	土壇	(1.30)	1.05	1.05	2" 成形のひげ		最大が中央より開口する	34g B
957	46	土階器	土壇	(3.90)	1.05	1.00	2" 成形		中央が被穴式で開口する	(35g) B
958	10号棟-3	上階器	土壇	4.25	1.10	1.15	2" 成形のひげ、		中央からひげ	42g B
959	120	土階器	土壇	4.65	1.15	1.20	2" 成形のひげ		中央が被穴式で開口する	54g B
960	75街区-1 25v	土階器	土壇	5.25	1.20	1.20	2" 成形のひげ、粘土質の複数		中央が被穴式で開口する、茎	72g - 地用瓶 B

No.	出土地・土器	種別	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	技法	特徴	形態的特徴		
								中央下に横穴があり、肩部は尖る	中央下に横穴があり、肩部は尖る	
286	奈良県-4	土師器	土師器	土師	4.75	1.05	2.5°底部から4°整形	中央下に横穴があり、肩部は尖る	5.0 g B	
962	34省5-5区5	土師器	土師器	土師	4.65	1.05	2.5°底部からのちげ	中央下に横穴があり、肩部は尖る	4.8 g B	
963	34省5-5区5	土師器	土師器	土師	4.65	1.20	2.5°底部のちげ	中央下に横穴があり、肩部は尖る	4.7 g B	
964	775区-1 木原遺	陶器	土師器	土師	4.75	1.10	2.5°底部からのちげ	陶器部下部となり、中央下に横穴あり、全体的に細長い	5.2 g B	
965	139区-1	土師器	土師器	土師	4.75	1.10	2.5°底部からのちげ	中央下に横穴があり、両端は尖る、茎	5.5 g B	
966	161区-2 井戸周辺	土師器	土師	4.50	1.00	0.90	2.5°底部からのちげ	丁程なしで直状	3.9 g B	
967	588区-2	土師器	土師	4.85	1.20	1.20	2.5°底部からのちげ	手筋なしで管状、最大径が中央下にある、茎	5.7 g B	
968	588区-2	土師器	土師	4.30	1.05	1.05	2.5°底部からのちげ	手筋なしで長、茎は2段式尖る	4.4 g B	
969	103区-6	土師器	土師	3.25	1.18	1.20	2.5°底部からのちげ	手筋が導入で側面丸める	4.1 g B	
970	156	土師質	土師	4.80	1.20	0.80	2.5°整形	中央下に横穴があり、茎	6.0 g B	
971	778区-1 宮原遺	土師器	土師	4.00	1.20	1.20	2.5°底部のちげ、株上部の黒漆	中央の底部く、側面が黒い面にはならない	5.1 g B	
972	778区-1 新土	土師器	土師	5.20	1.35	1.35	2.5°底部	中央下に横穴あり、側面は削り、	8.0 g B	
973	339区-1	土師器	土師	4.45	1.10	1.10	2.5°底部のちげ	中央下横穴大径で側面尖る、茎	3.6 g B	
974	185	土師質	土師	3.50	1.00	1.00	海螺形に削りする腹の抜き口、2.5°整形	中央下横穴で側面に削りくなる、茎	6.9 g B	
975	85	土師質	土師	4.25	1.20	1.10	2.5°整形	(4.8 g) B		
976	103区-3	土師器	土師	4.50	1.10	1.15	芯に巻きつけ、2.5°底部	中央下が底部に削くなら、底部尖る、茎	5.1 g B	
977	126	須恵器	土師	5.10	1.40	0.70	芯に巻きつけ、2.5°底部、腹部に向かって削くする	中央下が底部に削くなら、茎	-	
978	339区-2	土師器	土師	4.00	1.50	2.0	2.5°底部のちげ	手筋なしで中央尖り、茎	6.8 g D	
979	103区-3 木戸周辺	土師器	土師	3.80	1.40	1.30	2.5°底部のちげ	甲虫顎部み開き小皿四脚	(4.4 g) B	
980	126	土師質	土師	3.80	1.50	1.50	2.5°底部のちげ	中央下横穴大で側面削る	底面彫刻(刀刃)	B
981	曳輪器	土師器	土師	4.20	1.15	1.05	2.5°底部のちげ	中央下横穴大で側面削る	4.7 g B	
982	東北	土師器	土師	4.35	1.15	1.15	2.5°底部のちげ	中央下横穴大で側面削る	5.2 g B	
983	SS601	土師質	土師	4.30	1.10	1.05	2.5°底部のちげ	中央下横穴大で側面尖る	5.2 g B	
984	北部軽便鉄道	土師質	土師	4.30	1.10	1.05	2.5°底部のちげ	茎で中央に削り大底	4.2 g B	
985	北部軽便鉄道	土師質	土師	2.40	0.10	1.05	2.5°底部のちげ	各枚で側面に尖る、茎	3.1 g D	
986	SS702	土師器	土師	2.65	1.45	1.30	2.5°底部のちげ	側面尖り、茎	(3.9 g) C	
987	103区-2 井戸周辺	土師器	土師	3.35	1.10	1.05	2.5°底部のちげ	中央下に横穴、茎で側面削る	(3.5 g) C	
988	139区-1	土師器	土師	4.40	1.05	1.00	2.5°底部のちげ	中央下に横穴があり、両端は尖る、細く直	4.8 g C	
989	141区-3	土師器	土師	3.75	1.10	1.15	2.5°底部のちげ	中央下横穴大があり、茎は削れ尖る	5.0 g C	
990	107区-2 井戸周辺	土師器	土師	4.40	1.20	1.10	2.5°底部のちげ	中央下横穴小で側面尖る	5.5 g C	
991	34号窯-1 黑灰胎	土師器	土師	4.25	1.25	1.40	2.5°底部のちげ、仕上げ、焼る	中央下に横穴が側面削る	5.4 g C	

No.	出土地・土層	種別	口径 (m)	機理	容積 (m³)	底盤 (m)	経年	特徴	弓場の特徴		備考
									中央部分が堅らみ手差し	中央下部が堅らみ手差し	
286	982 14号縦-7	土壠器	1.30	3C・成形からけ仕上げ、堅実	1.30	1.30	1.30	中央部分が堅らみ手差し	(5.1g)	C	
983	809縦-1 黒瓦串	土壠器	1.30	3C・成形からけ仕上げ、堅実	1.30	1.30	1.30	中央下部が堅らみ手差し	(9.3g)	C	
288	985 156	土壠質	0.50	3C・堅密な手差し	0.50	0.50	0.50	中央が堅大で端に堅くなる、堅	1.9g	D	
985	46	土壠質	0.50	3C・堅密な手差し	0.50	0.50	0.50	中央が堅大で端に堅くなる、堅	(20g)	D	
996	38号縦-2 黒瓦串	土壠質	1.30	3C・成形からけ仕上げ	1.30	1.30	1.30	堅体で端部に堅くなる、堅	5.0g	D	
997	10号縦-3	土壠質	1.30	3C・成形からけ仕上げ	1.30	1.30	1.30	堅体で端部に堅くなる、堅	(5.1g)	D	
998	10号縦-3	土壠質	1.30	3C・成形からけ仕上げ、軽土埋め仕上	1.30	1.30	1.30	中央より土色が堅大径で堅、端部は細くなる	(5.5g)	D	
999	34号縦-1	土壠質	1.10	3C・成形からけ仕上げ	1.10	1.10	1.10	中央より土色が堅大径、所蔵細くなる	4.8g	B	
1000	10号縦-3 黒砂	土壠器	1.05	3C・成形からけ仕上げ	1.05	1.05	1.05	中央からみが堅密する	(28g)	D	
1001	74街区 TPI35近	土壠質	1.00	3C・成形からけ、子供ね	1.00	1.00	1.00	中央が堅いが後端ではない、	34g	D	
1002	74街区 6号土	土壠器	0.95	3C・成形	0.95	0.95	0.95	堅密的で堅め丸い	33g	D	
1003	126	土壠質	1.10	3C・堅密	1.10	1.10	1.10	堅	4.1g	D	
1004	26	土壠質	1.20	3C・堅密	1.20	1.20	1.20	中央の堅大部からナテで確くする、堅	5.4g	D	
1005	196	土壠質	1.00	3C・堅密	1.00	1.00	1.00	中央の堅大部が堅大、堅	4.8g	D	
1006	10号縦-3	土壠器	1.25	3C・堅密	1.25	1.25	1.25	手程ねで、堅	4.0g	D	
1007	34号縦-4 306	土壠器	1.30	3C・成形からけ堅密	1.30	1.30	1.30	堅体で周囲が堅大、中央と端が堅大、堅	6.3g	D	
1008	北高横渠串	土壠質	1.40	3C・堅密	1.40	1.40	1.40	管径で太く中央が堅大、所蔵密する、堅	5.8g	D	
1009	赤砂	土壠器	0.90	3C・成形からけ仕上げ	0.90	0.90	0.90	管径で堅	2.6g	F	
1010	10号縦-4 滅灰土	土壠器	1.15	3C・成形からけ堅密	1.15	1.15	1.15	蓋で円筒形、両端尖る	5.1g	E	
1011	10号縦-2 黑瓦上	土壠器	1.30	3C・成形からけ仕上げ	1.30	1.30	1.30	管径で手程ね、周囲圓に	5.2g	F	
1012	不明	土壠質	1.25	3C・成形からけ仕上げ	1.25	1.25	1.25	中央が堅大で周囲が堅くする、堅	4.9g	F	
1013	25G	陶質	0.75	3C・堅密	0.75	0.75	0.75	中央が堅大で周囲が堅くする、堅	40.3g	B	
1014	34号縦-4 壁灰土	土壠器	1.60	3C・成形からけ堅密	1.60	1.60	1.60	中央が堅大で周囲が堅くする、堅	9.9g	G	
1015	10号縦-3 貝殻	陶器	0.90	3C・堅密	0.90	0.90	0.90	中央が堅大で周囲が堅くする、堅	50.5g	A1	
1016	33号縦-2	土壠器	2.00	3C・成形からけ仕上げ	2.00	2.00	2.00	手程ねで中央が堅大、堅	37.3g	B	
1017	33号縦-2	土壠器	3.10	3C・成形からけ仕上げ	3.10	3.10	3.10	子程ねで中央が堅大、堅	40.3g	B	
1018	125	土壠質	2.45	3C・堅密	2.45	2.45	2.45	子程ねで中央が堅大、堅	21.5g	A1	
1019	17G	土壠質	2.05	3C・堅密	2.05	2.05	2.05	子程ねで中央が堅大、堅	34.4g	C1	
1020	34号縦-1 黒砂	土壠器	2.30	3C・成形からけ仕上げ	2.30	2.30	2.30	中央が堅大で周囲が堅くする、堅	27.2g	A1	
1021	34号縦-2 黒砂	土壠質	0.60	3C・成形からけ仕上げ	0.60	0.60	0.60	堅体有り、形状が小窓	(2.8g)		
1022	24号縦-1 黒砂串	土壠器	1.60	3C・成形からけ仕上げ、端面が切り	1.60	1.60	1.60	中央部分がや細く、前面が本い、片側から穿孔	20.0g	H	

No.	出土地・土質	種別	標高 (m)	溶度 (m)	断面 形状	方法	他	形態の特徴	備考
288	1023.35号鉢-2 SX01	土壤带	土壌	(5.15)	1.75	32° 斜面から下げる		円孔部分が最も大きめ、断面円形	(17.6g) H
1024	35号鉢-1 黒灰砂	土壤带	土壌	5.90	2.45	31° 斜面から下げる		断面に小さな凹凸がある、平らなつたすき形	37.4g M
1025	35号鉢-1 黑灰砂	土壌带	土壌	(7.20)	3.80	32° 斜面から下げる 形態		奥側に縦溝がある	58.6g M
290	1025.3号鉢-4 喀灰土	土壤带	土壌	3.50	0.60	32° 斜面のちびつ		中央が最も広くて端部が狭くなる	242.5g A1
1027	1028.3号鉢-1 喀灰土	土壤带	土壌	7.20	4.95	芯に巻きつづき、32° 斜面後げる		中央が最も狭くて端部が広くなる	154.3g A1
1028	34号鉢-4 喀灰土	土壤带	土壌	1.40	0.55	32° 斜面のちびつ、32° 形態?		中央が最も広くて端部が狭くなる	204.6g A1
1029	20G	土壤带	土壌	6.40	0.25	32° 斜面		浅形となる、茎半分が横	(33.4g) A1
1030	1025.3号鉢-3	土壤带	土壌	5.55	3.70	32° 斜面のちびつ		管状で薄葉失る	64.5g B1
1031	17G	土壤带	土壌	6.45	3.25	32° 形態		有機質付着、肉の脂状	87.8g B1
1032	14号鉢-4	土壤带	土壌	6.10	4.40	32° 斜面からたどりぬけ目+札上り		中央に最も狭く、周囲丸い形になる	118.8g B1
1033	10号鉢-2 衝戸周围	土壤带	土壌	7.10	4.10	4.00	32° 斜面から下げる 縫隙、	中央が最も広くて端部が狭くなる	82.8g A1
1034	10号鉢-2	土壤带	土壌	6.30	3.75	3.55	32° 斜面のちびつ	子孫ひも中央が最大、茎	72.5g B
1035	3号鉢-4 喀灰土+	土壤带	土壌	4.70	4.30	(4.10)	32° 斜面のちびつ 形態	茎葉が次第に中央下に向いて、茎が張り、周囲失る	60.5g A1
1036	24号鉢-3	土壤带	土壌	4.80	(2.50)	3.85	芯に巻きつづき、32° 斜面ぎ目、札上り	斜め大きい、中央が最も広くて端部が狭くなる、周囲平坦	(39.9g) A1
1037	18号鉢-2-3	土壤带	土壌	4.30	4.95	4.70	芯に巻きつづき、32° 斜面後げる 札上り	中央に最も広く、茎、周囲丸い形になる	71.0g J
1038	18号鉢-2-3	土壤带	土壌	4.00	4.70	4.50	芯に巻きつづき、32° 斜面後げる 札上り	中央が最も広くて端部が狭くなる、茎	68.5g J
1039	18号鉢-2-3	土壤带	土壌	(5.05)	5.00	1.90	芯に巻きつづき、32° 斜面後げる 札上り	茎形が複数ややや	97.5g J
292	1040.3号鉢-4 喀灰土	土壤带	土壌	8.45	6.20	3.60	32° 斜面のちびつ	片側側が最も大きくなる、茎、内裏に瘤がある	261.7g I
1041	34号鉢-4 喀灰土+	土壤带	土壌	6.75	8.30	(6.60)	芯に巻きつづき、32° 斜面のちびつ	茎葉玉化、周囲が盛りあがる	(192.4g) K
1042	12G	土壤带	土壌	8.30	8.60	8.40	芯に巻きつづき、32° 斜面	中央が最も狭く、周囲が盛りあがる	464.5g K
1043	34号鉢-4 喀灰土	土壤带	土壌	8.25	8.60	7.80	32° 斜面のちびつ	上端が最も狭く、周囲が盛りあがる、茎	530.2g K
1044	35号鉢-2	土壤带	土壌	7.65	5.90	3.30	32° 斜面から下げる	底部が最も広くなる	696.4g K
1045	10号鉢-3	土壤带	土壌	6.85	10.65	10.55	32° 斜面のちびつ	葉部が最も盛りあがる、周囲が盛りあがる	(262.8) L
1046	34号鉢-2 植物	土壤带	土壌	6.10	(5.60)	11.05	32° 斜面から下げる 形態	円錐形後端が最も広くなる、32cmの円錐	260.5g D
1047	10号鉢-3 貝殻	陶器	土壌	7.25	5.50	5.90	砂付付、32° 斜面後げる	内側が粗面表面、周囲はよくにぎみがある円錐形	106.9g H
1048	35号鉢-2 黒灰砂	陶器	土壌	6.50	4.10	32° 斜面から下げる		表面に粗面付着、周囲はよくにぎみある円錐形	
1049	34号鉢-2 黒灰砂	土鉢器	泥上	(3.40)	1.80	32° 斜面から下げる		表面に粗面付着	
1050	2号鉢-2	土鉢器	泥上	(3.80)	1.05				

十種などの土製物は長さ・幅・厚さを示している

第4表 富島遺跡イタコ壺計測表

地番 組合	出土場所	種類	法 量 (m)			手平量 (m)		測定値 (m)	色 調	実測値	タイプ	記号・方法		地盤 ナメ	
			口径(T)	体径(Φ)	T/U	幅(Φ)	高さ(Υ)					ヘジ	スダブリ		
154 54	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.00	(8.00)	—	11.70	7.80	0.57	4.50	4.50	5YR7/6	B	I	R	
55	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.80)	7.40	—	12.60	8.00	0.63	4.50	4.50	75YR7/4	B	I	R	
56	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.55	(7.80)	—	11.90	7.80	0.66	4.50	4.50	75YR7/41	A	I	—	
57	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.20	7.30	0.85	12.20	8.00	0.66	4.50	4.50	25YR6/8	A	I	R	
58	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.00)	(7.00)	—	12.30	7.70	0.63	4.50	4.50	5YR7/6	A	I	RL	
59	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.50)	(7.70)	—	12.05	7.70	0.64	4.40	4.40	75YR7/4	A	I	A2	
60	33号棟-1 SR01	土瓶型	(7.70)	8.10	—	12.00	7.75	0.65	4.70	4.70	5TR6/4	A	I	R	
61	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.20	7.80	0.79	11.90	7.55	0.63	4.20	4.20	5TR6/6	A	I	R	
62	33号棟-1 SR01	土瓶型	7.00	7.90	0.89	12.10	7.70	0.64	4.70	4.60	5YR7/6	B	I	R	
63	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.70	7.80	0.86	11.70	7.45	0.64	4.30	4.60	0.33	5YR7/6	B	I	L
64	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.50	8.00	0.81	12.20	8.00	0.66	4.70	4.30	1.07	75YR7/4	A	I	R
65	33号棟-1 SR01	土瓶型	7.20	7.80	0.82	12.20	7.90	0.65	4.50	5.00	0.90	75YR7/6	A	I	L
66	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.90	8.00	0.86	12.60	7.90	0.63	4.50	4.80	0.94	5YR7/6	A	I	R
67	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.40	8.00	0.80	12.10	7.50	0.62	4.30	4.60	0.93	5YR7/6	B	I	R
68	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.80	7.80	0.87	12.30	7.70	0.63	4.70	4.70	1.00	5YR7/6	B	I	R
69	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.40	8.20	0.78	12.10	7.70	0.64	4.20	4.70	0.89	5YR7/6	A	I	R
70	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.70)	8.00	—	12.09	7.70	0.64	4.70	4.70	1.00	5YR7/6	A	I	R
71	33号棟-1 SR01	土瓶型	(7.00)	(7.70)	—	(10.20)	7.50	—	—	—	—	5YR7/6	? I	—	LorR
72	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.20	8.00	0.78	12.30	7.50	0.61	4.50	4.70	0.96	5YR7/6	B	I	R
73	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.60)	—	—	12.30	7.70	0.63	4.30	4.70	0.91	5YR7/6	B	I	R
74	33号棟-1 SR01	土瓶型	(5.80)	(7.60)	—	12.09	7.40	0.62	4.40	4.40	1.00	5YR7/6	B	I	R
75	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.20)	7.20	—	12.60	7.90	0.63	4.50	4.50	0.96	5YR7/6	B	I	R
76	33号棟-1 SR01	土瓶型	(5.60)	(8.00)	—	12.00	7.55	0.63	4.10	4.80	0.85	5YR7/6	B	I	R
77	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.50)	7.90	—	11.90	7.80	0.66	4.30	5.00	0.86	5YR7/6	B	I	R
78	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.80)	(7.10)	—	12.00	7.70	0.64	4.00	4.30	0.93	5YR7/6	A	I	R
79	33号棟-1 SR01	土瓶型	6.20	7.40	0.84	12.05	7.80	0.65	4.20	4.70	0.89	5YR7/6	B	I	R
80	33号棟-1 SR01	土瓶型	(4.40)	(7.70)	—	11.80	7.55	0.64	4.20	4.60	0.91	5YR7/6	A	I	R
81	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.20)	(8.10)	—	12.20	8.00	0.66	4.60	4.80	0.96	5YR7/6	A	I	R
82	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.00)	(7.40)	—	12.20	7.70	0.63	4.50	4.50	1.00	5YR7/6	A	I	R
83	33号棟-1 SR01	土瓶型	(6.20)	(7.70)	—	11.80	7.60	0.64	4.30	4.30	1.05	5YR7/6	A	I	R

No.	出土地区	種類	法 製 (cm)		器形 (cm)		器形 (cm)		V/W	色 調	実測値 (W)	記述	記号・技術	地土	
			口径(T)	体部径(U)	T/U	高さ(X)	底面(Y)	V/X							
158	81 33号窯-1 SR01	土器	(6.20)	(6.00)	—	12.20	7.70	0.63	4.50	1.02	SYR7/6	A	I	R	
85	33号窯-1 SR01	土器	(6.30)	7.90	—	12.40	7.40	0.62	4.50	1.14	SYR7/6	A	I	R	
86	33号窯-1 SR01	土器	6.80	7.90	0.66	12.00	7.40	0.62	4.50	1.70	0.96	SYR7/6	A	I	R
87	33号窯-1 SR01	土器	(6.70)	(7.80)	—	11.80	7.40	0.63	4.60	4.50	0.98	SYR7/6	A	I	R
88	33号窯-1 SR01	土器	6.30	7.60	0.81	12.10	7.70	0.64	4.30	4.50	0.96	SYR7/6	A	I	R
89	33号窯-1 SR01	土器	(6.60)	7.70	—	12.20	7.60	0.65	(4.20)	4.40	—	7SYR2/6	A	I	R
90	33号窯-1 SR01	土器	6.50	8.60	0.81	11.70	7.60	0.65	4.50	4.90	0.92	SYR7/6	A	I	R
91	33号窯-1 SR01	土器	6.50	7.70	0.81	11.80	7.60	0.64	4.20	4.50	0.93	7SYR7/4	A	I	B
92	33号窯-1 SR01	土器	6.60	7.80	0.85	12.00	7.60	0.66	4.50	4.70	0.95	SYR7/6	A	I	R
93	33号窯-1 SR01	土器	—	(7.40)	—	(10.60)	—	—	4.50	4.40	1.02	SYR7/6	A	I	R
162	94 33号窯-1 SR01	陶器	7.00	8.60	0.88	12.80	7.30	0.61	5.20	4.80	1.08	5YR7/1	A	I	aA
95	95 33号窯-1 SR01	陶器	(6.00)	(7.50)	—	12.30	7.30	0.60	5.20	4.80	1.13	5YR7/1	A	I	aA
96	96 33号窯-1 SR01	土器	(6.80)	(6.00)	—	11.80	7.30	0.64	5.00	5.80	1.04	ROYR5/2	A	I	R
97	97 33号窯-1 SR01	陶器	6.70	8.60	0.84	12.00	7.60	0.63	4.90	4.80	1.00	5YR7/1	A	I	A
98	98 33号窯-1 SR01	陶器	6.80	7.90	0.86	12.40	7.30	0.69	5.00	4.70	1.06	7SYR6/4	A	I	R
99	99 33号窯-1 SR01	陶器	6.80	8.50	0.80	12.50	7.55	0.60	5.00	5.10	0.98	7SYR7/4	A	I	aA
100	100 33号窯-1 SR01	陶器	(8.60)	(8.30)	—	13.00	7.90	0.61	5.00	5.20	0.95	5YR7/1	A	I	aL
101	101 33号窯-1 SR01	陶器	(7.60)	—	—	12.00	6.90	0.58	4.50	4.60	0.98	2SYR6/2	A	I	G
102	102 33号窯-1 SR01	陶器	(6.80)	7.80	—	11.80	6.40	0.54	4.60	4.80	1.02	2SYR7/2	A	I	aL
103	103 33号窯-1 SR01	陶器	(5.80)	(7.40)	—	11.40	6.90	0.61	5.00	4.70	1.06	5YR7/1	A	I	aR
104	104 33号窯-1 SR01	土器	8.50	8.50	1.02	11.70	7.20	0.62	4.60	4.60	1.03	7SYR6/6	A	I	R
105	105 33号窯-1 SR01	土器	6.20	7.80	0.79	12.00	7.60	0.63	4.10	4.60	0.89	SYR7/6	A	I	L
106	106 33号窯-1 SR01	土器	5.70	7.70	0.74	12.00	7.50	0.66	4.50	4.60	0.98	SYR7/6	B	I	R
107	107 33号窯-1 SR01	土器	(7.00)	7.90	—	12.10	7.95	0.66	4.50	4.60	0.98	7SYR7/6	A	I	R
108	108 33号窯-1 SR01	土器	6.80	8.10	0.84	12.30	7.70	0.63	4.50	4.90	0.92	5YR7/8	A	I	R
109	109 33号窯-1 SR01	土器	(5.50)	7.90	—	12.40	7.90	0.64	4.50	4.50	1.00	SYR7/6	A	I	R3
110	110 33号窯-1 SR01	土器	(6.60)	7.70	—	11.90	7.55	0.63	4.30	4.70	0.91	SYR7/6	A	I	R
111	111 33号窯-1 SR01	土器	6.50	8.60	0.81	12.20	7.60	0.62	4.50	4.70	0.96	SYR7/6	A	I	R
112	112 33号窯-1 SR01	土器	5.80	7.80	0.74	12.30	7.70	0.63	4.50	4.50	1.09	7SYR6/4	A	I	R
113	113 33号窯-1 SR01	土器	7.20	8.60	0.90	11.60	7.30	0.62	4.20	4.50	0.93	7SYR6/4	A	I	R
164	114 33号窯-1 SR01	土器	(6.00)	7.40	—	11.20	6.80	0.69	4.30	4.50	0.95	7SYR6/4	A	I	R

No.	出土場所	種類	法 異 (cm)				把手幅 (cm)	握感 (W)	V/W	色 調	実測面	タイプ	ヘラ	操作・技術	ナメル	記述箇
			□径(T)	体盤径(L)	T/U	器のX)										
164	115 33号地-1 SR04	土器鉢	(5.80)	(7.30)	—	12.00	7.60	0.63	4.30	4.60	0.93	5Y27/6	A	I	R	上
116	33号地-1 SR04	土器鉢	(5.80)	(7.40)	—	12.50	7.90	0.63	4.90	4.80	1.02	5Y26/6	A	I	R	上
117	33号地-1 SR01	鉢形質	(7.20)	7.50	—	12.20	7.50	0.63	4.80	4.40	1.09	N6/	B	I	IR	上
118	33号地-1 SR01	鉢形質	5.50	7.60	0.78	11.70	8.20	0.70	4.70	4.20	1.19	2S77/2	A	I	AB	上
119	33号地-1 SR01	鉢形質	7.20	9.00	0.86	11.20	7.10	0.63	5.40	4.70	1.15	2S77/4	A	I	aB	上
120	33号地-1 SR02	土器鉢	(6.40)	(7.60)	—	12.20	7.60	0.62	4.30	4.80	0.90	5Y26/4	B	I	R	中央
166	33号地-1 SR01	土器鉢	(6.60)	(7.40)	—	11.90	7.40	0.62	4.50	4.60	0.98	5Y27/6	B	I	R	中央
122	33号地-1 SR04	土器鉢	6.50	(7.60)	—	11.70	7.65	0.64	4.30	4.50	0.96	5Y27/6	A	I	R	上
123	33号地-1 SR04	土器鉢	(5.50)	7.30	—	11.20	6.90	0.62	4.40	4.60	0.95	10Y25/2	A	I	L	中央
134	33号地-1 SR04	鉢形質	(6.00)	(7.75)	—	12.20	7.50	0.61	5.60	4.80	1.04	5Y7/1	A	I	A	中央
125	33号地-1 SR04	土器鉢	(5.70)	(7.70)	—	11.70	7.40	0.63	4.50	4.80	0.94	7S76/3	A	I	uA	中央
126	33号地-1 SR01	土器鉢	(7.10)	(8.00)	—	11.50	7.40	0.54	4.10	4.60	0.89	N6/	A	I	L	中央
127	33号地-1 SR01	鉢形質	(6.20)	(7.20)	—	11.20	7.05	0.60	4.70	4.70	1.00	5Y6/1	A	I	L	中央
128	33号地-1 SR01	鉢形質	(7.20)	7.80	—	(10.20)	6.85	—	4.50	5.00	0.90	2S76/1	A	I	zA	中央
129	33号地-1 SR01	鉢形質	(6.30)	(7.60)	—	11.50	7.10	0.62	4.90	4.50	1.04	10Y26/2	A	I	ab	中央
170	33号地-1 SR01	鉢形質	6.60	7.80	0.52	11.80	7.50	0.64	5.10	4.90	1.04	5Y7/1	H	I	LR	中央
131	33号地-1 SR01	鉢形質	(6.00)	8.80	—	10.90	6.70	0.61	4.90	4.85	1.02	5Y6/4	A	I	LR	中央
132	33号地-1 SR01	鉢形質	(6.50)	(7.50)	—	12.00	7.50	0.63	4.80	4.70	1.02	5Y6/1	B	I	zR	中央
133	33号地-1 SR04	鉢形質	(6.50)	(7.90)	—	11.30	6.95	0.62	3.50	5.50	1.00	5Y6/4	A	I	zL	中央
134	33号地-1 SR04	鉢形質	6.70	(7.80)	—	11.80	7.55	0.63	4.90	5.10	0.96	2S77/2	A	I	L	中央
125	33号地-1 SR01	鉢形質	6.20	7.20	0.66	11.80	7.50	0.64	5.00	4.20	1.19	5Y7/1	B	I	LR	中央
136	33号地-1 SR01	土器鉢	(6.00)	(7.90)	—	12.00	6.80	0.57	4.50	4.00	1.13	10Y27/4	B	I	R	中央
137	33号地-1 SR01	土器鉢	(6.60)	(8.30)	—	12.20	6.50	0.56	4.70	4.00	1.18	10Y27/4	A	J	R	中央
138	33号地-1 SR01	土器鉢	(5.50)	(7.70)	—	12.0	6.55	0.57	4.70	4.00	1.18	5Y27/6	A	J	L	中央
139	33号地-1 SR01	土器鉢	(5.30)	(7.10)	—	11.80	6.80	0.58	5.00	4.00	1.25	2S76/6	B	J	R	中央
140	33号地-1 SR01	土器鉢	(4.90)	7.80	—	12.50	7.30	0.58	4.70	4.20	1.12	7S76/4	A	J	G	中央
141	33号地-1 SR01	土器鉢	(6.70)	(8.00)	—	12.0	6.90	0.58	5.10	3.50	1.06	7S76/6	B	J	R	中央
142	33号地-1 SR01	土器鉢	(6.60)	(7.45)	—	11.20	6.60	0.59	4.40	3.80	1.16	2S76/4	B	J	G	中央
143	33号地-1 SR04	土器鉢	(7.10)	(8.10)	—	12.0	6.65	0.54	5.00	4.30	1.16	10Y27/4	A	U	G	中央
144	33号地-1 SR04	土器鉢	5.70	7.70	0.74	12.50	6.80	0.54	5.30	4.30	1.23	10Y27/4	B	U	G	中央
145	33号地-1 SR01	土器鉢	(5.60)	(7.50)	—	11.30	7.20	0.64	4.40	4.40	1.00	5Y26/6	A	U	R	中央

No.	出土地区	種類	法 畳 (ax)	法 畳 (Y)	Y/U	Y/X	底面(Y)	底面(X)	底面(W)	V/W	色 調	実測図	タイプ	記号・括弧	ヘラ	スタンダード	脚注
174	146 33号樋-1 SR01	土師器	口幅(T) 体幅(U)	7.20 0.67	10.80 —	7.10 —	0.65 —	4.70 —	1.00 —	7.57RE/4	A	E				把手最大 径の公算	
147	33号樋-1 SR01	土師器	(5.00)	7.00	—	11.40	6.80	0.60	6.20	5.30	1.17	5YR7/6	B	E		上	
148	33号樋-1 SR01	土師器	(5.00)	7.00	—	10.60	6.20	0.58	4.80	4.40	1.09	5YR7/6	B	III		中央	
149	33号樋-1 SR01	土師器	5.30	6.30	0.84	10.70	6.90	0.64	4.90	4.40	1.11	10YR6/4	A	II		中央	
150	33号樋-1 SR01	土師器	(4.30)	7.50	—	11.00	5.80	0.63	5.30	4.60	1.15	5YR7/6	B	II		上	
151	33号樋-1 SR01	土師器	5.40	7.10	0.76	11.20	6.80	0.61	5.90	5.50	1.07	5YR7/4	A	II		上	
152	33号樋-1 SR01	土師器	(5.40)	7.15	—	10.80	6.20	0.57	5.80	5.20	1.12	7.57RE/3	B	II		上	
153	33号樋-1 SR01	土師器	(6.00)	7.20	—	10.30	6.10	0.59	4.70	4.70	1.00	25YR6/6	A	II		中央	
154	33号樋-1 SR01	土師器	(6.00)	7.20	—	12.50	7.20	0.58	6.30	4.90	1.29	7.57RE/4	A	N		上	
155	33号樋-1 SR01	土師器	(5.80)	7.20	—	12.30	7.20	0.59	5.70	3.80	1.50	7.57RE/4	A	N	R	上	
212	33号樋-1	土師器	(5.60)	7.80	—	12.20	6.85	0.56	4.80	4.80	1.00	10YR8/3	I			中央	
257	33号樋-1 西平	土師器	(5.20)	(9.25)	—	12.90	8.60	0.67	5.35	5.65	0.95	5YR7/6	A	E		中央	
258	33号樋-1	土師器	(5.20)	(9.20)	—	12.70	9.60	0.76	5.80	5.90	0.98	5YR7/6	A	E		上	
259	33号樋-1 中央部	土師器	(5.25)	(7.85)	—	13.00	8.60	0.66	5.85	4.90	1.22	7.57RE/4	N			上	
300	78街区-3区	土師器	(6.20)	(7.80)	—	11.05	6.35	0.57	(6.25)	5.45	—	25YR6/4	A	II		E	
301	78街区-3区	土師器	(5.00)	(6.65)	—	10.70	6.70	0.63	5.40	4.55	1.19	7.57RE/6	A	II	A	上	
302	78街区-4区	土師器	6.30	7.50	0.83	12.50	7.25	0.63	(5.50)	4.15	—	5YR7/6	A	W		上	
303	33号樋-1 黑色土上面	土師器	4.30	7.20	0.66	11.90	8.20	0.69	4.90	3.65	1.18	10YR7/4	A	E		中央	
220	38街区-4	土師器	—	—	—	(8.20)	—	—	(6.10)	5.20	—	25YR6/8	B	II		中央	
365	86号樋-1	土師器	5.60	(7.15)	—	12.50	7.70	0.62	5.70	4.65	1.23	5YR7/6	N			上	
366	10号樋-3 東平	土師器	6.00	7.05	0.85	12.90	7.55	0.59	6.15	4.70	1.30	10YR8/2	B	N		上	
254	303 1-2区	土師器	(5.80)	8.30	—	11.20	7.80	0.71	4.60	4.35	1.01	3YR5/6	A	I		中央	
280	309 2区	土師器	—	—	(5.60)	—	—	(5.60)	5.75	5.45	1.06	7.57RE/3	A	I		上	
910	34号樋-1 SR01	土師器	—	—	(4.55)	—	—	(4.55)	5.25	5.05	1.04	10YR8/2	B	I		中央	
911	南北2-3号樋-1	土師器	(6.70)	(8.75)	—	12.40	8.50	0.69	5.15	5.50	0.94	10YR8/2	B	I		中央	
912	32号樋-5	土師器	(8.80)	—	(9.60)	—	—	(9.60)	4.10	4.60	0.89	7.57RE/4	I			中央	
913	33号樋-5 滲漏	土師器	(5.50)	(6.65)	—	(11.40)	7.50	—	(4.70)	4.35	1.03	5YR7/6	A	II		上	
914	34号樋-1	土師器	—	(7.90)	—	(12.50)	—	—	(6.20)	5.00	1.94	7.57RE/4	B	IV		上	
915	226	土師器	5.20	6.60	0.79	11.50	7.60	0.66	5.55	4.75	1.17	25YR6/6	II			上	
916	34号樋-1	土師器	—	—	(8.80)	—	—	(8.80)	5.45	4.75	1.15	10YR8/3	A	II		上	
917	33号樋-5 滲漏前面	土師器	(4.20)	(6.30)	—	11.60	6.85	0.59	5.80	4.00	1.45	10YR8/2	A	II		上	

No.	出土地名	標識	性質	口径(T)	外周径(U)	T/U	幅員(O)	高さ(Y)	V/X	最大(V)	底部(W)	V/W	色 調	実測面	タイプ	記号・仮名	ヘラ・スクワード	粘土	泥手最大 径の位置
147	1051	33号窯-1 SR01	須恵質	6.80			12.00	7.10	0.59			2SY5/2		1					
	1052	33号窯-1 SR01	土師質	7.90			11.30	7.20	0.64	—	—	2SY5/3		1					
148	1053	33号窯-1 SR02	須恵質	(7.00)			12.20	7.50	0.61			2SY4/2		1					
149	1054	33号窯-1 SR02	土師質	6.80			12.00	7.00	0.58	4.20	4.20	5YR5/6		1					
151	1055	33号窯-1 SR04	土師質	6.00			11.40	6.80	0.60	4.20	4.60	0.91	2SY6/4		1		R		
159	1056	33号窯-1 SR04	土師質	5.50			11.80	6.50	0.55	4.20	4.70	0.89	10YR6/4		II				
	1057	33号窯-1 SR04	土師質	6.80			11.90	7.20	0.61	4.70	4.80	0.98	2SY6/4		III				
150	1058	33号窯-1 SR04	土師質	6.30			(12.10)	8.40				5YR6/6		1	R	R			
1551	33号窯-1 SR01	土師質	7.00				11.80	7.20	0.61	4.50	4.30	1.05	5YR5/5		1		R	I	
1569	33号窯-1 SR01	土師質	6.40				11.50	6.60	0.57			5YR6/6		III					
1060	33号窯-1 SR01	土師質	6.90	7.20	0.96	11.50	6.90	0.59	4.50	4.30	1.05	10YR4/3		1	L		I		
1062	33号窯-1 SR01	須恵質	6.20				(12.00)	6.50				10YR5/3		1					
1063	33号窯-1 SR01	須恵質	8.50				(7.50)	6.90				5YR2/2		1					
280	918	25G	土師質	(5.00)	7.10	—	13.10	8.00	0.61	6.30	5.25	1.20	75YR7/6	B	N			I	
919	34号窯-1	土師質	(5.40)	(7.00)	—		(13.70)	—	—	6.00	4.60	1.30	5YR6/4		IV			I	
920	34号窯-1	土師質	—	7.00	—		(9.35)	—	—	6.30	4.65	1.36	5YR7/6	A	N	R		I	
921	10号-3 西	土師質	—	6.40	—		(11.65)	—	—	4.90	4.20	1.17	75YR6/6	B	I			I	
	33号窯-1 SR02	土師質	6.20				12.10	8.10	0.67			5YR5/6		1				I	
	33号窯-1 SR02	土師質	8.00				11.80	7.60	0.64			75YR6/3		1				I	
	33号窯-1 SR04	土師質	(6.00)				12.10	6.90	0.57	4.50	4.40	1.02	5YR5/4		1			I	
	33号窯-1 SR04	土師質	(6.50)				10.10	7.10	0.70	4.50	4.30	1.05	10YR6/3		II			I	
	33号窯-1 SR04	須恵質	6.60				(7.50)					5YR4/1		1			II		
	33号窯-1 SR01	須恵質	7.20				(10.20)	7.20				5YR2/		1					
	33号窯-1 SR01	須恵質	7.20				(9.80)	7.10				5YR2/		1					
	33号窯-1 SR01	須恵質	(8.30)				(12.00)	7.40				5YR4/1		1					

第5表 富島遺跡金属器計測表

No.	出土地区	遺構・土層	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1	2003139 33号縦-1	ST01槽内	耳環	2.90	3.10	0.80	4.60	B地区
2	2003139 33号縦-1	黒褐砂	鉄瓶	7.05	3.30	0.65	13.00	B地区
3	200317 4G		釘	5.25	0.80	1.18	8.30	
4	2003139 33号縦-1	黒褐砂	釘	6.55	0.48	0.80	10.60	
5	2004314 歩道2号縦-2		釘	(7.00)	1.30	0.82	10.40	
6	200317 6G		釘	(4.08)	0.60	0.46	2.50	
7	2004188 58街区-2		釘	3.12	0.90	0.45	1.80	
8	2003133 33号縦-3	機械掘削	釘	(3.80)	1.08	1.00	4.70	B地区
9	2004314 歩道2号縦-2		釘	(5.15)	0.65	0.55	3.30	
10	2002054 77街区-1	3層	釘	(2.70)	0.60	0.45	0.90	E地区
11	2003125 10号縦-3		釘	(2.75)	0.55	0.40	1.10	B地区
12	2003070 10号縦-2	黒砂	釘?	(3.72)	0.90	0.70	5.40	C地区
13	2003153 33号縦-3		釘	(3.00)	0.75	0.98	4.80	B地区
14	2003070 80街区-1	黒灰砂	釘	(2.10)	0.50	0.43	1.20	C地区
15	2003139 33号縦-1	黒褐砂	釘	(2.95)	0.55	0.50	1.10	B地区
16	2003125 10号縦-3	貝層	不明	(4.60)	2.30	0.60	8.00	C地区
17	2003125 10号縦-3	黒褐砂	不明	(3.10)	2.00	0.60	5.60	C地区16と同一
18	2003139 33号縦-1	黒褐砂	不明	(2.80)	2.65	0.80	8.40	
19	2003125 10号縦-3		不明	(5.20)	1.95	0.40	8.20	C地区
20	2003153 10号縦-3	機械掘削	不明	(3.25)	3.20	0.40	2.70	C地区
21	2002054 77街区-1	3層	不明	(3.43)	1.68	0.89	12.60	E地区
22	2003139 33号縦-1	黒褐砂	不明	(2.50)	(4.20)	0.20	3.60	E地区
23	2003153 10号縦-4	6層	不明	(5.65)	2.42	0.90	20.20	C地区
24	2003153 10号縦-4	6層	不明	(6.90)	2.68	0.90	29.80	C地区23と同一
25	2003153		不明	(5.92)	(4.35)	0.69	19.40	
26	2002054 77街区-1		不明	(5.00)	(3.10)	0.70	22.80	E地区
27	2003017 14G		不明	(6.50)	1.90	0.68	19.40	
28	2003070 34号縦-1	黒灰砂	鍍	(8.50)	3.00	1.30	28.40	D地区
29	2003070 34号縦-1	黒灰砂	不明	(7.90)	5.50	4.20	108.00	D地区 銚斧か?
30	2003125 10号縦-3	黒褐砂	ガラス簪	(3.20)	(3.12)	1.50	14.00	C地区
31	2002054 74街区-1	焼土層	ガラス簪	(5.41)	(4.00)	2.45	67.50	

() 数値は残存値を示す

第6表 富島遺跡錢貨計測表

No.	出土地区	土層	錢種	法量(㎜)					面積(g)	備考	
				外径(A)	内径(B)	銭径(C)	内径(D)	郭幅(E)	孔径(F)		
32	33号縦-1	黄灰沙付	寛永通寶	25.10	20.50	24.90	20.50	1.00	7.00	1.30	2.60
33	77街区-1	2層	寛永通寶	25.20	20.00	25.30	20.00	0.80	5.50	1.40	3.60 文鏡
34	10号縦-3	黒褐砂	寛永通寶	25.50	20.50	25.40	20.50	1.00	5.50	1.70	4.20 文鏡
35	77街区-4		寛永通寶	25.30	20.00	25.10	25.50	0.80	6.00	1.50	2.70 文鏡
36	77街区-1	2層	寛永通寶	22.70	18.00	22.80	18.20	0.60	7.00	1.20	2.40
37	確認3G		寛永通寶	23.60	19.00	23.20	19.00	0.60	6.50	1.50	4.20
38	確認6G		寛永通寶	22.80	18.00	22.80	18.20	0.50	6.50	1.00	2.10
39	45街区-1		寛永通寶	23.00	19.00	23.00	19.00	1.00	6.50	1.10	2.60
40	79街区-2		寛永通寶	24.70	20.50	24.80	20.50	0.50	6.50	1.10	2.10
41	確認10G		寛永通寶	(15.50)		23.70		0.50	6.50	1.60	(0.70) 鉄鏡
42	10号縦-3	貝層	天保通寶	32.80	27.50	49.50	44.00	2.00	6.50	3.00	20.40
43	77街区-1	2層	一錢	28.00	26.00	28.00	26.00			1.50	6.80
44	77街区-4	茶褐砂	一錢	23.50	21.50	23.10	21.50			1.40	3.80
45	14号縦-7	精金	十錢	22.00	20.50	22.00	20.50	0.80	4.50	1.40	3.40 大正11年
46	確認6G		一錢	23.20	21.50	23.10	21.50			1.40	3.70

() 数値は残存値を示す

VI 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷 薫
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・藤根 久

1. はじめに

富島遺跡より検出された炭化物について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表1のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、曆年代を算出した。

表1 測定試料及び処理

測定番号	通常データ	試料データ	前処理	測定
PLD-5626	調査番号：2003070	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5627	調査番号：2003146 No.1	試料の種類：炭化材（枝） 試料の性状：最外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5628	調査番号：2003146 No.2	試料の種類：炭化材（枝） 試料の性状：最外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5629	調査番号：2003146 No.3	試料の種類：炭化材（枝） 試料の性状：最外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5630	調査番号：2003146 No.4	試料の種類：炭化材（枝） 試料の性状：最外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5631	調査番号：2003146 No.5	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5632	調査番号：2003146 No.6	試料の種類：炭化材（枝） 試料の性状：最外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5633	調査番号：2003146 No.7	試料の種類：炭化（樹皮） 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行った¹⁴C年代、14C年

代を曆年代に較正した年代範囲、曆年較正に用いた年代値を、図1に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行ふために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、曆年較正の詳細は以下の通りである。

曆年較正

曆年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期5730 \pm 40年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の曆年較正にはOxCal3.10 (較正曲線データ : INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 曆年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の曆年代範囲であり、同様に 2σ 曆年代範囲は95.4%信頼限界の曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。それぞれの曆年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表2 放射性炭素年代測定及び曆年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を曆年代に較正した年代範囲		曆年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲	
PLD-5626	-24.36 \pm 0.11	-100 \pm 20	較正曲線範囲外	較正曲線範囲外	-102 \pm 22
PLD-5627	-28.19 \pm 0.17	1265 \pm 25	<u>690AD (59.4%) 755AD</u> 760AD (8.8%) 775AD	<u>660AD (93.4%) 780AD</u> 790AD (2.0%) 810AD	1265 \pm 23
PLD-5628	-24.83 \pm 0.13	1235 \pm 25	690AD (32.8%) 750AD 760AD (39.6%) 820AD 840AD (6.8%) 860AD	680AD (95.4%) 880AD	1235 \pm 23
PLD-5629	-25.85 \pm 0.13	1250 \pm 20	690AD (56.3%) 750AD 760AD (11.9%) 780AD	<u>670AD (92.9%) 830AD</u> 840AD (2.5%) 860AD	1252 \pm 22
PLD-5630	-27.53 \pm 0.12	1250 \pm 25	<u>690AD (54.4%) 750AD</u> 760AD (13.8%) 780AD	680AD (95.4%) 870AD	1249 \pm 23
PLD-5631	-27.23 \pm 0.17	1245 \pm 25	690AD (49.8%) 750AD 760AD (13.9%) 780AD 790AD (4.5%) 810AD	680AD (95.4%) 870AD	1245 \pm 23
PLD-5632	-26.55 \pm 0.18	1270 \pm 25	<u>685AD (37.2%) 725AD</u> 735AD (31.0%) 770AD	660AD (95.4%) 780AD	1271 \pm 24
PLD-5633	-29.9 \pm 0.12	1240 \pm 25	690AD (42.3%) 750AD 760AD (25.9%) 810AD	680AD (95.4%) 870AD	1239 \pm 23

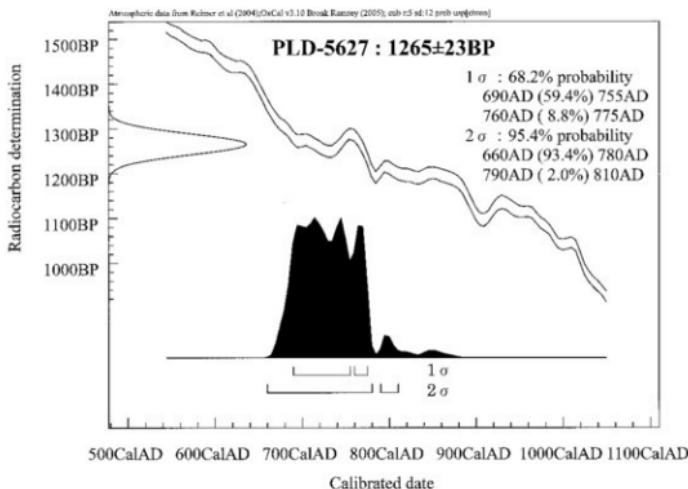
4. 考察

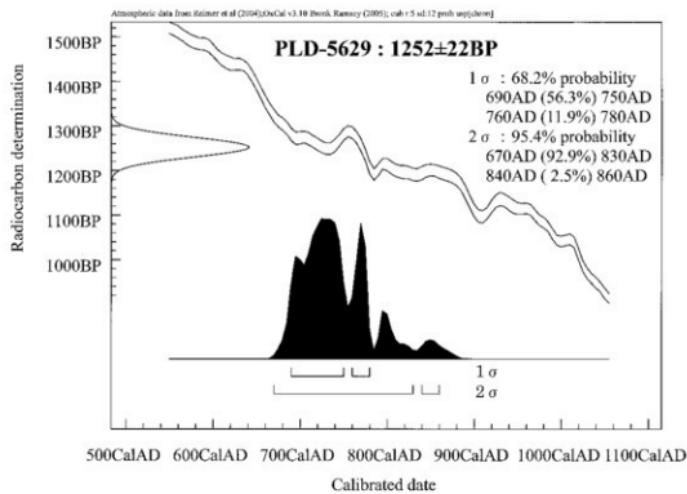
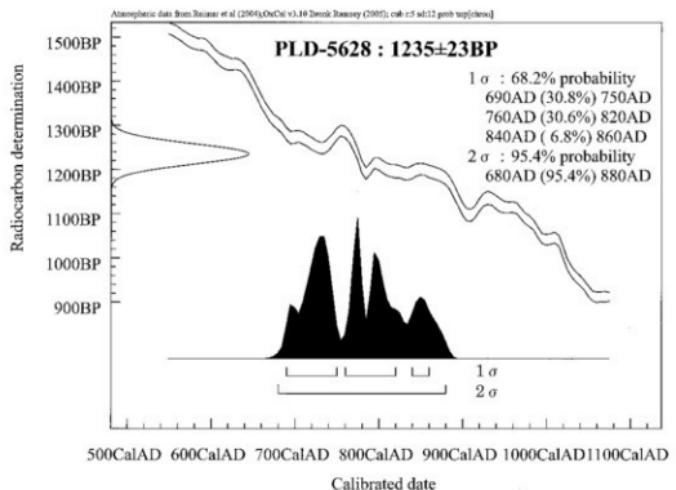
試料について、同位体分別効果の補正及び曆年較正を行った。得られた曆年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。なおPLD-5626：調査番号2003070については年代値が新しく較正曲線範囲外であったため¹⁴C年代のみを記載した。

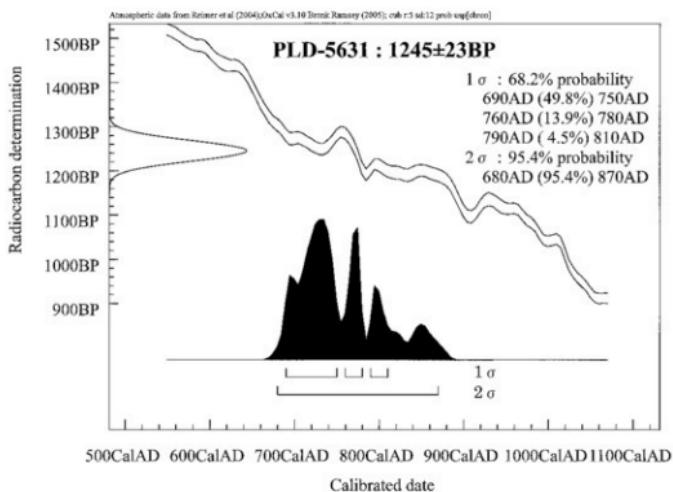
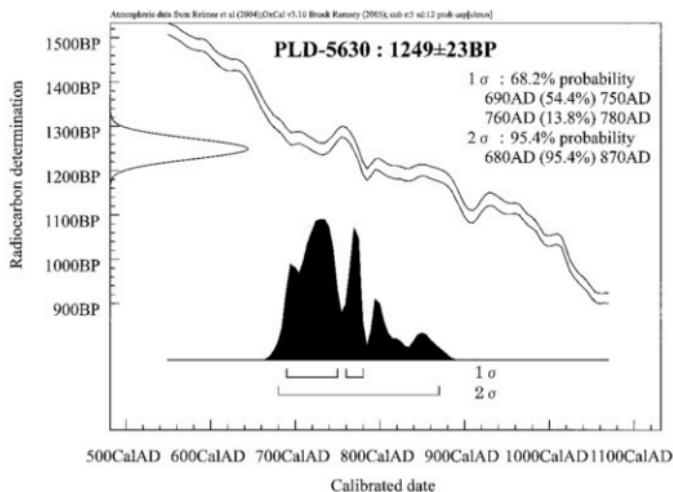
調査番号：2003070（PLD-5626）以外の試料は、同一取上げ試料内から抽出した試料であるが、いずれも 1σ 曆年代範囲においてCal AD 690–755年、 1σ 曆年代範囲においてCal AD 660–880年の年代を示している。

参考文献

- Bronk Ramsey C.(1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37(2), 425-430.
- Bronk Ramsey C.(2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43(2A), 355-363.
- 中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代. 3-20.
- Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmeli, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmyer. (2004) Radiocarbon 46, 1029-1058.







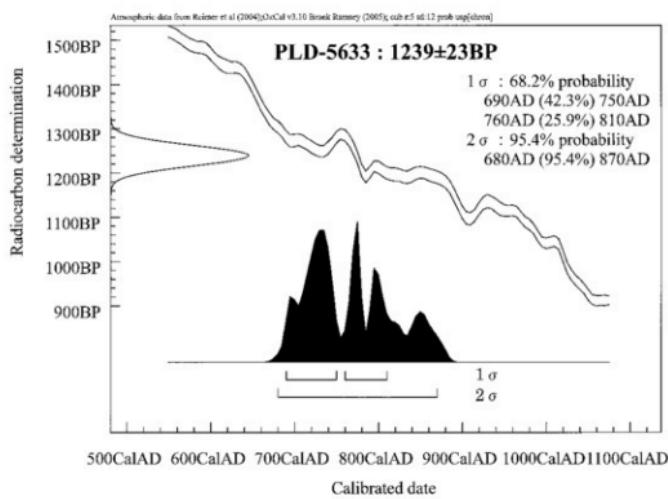
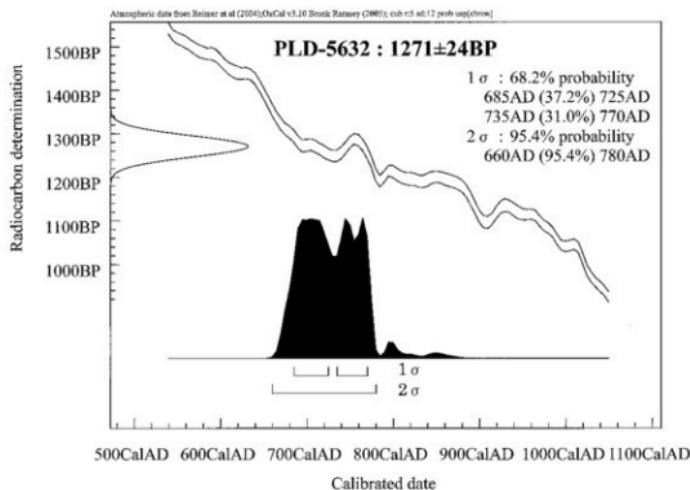


図1 曆年較正結果

VII おわりに

富島遺跡の調査は、平成8年の確認調査から整理調査までを数えると11年にまたがった。富島地区土地区画整理事業は兵庫県南部地震の震災復興事業として、兵庫県教育委員会が実施した最後の事業である。土地区画整理に伴う調査は掘削を伴う部分を調査対象とすることから小面積であることが多い。その中でも阪神間などの同じ事業と比べると地理的に狭いこともあって、一段と小面積の調査となった。調査は工事進捗に合わせて実施した。調査計画が立てにくく、調査日数も通常調査より確定し難いものがあった。その中で、担当者もやりくりして行うという、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所の調査としては異例の調査となった。事業主体もはじめの4年間は土地区画整理事業組合、次に都市基盤整備公団（のちに独立行政法人）、最後の整理作業は淡路市と変化していった。それに合わせて、調査主体も当初は北淡町教育委員会で、5年目から兵庫県教育委員会に変わった。確認調査2年目（平成9年度）は北淡町教育委員会担当者1人では震災復興調査に対応することが出来なかつた。そのため、震災復興調査の基本方針に則って兵庫県教育委員会に支援依頼があり、震災復興班職員が担当した。鹿児島県と鹿児島県からの派遣職員による調査であった。担当者のなかには故人となった水口富夫氏も含まれる。震災復興調査に尽力をされたもので、その1つが富島遺跡であり、多くの成果を上げている。本調査範囲をほぼ確定した調査でもあった。小面積の積み重ねではあったが、多くの方々の努力と協力によって多くの成果を上げることが出来た。関係各位に感謝致します。そして、十分ではない当報告が活用いただけることを願うものです。

11年間のうち、本調査は4年度にわたって調査を実施した。26回で計4,981m²の調査を行ったことになる。その結果、別表のように多くの遺構を検出することが出来た。それに加えて富島遺跡の性格を示す漁労具・製塩関係の良好な資料に恵まれた。遺構は縄文時代後期の土坑が4基あり、最も古い遺構である。次に弥生時代後期の土坑が1基あり、古墳時代後期になって集落は増大する。堅穴住居跡1棟と石棺5基と製塩炉が該当する。居住域・墓域・生産域を確認したことになり、3者の調査例は稀少例であろう。生産内容が製塩であることは数少ないものであり、淡路という地域的な観点からは御食国淡路を象徴する遺跡の調査といえる。奈良時代になると、方形掘り方の柱穴や墨書き土器など官衙的な性格が看取される。製塩遺構も継続しているが、減少している。平安時代以降縮小するが、遺跡は常呂を継続している。遺構としては掘立柱建物跡6棟と焼土坑・構列などと一般的な遺構が確認されている。遺物はほぼ検出遺構に順じているが、遺構のない時期の遺物も出土しており、縄文時代中期から現代まで継続して生活していることが明らかとなった。

第7表 富島遺跡遺構一覧表

地区名	上層(中近世)			下層(縄文～奈良)				
	掘立柱建物跡	井戸	土坑	堅穴住居跡	石棺	製塩炉	土坑	旧河道
A							SK03～06	
B	SB01・02	SE01	焼土坑		ST01～05	SL01～03		SR01
C		SE01				SL01～05		
D		SE01				SL01～02		旧河道
E	SB01～04	SE01				集石1・2	SK01～03	
F		SE01		SH01			SK01～03	

縄文時代後期は土坑を検出しただけで、性格は明らかにはしがたい。A地区からE地区にかけての微高地で生活していたと思われる。土器は小片のものが多く、不明な点が多い。確認調査での集石など注目されるが未だ不明瞭である。そのなかで注目されるのが、近畿では5例目となる土面の破片である。左目周辺の破片で、目と眉が表現されている。個遺跡の調査によって淡路でも大規模な集落の存在が明らかになったが、富島遺跡のような小規模な遺跡で上面を保有していたことは重要である。当時の精神構造を考える点でも興味深い。

弥生時代になると、中期後半から後期にかけての土器が出土しており、F地区からは後期後半の土坑が調査されている。津名郡での遺跡の消長と軌を一にしており、富島遺跡でも中期後半から生活を再開したものと思われる。1点だけF地区SK01の下層から前期末の壺が出土しているが、遺構は後期である。中期の土器の大半は磨滅が顕著である。後期から古墳時代初頭までの土器は量的には僅かに多い程度であるが、保存状態がよくなっている。布留期から6世紀中頃までは遺物は少なくなり、F地区に限られる。遺構ではSK01新しい段階の土師器が須恵器と共に伴っている。TK23前後の時期である。遺跡の規模は縮小していたようである。

再開するのは6世紀末からで、奈良時代にかけて富島遺跡の中心となる時期である。堅穴住居跡は1棟だけしか確認していないが、南側の段丘面に展開していた可能性が高い。石棺は集中して検出しており、7世紀前半の埋葬形態が把握されて興味深い。特に古墳がほとんど知られていない淡路市（津名郡）内での検出だけに、その資料的価値は高い。生産域に接して墓を築いていることは注目される。近隣の製塙遺跡である貴船神社遺跡・畠田遺跡でも同様で、石棺と製塙炉が近接して存在する。石棺は個々に変化がある。大きさは板状の壺（角張ってなく、角は丸くなっている）を使用しているが、用石法など異なっている。規模は1.5~1.75m、幅0.3~0.5m、高さ0.2~0.3mである。石棺4だけ長さが2.5mと長く、積み方など異なっている。床は石棺1と石棺3が小礫を敷いている。石棺2だけ蓋石が残存しており、それ以外は木蓋などの可能性が考えられる。石棺2は石枕を保有している。石棺4以外は骨が残っていた。石棺1・2は頭蓋骨以外に四肢骨も見られたが、石棺3・5は頭蓋骨だけであった。副葬品は石棺1の耳環だけである。細かい主軸方向は異なっているが、大局的には東西に主軸を持っている。石棺3は西側に石棺1・2・5は東側を頭位にしている。石材のなかには火を受けたものも多い。貴船神社遺跡の石棺も被熱しており、製塙遺跡内の埋葬の特徴であろうか。

富島遺跡の中心時期の古墳時代末から奈良時代にかけての遺物の特徴として、製塙土器・漁具・官衙の遺物がある。製塙土器は富島遺跡を代表するものであるが、製塙遺跡として大規模にも長期間に渡って活動していない。貴船神社遺跡や浜田遺跡の同じ北淡町内の遺跡と比較すると、製塙土器の出土量は少なく、何よりも密度が希薄である。濃密な厚い包含層は今までの調査では確認されていない。製塙土器もB地区SR01から1点の脚台Ⅲの脚台が出土している以外は丸底Ⅱ~Ⅲにかけては限られる。富島遺跡の盛行期に製塙作業を行っていたものと思われる。マダコ壺を焼塙用に用いていたことや製塙土器そのものは貴船神社遺跡との共通性を感じさせる。雷鉢の関係ではないが、生産地の貴船神社遺跡と官衙的性格を有する富島遺跡の親縁性が求められるとともに、官衙の集落でも製塙作業を行っていることは注目される点と考えられる。貴船神社遺跡は丸底Ⅲの時期までは継続しているが、口縁部が内傾するキャリバー形の製塙土器まで、律令期の厚手の時期までは継続しない。が、富島遺跡はこの時期の土器も出土しており異なる。布の圧痕のある土器は認められない。この各々の時期の変化が淡路での小期に分類されるものと想定している。

漁具としてはタコ壺と上縫がある。タコ壺はイイダコ壺とマダコ壺があり、イイダコ壺は古墳時代から奈良時代のもので、2時期とともに漁具としての1単位（1縄）と想定される状態で出土したことが評価される。県下では神戸市西区玉津田中遺跡や尼崎市東園田遺跡で出土例がある。コップ形の時期の製塙土器（丸底Ⅰ）は出土していないことから、富島遺跡では漁労を行い生活しているものの製塙活動を行っていないことが判る。民俗例でも数十から百個以上を単位としていることから、多量に出土しているようでも1単位と考えても問題はないのではと思われる。1縄で

一括品であることから、使用時の時期的な差はないものであるが、形態差は認められる。本来的な時期差は認められ、把手部の占める割合（第4表イダコ壺計測表のY/X・V/W）が高いものが新しい傾向を示しているものと予想される。個数があるので観察すると製作者の個性が認められる。マダコ壺は長期間に渡って作製使用されている。古墳時代から現代に至るまで使用されているようである。底部に穿孔があるものがあることから、紐の縛り方に種類があるようである。強く焼成されたものがあることから、製塩用にも使われていたと考えている。イダコ壺の中にも2次焼成を受けたものがある。

土錘は管状土錘が圧倒的に多く、時代も全時代に及んでいる可能性が高い。近現代のものには陶器もあり転用品もある。新しい時期の方に大形品が多いようである。棒状有孔土錘は富島遺跡の盛行期の遺物であろう。右溝管状土錘も時期が限定できる数少ないタイプである。分類だけは行ったが、細かい検討が可能なものであり、今後の課題である。

官衙的遺物には墨書き土器、土馬、須恵器鉢、土師器皿、高杯・盤と瓦がある。墨書き土器からは明確な性格は得られない。瓦は小振りのものである。他の遺物から考えて奈良時代末頃と思われ、その時期にすると小さいのが特徴である。また、それ以外の遺物の中に竈の破片が多く見られるのも注意を引く。羽口などとともに生産に関連するのであろうか。

報告書作成過程で図版を組んでいて、さながら富島地区における復興事業の写真集の親が強いと思った。4年間の間に新しい建物が並び、町が再生されていった。港町特有の道の狭い路地に緊急車両が入れるように整備されつつあった。調査には一貫して舟本遺跡をはじめとして震災前から調査に参加戴いた地元の方々の協力を得たことは、順調に調査が行えた要因であった。現場に見学に来てくれた小学生に製塩遺跡の説明をした時に、貴船神社遺跡を知つていてくれたことは担当者として幸せであった。地域における文化財活動が根付いてくれた証拠であろう。調査途中に生田小学校の岸本先生が製塩遺跡を教材に選んでくれたことも幸いであり、子供たちをはじめとする地域密接の資料となつたようだ。そのように富島遺跡のことも長く語り継いで戴ければ望外の喜びである。



土馬

報告書抄録

ふりがな	としま					
書名	富島遺跡					
副書名	富島地区震災復興土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
卷次						
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告					
シリーズ番号	第321冊					
編著者名	深井明比古・渡辺昇・平田博幸・藤田淳・川吉知子・西口圭介・鐵英記・パレオラボ					
編集機関	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所					
所在地	〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号 TEL. 078(531)7011					
発行年月日	2007年3月15日					
所収遺跡名	所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	調査番号	北緯 東経		
富島遺跡	兵庫県淡路市（旧津名郡北淡町）富島	28226	2001001	34° 134°	2001.4.10~19	570m ²
			2002054	32° 55°	2002.6.17~7.16	1,220m ²
			2002182	45° 32°	2002.11.11~19	142m ²
			2002198		2002.12.2	12m ²
			2002218		2002.12.20	307m ²
			2002228		2003.2.4	60m ²
			2003070		2003.4.24~5.20	320m ²
			2003125		2003.7.2~7.3	60m ²
			2003139		2003.7.28~8.6	233m ²
			2003146		2003.8.19	52m ²
			2003153		2003.9.1~9.5	134m ²
			2003163		2003.9.18	65m ²
			2003171		2003.9.29~10.10	318m ²
			2003208		2003.11.13	40m ²
			2003222		2003.12.2	254m ²
			2003237		2004.1.15~1.16	124m ²
			2003242		2004.1.21	161m ²
			2003288		2004.3.3	18m ²
			2004042		2004.4.8	29m ²
			2004173		2004.5.31	29m ²
			2004188		2004.7.8	40m ²
			2004195		2004.7.27~7.29	168m ²
			2004211		2004.9.8~9.15	533m ²
			2004268		2005.1.12	32m ²
			2004303		2005.3.1	10m ²
			2004314		2005.3.17~3.18	50m ²
					確認	307m ²
					本発掘	4,981m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
富島遺跡	集落跡	古墳時代	堅穴住居跡・石棺	須恵器・土師器・耳環		
		奈良時代	製塙炉・掘立柱建物跡	須恵器・土師器・製塙土器		
		鎌倉～室町時代	掘立柱建物跡	青磁・白磁・土鍤・錢貨		

兵庫県文化財調査報告 第321冊

淡路市（旧津名郡北淡町）

富島遺跡

2007年3月15日発行

編 集 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号

発 行 兵庫県教育委員会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷 株式会社 精文舎

